

WAI 技法を用いた 自我の実証的研究 (3)

1. はじめに.....	5
2. 基準書による反応頻度の分析.....	9
3. WAI 技法を用いた達成動機分析.....	25
4. おわりに.....	33
5. 文 献.....	37
6. 資 料.....	45

本モノグラフに掲載されている研究成果は、多くの方々の協力によって得られたものです。データを提供して下さった被験者の方とデータ収集に御協力いただいた方々に心より御礼申し上げます。特に、データ収集においては、多くの学校の先生方、企業の方々、様々な団体の方々、榎田ゼミナールのOB、OGの方々に御協力をいただきました。これらの方々に対し、この場を借りて、心より感謝の意を表する次第です。

本モノグラフに掲載されている「最終版基準書」は、慶應義塾大学文学部人間科学専攻の榎田ゼミナールの第14期生(1984年卒)から22期生(1992年卒)の、およそ10年にも及ぶ研究努力の結果得られたものです。ゼミ生の皆さんには、数千にも及ぶ膨大なデータの整理、分類評価、集計をしていただきました。これらの皆さんに心より御礼を申し上げるとともに、その永年にわたる努力に対し敬意を表したいと思います。特に、21期生と22期生の皆さんには、基準書の最後の改訂作業と最終的な集計に携わっていただきました。ゼミ長の竹内直規君(1991年卒)をはじめ、ゼミ員の皆さんに対し感謝の意を表します。また、大学院のパーソナリティ実習の受講生の皆さんにも、データの評定をお手伝いいただきました。心より御礼申し上げます。

第3章の達成動機に関する分析では、当時、放送大学の学生であった大塚光枝さん(1991年卒)に、データの収集と評定において御協力いただきました。ここに記して深く感謝の意を表するものです。また、この研究の過程でいろいろとお世話になった放送大学の星薫先生に心より御礼申し上げます。

最後になりましたが、この研究プロジェクト全般にわたって、御支援、御協力をいただいた伊藤隆一氏、小林和久氏、弘田直人氏、兼高聖雄氏に深く感謝いたします。

執筆者紹介

- まきた ひとし (慶應義塾大学文学部教授)
- いわくま しろ (慶應義塾大学新聞研究所研究員)
- にしむら まゆみ ((株)キューピッド)

1

はじめに

1. プロジェクトの目的	5
2. プロジェクトの研究経過	7

本モノグラフは、われわれが行なってきた研究プロジェクト、「WAI 技法を用いた自我の実証的研究」の成果をまとめたものである。特に本稿は、WAI 技法の一般的な特性に関する分析の一応のまとめとなる。これは、1983 年よりはじめられたものであるが、9 年目にして 1 つの区切りが得られたことになる。このプロジェクトに関しての中間的なまとめは、「組織行動研究」の No. 16 (榎田・岩熊, 1990), No. 19 (岩熊・榎田, 1991b) に掲載したが、本章では、全体的な流れと本モノグラフの位置づけを明確にするために、まず、プロジェクトの目的と研究経過について述べることにする。

1. プロジェクトの目的

WAI 技法とは、被験者が「私は誰でしょう? (Who am I?)」という問いに自問自答して、20 通りの回答を自分自身の言葉で記述するというものである。これは、Kuhn と McParland (1954) によって考案されたものであるが、研究者の分析視点に制約されずに、被験者の自発的な反応が得られるという利点を持っている。そのため、社会学、

社会心理学、発達心理学、臨床心理学、パーソナリティ研究などの様々な領域で利用されてきた。この技法で得られる反応は、被験者が自分の言葉で記述した被験者自身の姿、即ち、被験者の self-image ということができる。そこで、われわれは、この技法を用いてパーソナリティ研究における重要なテーマの 1 つである「自我」あるいは「自己」を、実証的に分析する試みを行なうことにした。

われわれの目的を具体的に述べると、以下の 5 つにまとめることができる。

第 1 の目的は、WAI 技法を用いることにより個人の self-image を具体的に捉え、それがどのような範囲に及ぶかを把握することである。ひとりひとりの個人は、様々な self-image を持っている。そして、それはすべて、個人の“私”あるいは“自分”を表している。このような self-image を具体的に集めて分析することによって、self-image にどのようなバリエーションがあるのかが明らかになる。しかも、このようにして集められた self-image の全体は、自我あるいは自己の内容や領域をも反映することになる。もちろん、self-image に自我・自己のあらゆる側面

現れるというわけではないが、self-image に現れるものはすべて、自我・自己の領域に含まれるものであり、しかも、その主要な側面を反映するものと考えられる。従って、self-image を具体的に収集し、分析することは、自我・自己の理解において大きな意味があるものと思われる。

第2の目的は、様々なself-imageがどのような頻度で現れるのかを分析することである。具体的に集められたself-imageの中には、多くの個人に共通して現れるものもあれば、非常に稀にしか現れないものもある。このようなself-imageの分布を調べることによって、self-imageの一般的な傾向が理解される。しかも、self-imageの中には、ある集団では一般的であっても、他の集団ではそうでないものもある。集団に分けてself-imageの頻度を分析することにより、集団の特徴も明らかになる。特に、性別や年齢によって集団を分けることによって、self-imageに現れる性差や、self-imageの発達のな変化も捉えられるであろう。

第3の目的は、WAI技法に現れるself-image間の相関関係あるいは共変関係を分析し、それに基づきself-imageの分類や被験者の分析を行なうことである。WAI技法を用いることによって多様なself-imageが得られるが、それらの中には、1人の被験者の反応の中に同時に出現しやすいもの、あるいは、1人の被験者の反応の中に同時に現れることのあまりないものがある。このようなself-image間の相関関係を体系的に分析することによって、self-imageの全体的な構造を知ることができる。この構造には、多様なself-imageがそれらの間の相関関係を反映するように位置づけられ、これに基づいてself-imageを分類することも可能となる。ただし、この場合の構造とは、個人内に想定される構造というよりも、むしろ、個人をその中に位置づけるような構造となる。と言うのも、この構造には、多くの個人の多様なself-imageが含まれており、各個人のself-imageは、この構造の一部分に位置づけられることになるからである。結果として、このような構造から、自我・自己の領域や範囲の問題や、self-imageの個人差についても体系的な理

解が進むものと思われる。

第4の目的は、self-imageが個人内で相互にどのような関連を持っているかを分析することである。個人の持つ様々なself-imageは、個々に独立して存在しているのではなく、相互に関連し合い、1人の個人の“私”を構成している。つまり、このような関連性から、個人のself-imageの構造を捉えようというものである。この場合の構造とは、Rogers (1951)の言う自己の構造に近いもので、個人がそれぞれのself-imageをどのように認知的に関連づけているかというものである。このような構造の把握は、個人のパーソナリティを理解する上でも有効なものとなるであろう。一方、個人が持つself-imageの内容は人様々であり、従って、それらから構成される構造も多様なものと考えられる。しかし、このような構造を個人間で比較することにより、多くの個人に共通する特徴が抽出できれば、self-imageがどのように構造化されているのかについての、一般的な理解も進むものと思われる。

そして、第5の目的は、WAI技法をパーソナリティ診断を行なうための技法として確立することである。これは、上に挙げた目的の達成とも大きく関わっている。まず、WAI技法によって個人の何を知り得るのかということを明確にしておかなければならないが、これは、WAI技法にどのような範囲のself-imageが現れるかを知ることによって、自ずと明らかになるであろう。そして、WAI技法を用いて個人を理解しようとする場合、その個人の反応が一般的なものであるのか、それとも、特異な反応であるのかということ判断できなければならない。これは、性別や年齢も考慮した反応の一般的な傾向を把握することによって、ある程度可能になるものと思われる。しかし、このようなことだけからでは、WAI技法をパーソナリティ診断に利用する上での十分な情報は得られない。そのためには、WAI技法を実際に個人に施行し、それに基づいてパーソナリティ診断を行なうとともに、他の技法で得られた情報も含めて比較検討して、WAI技法の特性をよく理解することが必要であろう。

2. プロジェクトの研究経過

以上のような目的に基づき研究が進められてきたが、次に、これらの目的に対する研究経過について述べる。まず、第1の目的である self-image の内容と範囲の把握は、“基準書”の作成を通じて行なってきた。基準書とは、WAI 技法で得られた具体的な反応を内容分析し、意味内容の類似した反応を集めて、具体的に列挙したものである。これを反応カテゴリーとして、個々のWAI 反応を分類することにより、第2の目的である self-image の頻度分布の把握も可能となる。基準書は、1983年度にその最初の版が作成されて以来、改訂が重ねられ、精緻化が進められてきた(岩熊・榎田, 1991b; 榎田・岩熊, 1988a; 榎田・岩熊, 1988b; 榎田・岩熊, 1990)。改訂の手続きは、基準書に基づき WAI 反応の分類評定を行ない、その集計結果や分類評定の際の問題点等を検討して、新たな基準書を作成するというものである。これに平行してデータの拡充も行なわれ、改訂された基準書は、さらに多くのデータの分類・集計に用いられることにより検討される。このような手続きを数年にわたって繰り返すことによって、WAI 反応の多様な内容を、可能な限り少数のカテゴリーによって表現できるように基準書を改訂してきた。1983年度版基準書は約1,800のカテゴリーで構成されていたが、1989年度版は197のカテゴリーでできている。データ数も1989年度には、約14,000名のWAI 反応が分析された(岩熊・榎田, 1991b; 榎田・星・岩熊, 1991)。1989年度版基準書は、ほぼ完成に近いものと考えているが、最終的な基準書とするためには若干の調整が必要である。そこで、第2章において最終的な基準書である1991年度版の作成とそれに基づく self-image の頻度分析について述べる。

第3の目的である self-image の相関関係の分析については、WAI 反応の反応パターンを分析する試みが為されている。これは、各被験者のWAI 反応を基準書によって分類評定し、各被験者の20の反応がどのようなカテゴリーの組合せ

によって構成されているかを数量化 III 類で分析するというものである。このような分析によって、WAI 反応に現れる個人差を反映する次元を得ることができ、この次元に基づいて、WAI 反応を分類することや被験者を比較分析することも可能となる。小学生から高校生までの約5,000名を対象とした分析では、数量化 III 類によって、I. 性格-デモグラフィック, II. 自己に対する意識, III. 欲求・希望・願望の3つの次元が得られ、それに基づくカテゴリーの分類によって、A. 社会・生物学的基礎, B. 性格, C. 欲求と自己評価の3つのクラスターが得られた。さらに、これらのクラスターに基づき被験者を比較分析した結果、小学生の self-image が社会・生物学的基礎を中心に構成されているのに対し、年齢の上昇に伴い性格や欲求・自己評価の反応が含まれるように分化することも示された(岩熊, 1991; 岩熊・榎田, 1991a; 岩熊・榎田, 1991b)。小学生から老人までの約14,000名を対象とした分析では、I. 内容的把握-形式的把握, II. 自己に対する意識, III. 実存的意識・非日常的意識, IV. 欲求・希望・願望, V. 家系・家族の5つの次元が得られ、これらの次元に基づきカテゴリーを分類した結果、A. 性格(気質), B. 性格(力動), C. 身体・能力・日常生活, D. 希望・願望, E. 祖父母・父母, F. 職業・家庭, G. 自己実現的欲求, H. 学校生活, I. 基本属性, J. 実存的自己意識という10のクラスターが得られた。この分析でも高校生までの分析で得られたような self-image が発達の分化する傾向が認められ、また、10のクラスターは、高校生までの分析で得られた3つのクラスターと対応していることも確認された。さらに、30代から50代の self-image において職業・家庭が大きな意味を持つことや老人の self-image において自己実現的欲求が顕著になることなどが示された(岩熊, 1991; 岩熊・榎田, 1991b)。

第4の目的である個人内における self-image の相互関連性の分析は、WAI 技法によって個人を理解する上での重要な視点となる。これについては、大学生50名を被験者とした実験が行なわれている(岩熊, 1986; 岩熊・榎田, 1989)。この

実験では、被験者に WAI 技法を施行し、自分自身が書いた 20 の回答間の関連の強さを 2 種類の手続きで評定させている。1 つは、20 の回答をなるべく自然に感じるように分類させるというもので、もう 1 つは、回答を 2 答ずつ対呈示し、関連の強さを評定させるというものである。その結果、2 つの手続きで得られたデータは、相互に整合性を持ち、これらのデータを解析した結果得られた回答の構造に対して、多くの被験者が納得できるものであると述べた。

第 5 の目的である WAI 技法のパーソナリティ診断への適用については、先にも述べた通り、他の目的の達成とも大きく関わっている。特に、第 1、第 2 の目的である WAI 反応の内容の範囲と頻度の把握は、WAI 技法を個人理解に適用する時の前提となる。また、第 4 の目的である個人内における self-image の相互関連性の分析は、WAI 技法によって個人を理解する上での重要な視点となる。その一方でわれわれは、個人の具体的な WAI 反応を知るために、「WAI 事例集」を作成してきた。これは、WAI 技法で得られる典型的な事例や特殊事例を性別・年齢別に集め、なるべくそのままの形で掲載したものである。「組織行動研究」の No. 16 には、小学生から

高校生までの 48 事例、No. 19 には大学生から 40 代までの 47 事例がそれぞれ巻末資料として掲載されている。そして、本モノグラフの巻末にも、最後に残された 50 代以上の 38 事例を掲載した。このような、基礎的な研究の積み重ねと事例収集は、WAI 技法をパーソナリティ診断へ適用する際の基礎資料となるが、われわれは、これらと平行して、WAI 技法を含めたテスト・バッテリーを構成し、実際に個人のパーソナリティを総合的に分析する試みも続けている。

以上がわれわれのプロジェクトの目的と研究経過である。本モノグラフは、プロジェクトの第 1 の目的である self-image の内容と範囲の把握と、第 2 の目的である self-image の頻度分布の把握に対する一応の最終的な報告となる。先にも述べたように、これらは「基準書」の作成とそれに基づく反応頻度の分析を通じて行なわれてきたが、第 2 章では、最終版基準書の作成過程と、この基準書による反応頻度の分析結果について述べる。さらに、第 3 章では、WAI 技法を特殊な視点から用いたものとして、達成動機の分析に WAI 技法を適用した研究についても述べる。

2

基準書による反応頻度の分析

1. 目的	9
2. 方法	9
3. 結果と考察	13
4. まとめ	23

1. 目的

前章でも述べたように、われわれの第1の目的は、self-imageの内容がどのような範囲に及ぶかということを具体的に把握することである。この目的のために、われわれは、WAI技法で得られた反応を“基準書”という形にまとめる試みが続けてきた。基準書は、WAI反応の内容分析を行ない、類似した反応をまとめて列挙したものである。われわれは、この基準書を反応カテゴリーとして反応頻度の分析に用いることによって、第2の目的であるself-imageの一般的な分布の把握を行なってきた。そして、このようなWAI反応の具体的な内容を示した基準書とその頻度分析の結果は、WAI技法をパーソナリティ診断に用いる際の基礎的な資料となる。

基準書は、1983年度以来数回の改訂が重ねられ、1989年度にはほぼ完成に近いものが得られている。しかし、パーソナリティ診断も含めて一般的に使用するには、若干の問題点も残されている。そこで、われわれは、1989年度版基準書の改訂を行ない、最終的な基準書を完成することにし

た。本章では、基準書の改訂の過程と、この基準書を用いたWAI反応の頻度分析の結果について述べる。

2. 方法

[WAI用紙]

WAI技法を施行する際に必要となるWAI用紙は、中学生以上の被験者を対象とした「一般用WAI用紙」、小学生を対象とした「小学生用WAI用紙」、老人を対象とした「老人用WAI用紙」、そして、施行状況により記名させることが難しい場合のための「無記名WAI用紙」の4種類が用意されている。「一般用WAI用紙」には、B4版の紙が用いられ、左半分にはフェイス・シートと被験者への教示が印刷され、右半分に被験者が反応を記入するスペースが設けられている。左半分のフェイス・シートには、氏名、性別、調査日時、生年月日、年齢、現住所、未婚・既婚、職業、学歴を記入する欄があり、その下には、以下のような被験者への教示が印刷されている。

「私は誰でしょう？」という問いに対し、あな

たのことに、20 通りの異なる答えを右のページの 1 番から順に書いていってください。思いつくままに、自由に書いていってください。書き終わったら、1 から 20 までの答えを見て、特に自分らしいと思われる答えの番号を○で囲んでください。○はいくつつけてもかまいません。もし、どうしても最後 (20 番) まで答えを思いつかない場合は、思いつくところまで結構ですので、そこまでの内容で、自分らしいと思われる答えの番号を○で囲んでください。

用紙の右半分は反応を記入する欄は、20 本の罫線が引かれ、各行の先頭に 1 から 20 の番号が付けられただけのものである。被験者は、これらの各行に 1 答ずつ反応を記入していき、最終的に 20 の回答を記入することになる。

「小学生用 WAI 用紙」は、一般用と同じ大きさの紙を用い、形式もフェイス・シートと教示を除いて同じになっている。小学生用のフェイス・シートの項目は、氏名、性別、調査日時、生年月日、年齢、現住所、親の職業、学校名、学年である。教示は、以下のように、一般用よりも平易なものとなっている。

「私はだれでしょう?」という問いを自分にとってみてください。そして、その問いに対する、20 通りのそれぞれちがう答えを、右のページの 1 番から順番に書いていってください。思いつくままに、自由に書いていって下さい。もし、20 番まで答えを思いつかないときは、思いつくところまでかまいません。答えを書きおえたら、あなたがいた答えを見て、特に自分らしいと思う答えの番号を○でかこんでください。○は、いくつつけてもかまいません。

「老人用 WAI 用紙」は、字を大きくして縦書きに印刷したもので、大きさは B4 版であるが、フェイス・シートと反応の記入欄の 2 枚綴りになっている。また、「無記名 WAI 用紙」は、フェイス・シートの記入欄を年齢と性別だけに限ってある。

【施行の手続き】

施行に際しては、原則として、被験者や施行状況に合わせ、上の WAI 用紙の中から適切なものを選択した。小学生の被験者 (3 年生以上) に対しては小学生用を用い、それ以上の被験者に対しては一般用を用いたが、老人の一部には老人用を用いた。また、記名式の WAI 用紙では施行がむずかしい場合に限り、無記名の WAI 用紙を使用した。データの収集は、3 つの手続きのいずれかで行なわれた。その 1 つは集団施行によるものである。この手続きは、学生を対象とする場合の大部分や老人クラブ等の会合において施行する場合に用いられた。この場合、用紙を配布し、被験者全員に対し口頭で教示を行ない、その後、被験者からの質問を受けつけた。反応に要する時間には個人差があるため、各自が自分のペースで反応するよう教示し、特に時間制限は設けなかった。20 分から 40 分程度の時間をとって施行したが、時間内に書き終えなかった被験者については、可能な限り、自宅で記入して後日提出するよう求めた。2 つめの手続きでは、個人的に被験者に依頼して WAI への反応を求めた。その場合、用紙を手渡して口頭で教示を行ない、自宅で記入して提出するよう求めた。そして、3 つめの手続きは、大学の教員、企業の人事担当者、大学の学生・卒業生などの調査協力者に、データの収集を依頼するというものである。この場合、調査協力者は上の 2 つの手続きのいずれかに従ってデータを収集した。

【基準書】

基準書は、WAI 技法で得られた反応をまとめて、具体的に列挙したものである。これは、反応カテゴリーとして用いられ、反応の頻度分析が行なわれている。基準書は、「小項目」と呼ばれるカテゴリーによって構成されている。各小項目には、そのカテゴリーを代表するような名前として「小項目名」が付けられており、そのカテゴリーに分類される具体的な反応例が「例示」として数個ずつ挙げられている。そして、分類や分析を行なうためのコードとして「小項目番号」がそれぞれに与えられている。意内容味の類似する小項目

表 2-1 1989 年度版基準書の概要

	大項目名	内 容	小項目数
1	社会	名前、性別、年齢、現住所、出身地、生年月日、職業、所属団体、学歴などについての記述。 友人関係、対人関係についての記述。	18
2	家庭	血縁的役割、家族、家庭についての記述。	12
3	身体	容姿・体格、健康・体質、身体機能・身体的能力についての記述。	3
4	能力	知的能力、専門的能力、対人的能力などについての記述。	10
5	情意	自分の性格についての記述のうち、情意的側面について記述したもの。	62
6	力動	自分の性格についての記述のうち、力動的側面について記述したもの。	32
7	指向	自己に対する感情・評価などについての記述。 欲求、願望、希望などについての記述。 態度、キャラクターなどについての記述。 「私は私」、「私は誰」、実存的な記述。 上位概念、概念的な表現など。	59
8	その他	評価できないもの、WAI に対する批判、無効回答など。	2
9	無回答	無回答。	1

計 199

はまとめられて「大項目」が構成され、各大項目にも「大項目名」が付けられている。

基準書は、1983 年度以来改訂が重ねられ、1989 年度にはほぼ完成に近い 1989 年度版基準書が得られている。この基準書は、「組織行動研究, No. 19」(岩熊・楨田, 1991b) に掲載されているが、その概要は表 2-1 の通りである。しかし、この基準書にもいくつかの問題点がある。その 1 つは、小項目が 200 近くあり、一般的に用いるには若干多すぎることである。小項目数が多ければ多いほど、より詳細な反応の分類が可能となるが、その一方で、反応の分類作業が困難になる。また、必要以上に細かい分類をすることは、あまり実際的とは言えない。適切な小項目数がいくつぐらいなのかは簡単には決定できないが、分析を通じて得られた経験では 150 項目前後ではないかと思われる。もう 1 つの問題は、小項目の中に、他の小項目との判別が難しいものや、包含する意味内容が多様で曖昧な小項目があるということである。われわれは基準書を使用するに先駆け、1~3 ヶ月程度の分類評定トレーニングを行

なって、評定者全員が同一の基準で反応を分類できるようにしている。しかし、個人が一般的に使用する場合は、このようなトレーニングを実施することは難しい。少なくとも、個人が 1 人で習得できるような基準書にする必要がある。そういう意味では、各小項目の意味内容は明確にしておく必要がある。

以上のような問題点を解決するために 1989 年度版基準書の改訂を行なうことにした。従来改訂手続きは、前回の分類評定における問題点と頻度分析の結果を考慮して、新たな基準書を構成するというものであるが、今回の改訂では、最終的な基準書を完成するということもあり、より慎重な手続きを取ることにした。それは、従来のような手続きでまず基準書の試作版を構成し、それを用いて反応の分類評定を行なった後に、再び評定上の問題点や集計結果を考慮して最終的な調整を行なうというものである。

まず、1989 年度版基準書から試作版の基準書を作成する過程では、次のような手続きで基準書を構成した。第 1 に、反応頻度の少ない小項目を意味内容の近い他の小項目に併合した。第 2 に、区別の判然としない小項目については併合を行なうか、あるいは、例示(基準書に掲載される具体的な反応例)の移動や小項目名の変更を行ない、各小項目が明確なものになるようにした。第 3 に、包含する意味内容が多様で全体としてのまとまりに欠けるような小項目は、例示を分割し、他の小項目を新設するか、あるいは、分割された例示を他の小項目に併合した。その他に、各小項目の意味内容がわかりやすくなるように、例示の追加も行なった。また、この改訂においては、小項目を併合して小項目数を減らすことよりも、各小項目の意味内容を明確にすることに重点を置いた。その結果、197 の小項目を持つ基準書の試作版が作られ、この基準書を用いて、WAI 反応の分類評定が行なわれた。

試作版による WAI 反応の分類評定と反応頻度の集計を行なった後に、試作版の調整を行なった。ここでは、反応の少ない小項目や区別の判然としない小項目の併合が行なわれた。そして、最終的な基準書としての形を整えるために、小項目

表 2-2 最終版基準書の概要

大項目名	内 容	小項目数
1 社会	名前、性別、年齢、住所、出身・育ち、職業、学校、所属団体、経歴などについての記述。交友関係、経済状態についての記述。	17
2 家庭	血縁的役割、家族、家庭についての記述。	11
3 身体	容姿・体格、健康・体質、身体機能・身体的能力についての記述。	3
4 能力	知的な能力、個別の能力、適応力、一般的な能力、資格・免許などについての記述。	9
5 情意	自分の性格についての記述のうち、情意的側面について記述したもの。	42
6 力動	自分の性格についての記述のうち、力動的側面について記述したもの。	27
7 指向	自己に対する感情・評価などについての記述。欲求、願望、希望などについての記述。態度、キヤセクションなどについての記述。「私は私」、「私は誰」、実存的な記述。生物学的・文化的規定、隠喩的な表現など。	55
8 その他	WAI に対する批判、無効回答など。該当する小項目のない回答。	3
9 無回答	無回答。	1

計 168

名の変更、小項目の配置の調整、例示の削除や順序の変更などが行なわれた。その結果、168 の小項目が 9 つの大項目に分類された最終基準書が完成された。最終版基準書は巻末に資料として掲載してあるが、その概要は表 2-2 の通りである。これを見てもわかるように、大項目名は 1989 年度版と同一で、《情意》と《力動》の小項目数が少なくなっている。その理由の 1 つは、この 2 つの大項目において、反応数の少ない小項目の併合が行なわれたためである。もう 1 つの理由は、いわゆる性格についての記述の中の、能力的なニュアンスの強いものや (e.g., 「適応性がある」) 態度的なニュアンスの強いもの (e.g., 「楽観的」、「悲観的」) を、《能力》や《指向》に移動したためである。なお、試作版から最終版への変更点は、小項目の併合と配置の併合である。従って、試作版の小項目は、最終版において分解されることはない。そのため、試作版に基づいた反応の分類評定の結果は、最終版に対応する形で集計し直すことができる。そこで本章では、最終版の基準書に基づいた反応頻度の分析結果を示す。

表 2-3 性・年齢別のデータ数

年齢	男性	女性	計
小学校4年生	248	240	488
小学校6年生	272	247	519
中学校2年生	248	297	545
高校2年生	250	239	489
20~21才	248	252	498
25~27才	241	257	498
34~36才	108	98	206
44~46才	108	101	207
54~56才	115	108	221
60~62才	45	65	110
64~66才	45	53	98
70~72才	60	53	113
計	1,984	2,008	3,992

【分析データ】

WAI 反応は、1980 年前後から収集が始められ、既に約 14,000 名分収集されている。しかし、これらすべてのデータの分類評定を 1 度に行なうことは難しい。そこで、全データの中から特定の年齢のデータを抽出し、それらについてのみ反応の分類評定を行なうことにした。ライフ・サイクルを考慮して特徴的と思われる年齢として、小学校 4 年生と 6 年生、中学校 2 年生、高校 2 年生、20 才、26 才、35 才、45 才、55 才、60 才、65 才、70 才の 12 の年齢を選択した。そして、小学校 4 年生から 26 才までは男女各 250 名、35 才から 55 才までは男女各 100 名、60 才から 70 才までは男女各 60 名の計 3,960 名のデータをランダムに抽出することを考えた。しかし、実際には、各年齢だけではこれだけのデータ数を確保できない場合もあり、新たなデータの収集を行ったり、年齢に 1~2 才の幅を持たせたりした。実際に分析に用いられたデータ数は表 2-3 に示されている。実際のデータ数は、目標値とは完全に一致していないが、かなり近い数値となっている。

【反応の分類評定と集計】

WAI 技法で得られた反応は、反応カテゴリである基準書で分類されてから、集計分析される。この分類作業においては、評定者が回答の内容を見て、等価あるいは最も内容的に近い小項目の番号を各回答に割り当てていく。分類は、原則として回答単位で行なわれる。つまり、被験者の 20 の回答をそれぞれ独立に分類するのである。

ただし、1つの回答だけからでは分類ができない場合、その被験者の前後の回答を参考にして分類する。また、1つの回答の中に、複数の内容が含まれている場合は、それぞれの内容を1つの反応として分類を行なう。そのため1人の被験者の反応数が20を越える場合もある。

反応の分類には試作版の基準書が用いられた。分類評定は、大学生21人のグループと大学院レベルの6人のグループによって行なわれた。30代までのデータについては大学生、40代以上のデータについては大学院レベルの者が分類した。評定者は、分類に先立って数ケースのWAI反応を用いたトレーニングを行なった。トレーニングでは、同一の反応をグループ全員がそれぞれ分類し、その結果についてグループで討議を行なう。このような討議を通じて、評定者全員が同一の基準で反応を分類できるようにした。実際の分類は、評定者が分担して行なったが、評定者が1人で判断できないものについては、グループで討議して判断するようにした。

試作版基準書の小項目番号で分類評定されたデータは、被験者の属性（年齢、性別、職業など）、各回答に「自分らしさの○」が付けられているかどうかなどとともに大型計算機に入力され、集計された。集計結果は、最終版基準書を作成する際の資料として用いられた。そして、最終版基準書が完成した後、最終版に基づいて集計し直された。具体的には、試作版に基づいて入力されている小項目番号を、大型計算機上で最終版基準書の小項目番号に変換してから、集計を行なった。試作版から最終版への改訂は、小項目の移動と併合なので、古い小項目番号を対応する新しい小項目番号に変換することが可能である。

最終版基準書は、168の小項目が9つの大項目にまとめられたものである。従って、分析の単位として、大項目と小項目の2種類が考えられる。大項目単位の分析は、反応の全体的傾向をつかむのに適しているが、細かい反応のニュアンスを読み取りにくい。一方、小項目単位の分析は、大項目より細かいニュアンスを読み取ることが可能であるが、168という項目数のため、全体像が捉えにくい。このように2つの集計方法は、それぞれ

短所と長所を合わせ持っている。そこでこの2種類の分析方法を併用することにした。また、反応頻度の指標としても2つのものが考えられる。1つは、各カテゴリーの被験者1人あたりの平均反応数である。もう1つは、言及率と呼ばれるもので、各カテゴリーの反応を少なくとも1反応以上している被験者のパーセンテージを算出するものである。平均反応数は、1人の被験者がそのカテゴリーの反応を数反応以上している場合は意味ある数値となるが、そうでない場合には、言及率の方が理解し易い数値となる。そこで、大項目を分析単位とする場合には、平均反応数と言及率を分析指標とし、小項目単位の分析では言及率を分析指標として用いることにした。

3. 結果と考察

〔大項目単位の分析〕

基準書の168の小項目は、9つの大項目に分けられている。表2-4は各大項目の平均反応数を性・年齢別に示したもので、表2-5は各大項目の言及率を性・年齢別に示したものである。まず、大項目《社会》から見ていくことにする。この大項目には、名前、性別、年齢などの個人の基本的な属性や、学校、会社、交友関係などの社会関係についての記述が分類される。この大項目の平均反応数は被験者全体で約4.1で、《指向》に次いで反応の多い大項目となっている。言及率も、全体で88.3%とかなり高い数値となっている。年齢による違いを見ると、平均反応数は、小学生から高校生にかけては4.5~5.0反応程度であるのに対し、20代の後半以降では3反応以下となっている。性差を見ると、全体的には男性の方が多く、特に、20代後半から60代半ばまでの間で、明確な反応数の違いが認められる。ただし、70才以上になると、女性が男性を上回っている。年少者において名前や性別などの基本属性についての言及が多いということは、他の研究でも指摘されており(e.g., Montemayor & Eisen, 1977), self-imageの一般的な発達傾向の1つと考えられる。一方、性差については、男女の社会参加の仕方の違いを反映していると思われるが、社会と

表 2-4 大項目の平均反応数

年齢	N	社会	家庭	個体	能力	情意	力動	指向	その他	反応数
小学校 4年	248	4.839	0.609	1.621	0.657	0.444	0.427	5.677	0.290	14.585
	240	4.587	0.871	1.537	0.654	0.758	0.433	5.637	0.262	14.742
	488	4.715	0.738	1.580	0.656	0.598	0.430	5.658	0.277	14.652
小学校 6年	272	4.783	0.790	2.000	0.853	0.879	0.596	7.348	0.702	17.949
	247	4.838	1.128	2.235	0.684	1.279	0.818	6.980	0.563	18.522
	519	4.809	0.950	2.112	0.773	1.069	0.701	7.171	0.636	18.222
中学校 2年	248	4.718	0.734	1.815	0.813	1.101	0.895	7.827	0.548	18.250
	287	4.316	0.825	2.094	0.588	1.343	0.980	7.690	0.391	18.226
	545	4.499	0.783	1.967	0.588	1.233	0.941	7.752	0.482	18.237
高校 2年	250	5.236	0.792	1.044	0.480	1.576	1.084	6.564	1.152	17.828
	239	4.615	0.833	1.230	0.435	2.322	1.950	6.998	0.481	18.862
	489	4.933	0.812	1.135	0.458	1.641	1.507	6.775	0.824	18.384
20～ 21才	246	3.827	0.431	0.978	0.642	2.802	1.748	7.102	0.699	18.126
	252	4.024	0.929	1.187	0.587	3.444	2.512	6.821	0.079	19.583
	498	3.976	0.683	1.082	0.614	3.028	2.135	6.960	0.366	18.863
25～ 27才	241	3.822	0.705	1.402	0.510	3.021	1.826	6.747	0.494	18.527
	257	3.023	1.012	1.401	0.381	3.074	2.097	7.012	0.463	18.463
	498	3.410	0.863	1.402	0.444	3.048	1.968	6.884	0.478	18.494
34～ 36才	108	3.787	1.759	1.278	0.454	3.046	1.787	6.824	0.130	19.065
	98	3.143	3.000	1.235	0.439	2.837	1.684	7.071	0.071	19.480
	206	3.481	2.350	1.257	0.447	2.947	1.738	6.842	0.102	19.282
44～ 46才	106	3.349	1.755	1.509	0.528	2.925	1.292	7.738	0.113	19.208
	101	2.554	3.218	1.495	0.853	3.188	1.218	7.277	0.050	19.634
	207	2.961	2.469	1.502	0.589	3.043	1.256	7.512	0.082	19.415
54～ 56才	115	4.139	1.985	1.183	0.713	2.800	1.148	6.000	0.043	19.991
	106	3.000	2.802	1.170	0.481	3.226	0.792	6.823	0.038	20.132
	221	3.593	2.367	1.176	0.602	3.005	0.977	6.298	0.041	20.059
60～ 62才	45	3.844	1.733	1.358	0.358	2.644	0.911	6.844	0.178	19.667
	85	2.985	2.800	1.185	0.538	2.800	0.923	9.554	0.092	20.877
	110	3.338	2.364	1.255	0.464	2.736	0.918	9.182	0.127	20.382
64～ 66才	45	3.511	1.958	0.667	0.533	2.844	1.733	7.978	0.044	19.267
	53	2.547	2.170	0.849	0.283	2.283	0.811	9.890	0.170	18.774
	98	2.990	2.071	0.765	0.398	2.541	1.235	8.888	0.112	19.000
70～ 72才	60	2.800	1.250	1.033	0.467	2.833	1.017	8.483	0.250	18.133
	53	3.019	3.283	1.019	0.321	1.396	0.434	6.057	0.084	17.623
	113	2.903	2.204	1.027	0.396	2.159	0.743	6.263	0.177	17.694
全体	1,984	4.338	0.940	1.422	0.606	1.896	1.146	7.104	0.521	17.974
	2,008	3.907	1.400	1.528	0.538	2.205	1.361	7.199	0.303	18.439
	3,992	4.121	1.172	1.475	0.571	2.051	1.254	7.152	0.411	18.208

※各セルの上段は男性、中段は女性、下段は全体である。

の関わり方は年齢とともに変化する。特に、ここで得られた結果は、就職、結婚、子供の養育、退職といったライフ・イベントが、個人と社会との関係に大きく影響することを示唆している。

《家庭》は、家庭内の役割 (e. g., 父, 長男, 主婦), 家族の他の構成員についての記述, 家族や家庭全般についての記述などが分類される大項目である。全体の平均反応数は約 1.2 と少ないが、言及率は約 50% ある。《家庭》の平均反応数と言及率を性・年齢別にグラフ化すると、図 2-1, 図 2-2 のようになる。図 2-1 を見ると、すべての年齢層で男性よりも女性の方が反応数が多い。女性では、30 代から 60 代前半にかけての平均反応数は 3 反応近くあり、性差も大きい。図 2-2 の

言及率を見ると、すべての年齢層で女性の方が高くなっているが、男性も 30 代以降で上昇している。これは、女性、特に、子供の養育にあたっている女性にとって家庭が大きな意味を持っていることを示唆しているが、男性にとっても自分の築いた家庭が大きな意味を持つことを示唆している。ライフ・サイクルを通じての家族や家庭の意味を考えると、子供時代は、両親や他の養育者に依存している時期であり、家族や家庭は生存の条件として重要性を持っている。それにも関わらず、大人の self-image の方が子供のそれよりも、家族や家庭を反映している。これは、自我・自己が個人の主体的な対象への関与と関連しているとも見られる。

表 2-5 大項目の言及率

年齢	N	社会	家庭	個体	能力	情意	力動	指向	その他	無回答
小学校 4年	248	91.1	36.7	81.3	39.1	25.8	22.2	99.6	10.9	67.7
	240	90.0	49.6	66.2	40.4	42.9	25.0	97.1	6.7	71.2
	488	90.8	43.0	63.7	39.8	34.2	23.6	98.4	8.8	69.5
小学校 6年	272	91.5	42.6	67.6	45.8	43.8	29.0	98.2	18.4	38.2
	247	97.6	55.5	78.9	46.2	55.9	44.1	99.2	11.7	31.6
	519	94.4	48.7	73.0	45.9	49.5	36.2	98.7	15.2	35.1
中学校 2年	248	91.9	40.7	73.0	43.1	50.8	38.7	100.0	21.8	36.3
	297	90.2	48.5	78.8	40.1	55.9	47.8	98.7	13.1	38.7
	545	91.0	45.0	78.1	41.5	53.6	43.7	99.3	17.1	37.6
高校 2年	250	92.0	34.4	48.0	33.8	57.2	43.6	98.8	38.8	35.2
	238	92.9	50.6	58.9	37.2	77.0	84.9	99.6	18.4	30.1
	489	92.4	42.3	51.3	35.4	66.9	54.0	98.2	27.8	32.7
20~ 21才	246	85.4	32.1	43.5	39.4	78.4	60.6	97.2	19.1	28.0
	252	86.5	57.1	58.3	40.9	84.9	78.6	98.8	4.8	18.3
	498	85.9	44.8	50.0	40.2	80.7	69.7	98.0	11.8	23.1
25~ 27才	241	86.7	42.7	64.7	35.3	80.9	68.5	99.2	12.4	29.5
	257	80.5	50.6	56.8	30.4	74.3	68.1	98.1	12.8	33.5
	498	83.5	46.8	60.6	32.7	77.5	68.3	98.6	12.7	31.5
34~ 36才	108	82.4	74.1	80.2	32.4	79.8	66.7	98.1	11.1	25.9
	98	85.7	79.8	53.1	32.7	75.5	58.2	99.0	7.1	23.5
	208	84.0	76.7	56.8	32.5	77.7	62.6	98.5	9.2	24.8
44~ 46才	108	84.0	72.6	81.3	35.8	77.4	60.4	99.1	7.5	31.1
	101	83.2	86.1	62.4	42.6	75.2	55.4	99.0	3.0	34.7
	207	83.6	79.2	61.8	39.1	78.3	58.0	99.0	5.3	32.9
54~ 56才	115	92.2	72.2	80.0	42.6	73.9	47.0	99.1	3.5	34.8
	108	81.1	74.5	58.5	32.1	78.2	36.8	97.2	3.8	33.0
	221	86.9	73.3	59.3	37.6	76.5	42.1	98.2	3.6	33.9
60~ 62才	45	82.2	62.2	57.8	26.7	77.8	40.0	100.0	6.7	37.8
	65	86.2	73.8	80.0	38.5	75.4	41.5	100.0	6.2	27.7
	110	84.5	69.1	59.1	33.8	76.4	40.9	100.0	6.4	31.8
64~ 66才	45	73.3	57.8	42.2	35.6	71.1	51.1	97.8	4.4	46.7
	53	81.1	71.7	47.2	20.8	80.4	39.8	100.0	15.1	49.1
	98	77.6	65.3	44.9	27.6	65.3	44.9	99.0	10.2	48.0
70~ 72才	80	78.7	53.3	58.3	33.3	75.0	48.3	100.0	15.0	51.7
	53	90.6	73.6	54.7	18.9	49.1	26.4	98.2	7.5	62.3
	113	83.2	62.8	56.6	26.5	62.8	38.1	98.2	11.5	56.8
全体	1,984	88.3	45.5	59.2	36.5	80.5	46.0	98.8	17.0	38.3
	2,008	88.3	58.0	63.8	37.6	86.6	52.4	98.6	10.1	36.8
	3,992	88.3	51.8	61.5	38.1	83.6	49.2	98.6	13.6	37.5

※各セルの上段は男性、中段は女性、下段は全体である。

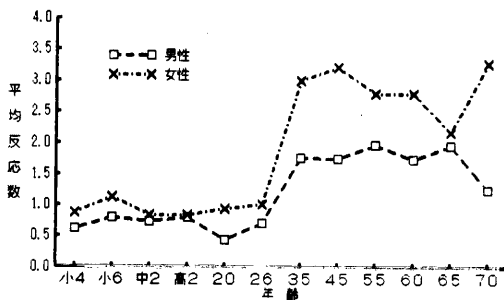


図 2-1 《家庭》の平均反応数

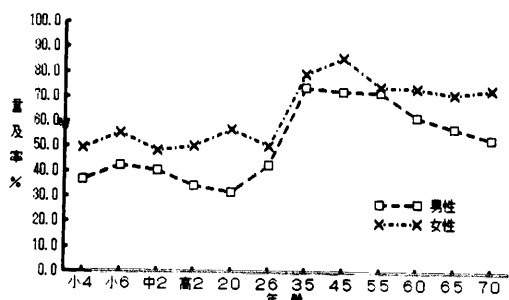


図 2-2 《家庭》の言及率

《個体》には、身体に関する記述全般が分類される。発達的に見ると、小学校6年生から中学校2年生にかけて反応数が多く、平均が2を超えている。一方、60代半ばでは、平均反応数が1を

下回っている。しかし、それ以外の年齢層では明確な発達的变化は認められない。性差については、小学校4年から20代前半までは、女性の方が反応数が多いという傾向があるが、それ以降50

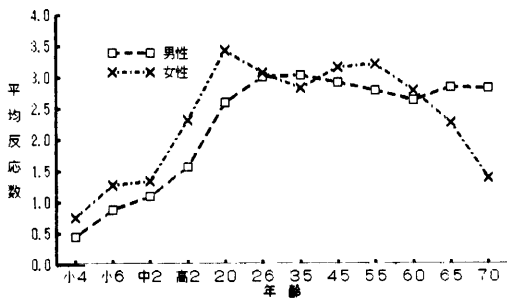


図 2-3 《情意》の平均反応数

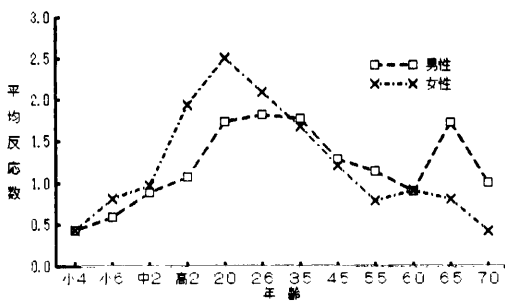


図 2-4 《力動》の平均反応数

代まで平均反応数にほとんど差が認められない。発達の初期の段階で、身体が self-image の重要な要素となるという指摘もあるが (e. g., Allport, 1961), この結果でも、小学生から中学生にかけての反応数は、高校生以降よりも多くなっている。しかし、このような一般的な発達傾向以外にも、self-image における身体の意味に影響する要因を考えることができる。例えば、自分の容姿は、思春期から青年期にかけて、特に女性の self-image において顕在的になると考えられる。また、加齢による身体の衰えは、中高年の self-image において顕在的になると思われる。従って、《身体》の反応数の変化も、このような様々な要因が複雑に影響しあった結果と見るべきであろう。より詳細な検討は、小項目単位の分析において行なう。

《能力》には、自分の能力についての記述が含まれる。この大項目は、《その他》と《無回答》を除いて、平均反応数が最も少ない大項目で、いずれの性・年齢集団でも 1 反応に満たない。言及率を見ると、全体で 38.1% であるが、1989 年度版

による結果では 25.3% であった。このような違いの原因を考えると、分析対象となった被験者の違いよりも、基準書の違いが大きく影響しているように思われる。1989 年度版から最終版へ至る基準書の改訂では、《能力》の小項目数はほとんど変わっていないが、いくつかの小項目の内容には変更が加えられている。その 1 つは、1989 年度版では《情意》に含まれていた小項目が、最終版では《能力》の小項目に併合されているということである。これは、いわゆる性格の記述と見られるものの中にも、よく検討すると能力的なニュアンスの強いものがあり、それらを《能力》に含めたためである。換言すれば、能力についての記述が性格的な表現をとる場合があり、能力と性格との間に明確な境界があるわけではないということになる。1989 年度版基準書での分析結果とアメリカでの研究結果 (Montemayor & Eisen, 1977) を比較すると、アメリカの方が能力的側面について言及が多く、これは文化差を反映したものではないかということが示された (岩熊・楨田, 1991b)。ところが、今回の分析結果とアメリカでの研究結果との間には大きな違いがない。つまり、日米の文化差は、self-image における能力的側面の重要性の違いというよりも、言語的な表現方法の違いという可能性もある。

《情意》と《力動》は、いわゆる性格についての記述が分類される大項目である。《情意》には、気質などの比較的固定的な性格記述が分類され、《力動》には、ヒステリー傾向や神経質などの力動的なものが分類される。図 2-3 は《情意》、図 2-4 は《力動》の平均反応数と性・年齢との関係を示したものである。これを見ると、両者ともに小学校 4 年生から 20 代まで平均反応数が増加している。これは、発達に伴って自分の性格への関心が高まり、それが self-image の中に反映されることを示している。《情意》は、50 代以降の女性において減少傾向が認められるが、30 代以降も比較的安定している。一方、《力動》では 30 代以降減少傾向が認められる。特に、女性は 20 代前半から 50 代まで明確な減少傾向を示しており、20 代前半でははっきりとしたピークを描いている。《力動》に分類される反応の内容を全体的に見る

と、感情の不安定さを意味する記述が多く含まれている。《力動》の反応数が心理的な不安定さを反映しているとすれば、思春期から青年期にかけての女性が、心理的に不安定性を示すと考えることも可能である。

《指向》は、個人の指向的な側面についての記述、例えば、欲求・希望・願望、好みや態度、キャセクション、自己評価など、多様な反応が分類される大項目である。この大項目は、最も反応の多い大項目で、全体での平均反応数は約 7.2 となっている。また、この大項目に分類される反応は全反応の 39% にあたる。この大項目には、53 もの小項目があり、最も小項目数の多い大項目でもある。一方、言及率を見ると、いずれの性・年齢集団でも 95% 以上の言及率があり、ほぼすべての被験者が指向的な側面に言及していることを示している。このように WAI 反応に《指向》の反応が多いということは、self-image や自我・自己と指向的な側面との間に強い関連があることを示唆している。《指向》の反応の特徴の 1 つは、欲求や態度のように個人の感情的な体験を直接的に反映するものを多く含むということである。自我あるいは自己は、このような主観的な体験に基づけられているとも考えられる。《指向》の反応のもう 1 つの特徴は、様々な対象についての記述を含んでいることである。好みや趣味のように具体的なものもあれば、価値観のような抽象的な観念が対象となることもある。また、自己評価や実存的意識のように、外的な対象ばかりでなく、自己そのものが対象となることもある。つまり、《指向》には、自分自身をも含めた、その個人にとっての世界と、それに対する個人の態度や感情が反映されることになる。おそらく、自我・自己を理解する上で、このような指向的な性質が重要と言えるであろう。

《その他》には、「私は誰でしょう」という問いに対して不適切な反応、あるいは、基準書による分析が不可能な反応が分類される。平均反応数を見ると、20 代以下、特に高校生男子で多く、30 代以降はほとんどない。

大項目《無回答》には〈901 無回答〉という小項目があるだけで、しかも、このカテゴリーに分

類されるのは、全く書かれていない回答、もしくは、不完全で意味をなさない回答である。そのため、平均反応数は算出されておらず、言及率のみが示されている。《無回答》の言及率とは、回答数が 20 答に満たない者の割合を示すことになる。これを見ると、小学校 4 年生の言及率は約 70% と最も高いが、小学校 6 年生から 60 代前半までは、20~30% 程度で比較的安定している。そして、60 代の後半から 40~60% 代に上昇している。小学校 4 年生の総反応数を見ても 14~15 反応で、この年齢の者の反応数は少ない。反応数は施行状況などの様々な外的な要因にも影響されるが、自分自身をどのくらい多面的に捉えられるか、あるいは、self-image がどの程度分化しているかを示す指標とも考えられる。そう考えると、self-image の分化は、小学校 4 年生から小学校 6 年生にかけて飛躍的に進むが、老年期においては反対に、self-image の広がりが見られる傾向があると見ることもできる。

〔小項目単位の分析〕

最終版基準書には 168 の小項目がある。ここでは、すべての小項目について言及することはできないため、言及率の高かった小項目を中心に述べることにする。表 2-6 は、被験者を性と年齢で分けた 24 の集団のいずれかで、20% 以上の言及率のあった 51 の小項目の言及率を性・年齢別に示したものである。この表では、言及率を数字ではなく、言及率 10% につき 1 つのアスタリスクで示してある。例えば、小学校 4 年生の男性の〈101 名前〉の言及率には 6 つのアスタリスクが示されており、言及率が 60% 以上 70% 未満であることがわかる。また、小項目名の前にある数字は小項目番号を示しており、その最初の 1 桁は大項目の番号と対応している。〈名前〉の例で言えば、小項目番号が“101”で、大項目は 1 番目の《社会》ということになる。

大項目《社会》には、名前、性別、年齢といった基本的な属性についての小項目が多く含まれている。これらの小項目の言及率は、類似した発達的变化を示している。それは、年齢が高くなるに従って、言及率が低くなるという傾向である。例

表 2-6 小項目の言及率（性×年齢のいずれかの集団で 20% 以上の言及率のあるもの）

小項目名	小4	小6	中2	高2	20~21才	25~27才	34~38才	44~48才	54~58才	60~62才	64~68才	70~72才
101 名前	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
103 性別	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
104 年齢・世代	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
106 人種・国籍	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
107 住所	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
108 暮らし方	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
109 出身・育ち	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
111 結婚	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
112 職場・職業	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
113 学校	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
114 学歴・職歴	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
115 クラブ・所属団体	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
118 友人・恋人	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
201 家庭内の役割	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
205 兄弟姉妹	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
209 子供	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
207 配偶者	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
209 孫	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
211 家族との関係	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
301 容姿・体格	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
302 健康・体質	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
303 身体的能力	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
405 適応力がある	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
503 明るい	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
509 世話好き	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
527 まじめ・誠実	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
530 几帳面	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
601 自己中心的	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
606 短気	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
701 成長欲求	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
704 容姿に対する意識	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
705 健康に対する意識	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
706 年齢に対する意識	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
712 現在の気分・状態	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
713 日課・習慣	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
714 生活目標・心掛け	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
717 私は幸福	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
728 理論指向	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
729 経済指向	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
730 審美指向	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
731 社会指向	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
733 宗教指向	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
734 飲食への指向	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
735 スポーツへの指向	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
736 旅行への指向	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
742 趣味	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
743 好み	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
748 過去についての記述	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
753 生物学的・文化的規定	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
802 無効回答	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

※アスタリスク1つが言及率10%を示す。各セルの上段は男性、下段は女性である。

例えば、〈103 性別〉の言及率の変化をグラフ化すると、図 2-5 のようになる。同様の傾向は、〈101 名前〉、〈104 年齢・世代〉、〈106 人種・国籍〉などにも見られる。これらの基本的な属性は、個人によって獲得された属性というよりも、生物学的に決定されている属性、あるいは、文化的に規定されている属性と言えるであろう。これらの属性が self-image の発達の初期の段階で顕著であるということは、self-image がこのような基本的

な属性に基礎づけられて発達することを示唆している。《社会》には、その他に、対人関係や個人を取り巻く社会環境についての記述も含まれている。図 2-6 は〈112 職場・職業〉の言及率を示したものである。これを見ると、20 代後半から 60 代前半にかけて、男性の言及率は 50% 以上になっている。特に、50 代の男性では 87.0% という非常に高い言及率を示している。しかし、女性ではいずれの年齢でも 50% に満たない。これは、

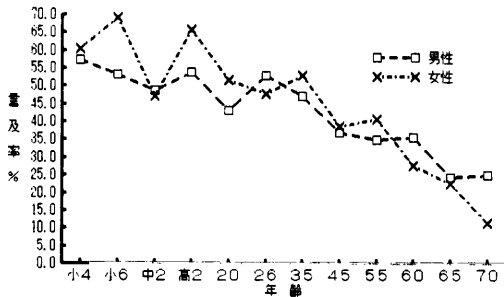


図 2-5 <103 性別> の言及率

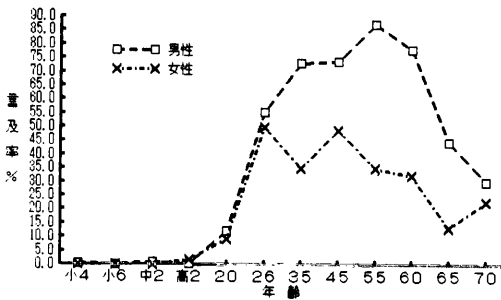


図 2-6 <112 職場・職業> の言及率

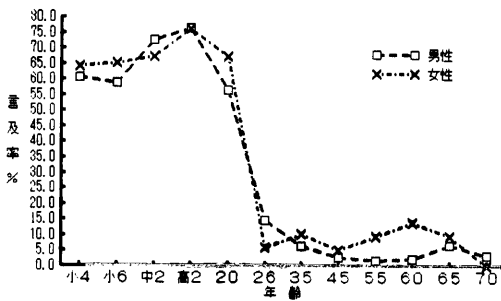


図 2-7 <113 学校> の言及率

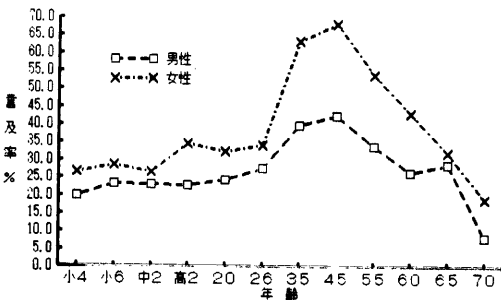


図 2-8 <201 家庭内の役割> の言及率

男性にとって職業生活が、self-image の構成要素としても重要な意味を持つことを示していると言えるであろう。一方、図 2-7 の〈113 学校〉の言及率を見ると、小学生から 20 代前半にかけて、男女ともに 50% 以上の言及率になっている。これらの年齢層の者の多くは職業を持たず、学校が社会生活の中心となる。そういう意味では、self-image における社会生活の重要性を示唆していると言えるであろう。

《家庭》の中の〈201 家庭内の役割〉は、「父」、「母」、「長男」、「主婦」といった記述が分類される小項目である。この小項目の言及率の変化を見ると、図 2-8 のように、30 代から 50 代の女性において 50% 以上になっている。また、平均反応数を算出すると、他の年齢・性別ではすべて 1 反応未満であるが、30 代の女性は 1.59、40 代の女性は 1.43、50 代の女性は 1.09 となっている。これらの年齢層の女性については、《社会》の中に言及率が 50% を超える小項目はなく、おそらく、職業生活を代表とする社会生活よりも、家庭における自己の位置づけを重視する者が多いということであろう。次に〈206 子供〉の言及率を見ると、30 代以降の女性で 37~51% と比較的高いが、男性でも 30 代から 60 代前半にかけては 37~45% となっている。もちろん、この年齢層の者すべてが子供を持っているわけではないが、この結果は、子供を持つ者にとって、子供が self-image の重要な要素となることを示している。

《個体》には 3 つの小項目があるが、そのうち〈301 容姿・体格〉と〈302 健康・体質〉は、異なる発達の変化を示している。図 2-9 は〈301 容姿・体格〉、図 2-10 は〈302 健康・体質〉の言及

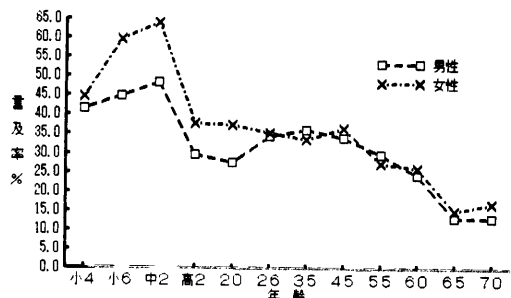


図 2-9 <301 容姿・体格> の言及率

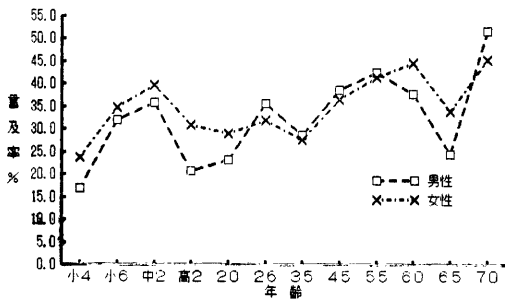


図 2-10 <302 健康・体質> の言及率

率の変化を図示したものである。〈301 容姿・体格〉は、小学校 4 年生から高校 2 年生までは言及率が上昇しているが、それ以降は下降している。一方、〈302 健康・体質〉は、上昇と下降を繰り返しながらも、全般的には上昇傾向を示している。また、小学生から 20 代前半までは、女性の言及率が男性を上回っている。身体については、self-image の初期の要素としての重要性が指摘されている。ところが、この結果を見ると、初期の要素として重要性を持つのは、容姿や体格などの身体の外観であるということが理解される。そして、このような身体の外観を重視する傾向は、児童期から思春期にかけて強くなることが示されている。それに対し、健康状態や体質などの身体内部についての self-image は、年齢の上昇とともに顕著になっている。これには、加齢に伴う身体的な衰えや疾病が大きく影響していると考えられるが、身体の内関する self-image が形成されるまでに、ある程度の期間を要するとも見ることができよう。

《能力》、《情意》、《力動》の小項目は、全般的に言及率が低い。《能力》において、性・年齢で分けたいずれかの集団で 20% 以上の言及率があるのは、〈405 適応力がある〉だけである。この小項目の言及率が最も高いのは 50 代の男性であるが、言及率は 27% でそれほど高い数値ではない。《情意》では、〈503 明るい〉、〈509 世話好き〉、〈527 まじめ・誠実〉、〈530 几帳面〉において、《力動》では、〈601 自己中心的〉、〈606 短気〉において、ある程度の言及率が認められた。《情意》は、大項目の平均反応数を見ると、小学生から 20 代まで増加し、その後安定する傾向を示している (図 2-4

参照) が、小項目単位で見ると、発達の変化や性差のパターンに多様性がある。例えば、図 2-11 のように、〈503 明るい〉は 20 代をピークとする逆 U 字形のパターンを示しており、60 代半ばを除いて女性の言及率が男性を上回っている。一方、図 2-12 を見ると、〈527 まじめ・誠実〉は、20 代以降の男性の言及率が高くなっている。WAI への反応がその個人の“現実の姿”を反映しているという保証はなく、むしろ、個人の“理想像”を反映している可能性もある。もしそうであるとすれば、これらの結果は“社会的望ましさ”を反映したものとして理解しやすい。しかし、個人の現実の姿をある程度反映しているとすれば、社会生活を通じて、個人の属性が社会的に適応的なものへと変化する可能性も考えられる。いずれにせよ、社会は self-image に対し大きな影響力を持つと言えるであろう。

《指向》には、言及率の高い小項目が多く、全部で 20 の小項目が表 2-6 に示されている。これらの小項目の内容は多様であるが、おおまかに言えば、欲求、自己評価、日常生活についての記述、

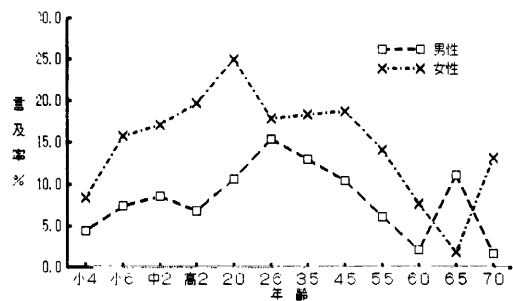


図 2-11 <503 明るい> の言及率

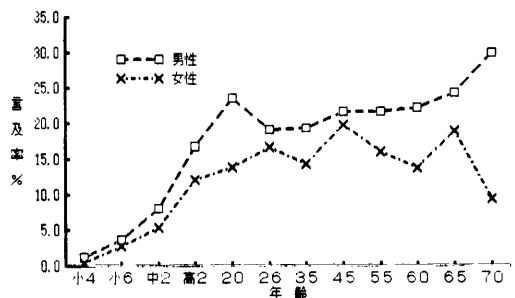


図 2-12 <まじめ・誠実> の言及率

キャセクション、実存的自己意識などに分けることができる。ここでの欲求は、希望や願望といった方がよいものを含んでいたり、容姿、身体、年齢などに対する意識のように、自己評価に近いニュアンスを持つものを含む場合もある。これらの小項目の言及率は、性別や年齢によって異なり、例えば、〈704 容姿に対する意識〉は女性の言及率が高く、〈705 健康に対する意識〉と〈706 年齢に対する意識〉は年齢が上がるにつれて言及率も上昇する。特に興味深いのは〈701 成長欲求〉である。この小項目には、自己全体を高めたいという欲求を記述した反応が分類され、達成動機や自己実現欲求なども含まれることになる。この小項目の言及率の変化を示したものが図 2-13 であるが、年齢との関連を見ると、いくつかの山を持つ波を描いて推移している。まず、小学校 4 年生から 20 代半ばまで上昇し、40 代半ばまで下降している。次に、50 代から 60 代前半にかけて再びピークを描き、60 代半ばに再び下降する。そして、70 代になるとまた上昇している。そして、これら 3 つのピークは、年齢が上がるに従って高くなっている。これについては、ライフ・サイクルとの対応関係も理解可能である。まず、20 代半ばまでは、自己同一性の確立を目指す欲求の上昇と見ることが可能であろう。つまり、「自分が何者なのか」ということを意味づけたという欲求の現れと考えられる。25~27 才においては、多くの個人が職業生活に入り、結婚によって家庭生活に入っている者もいる。しかし、職業選択や結婚によって自己同一性が直ちに確立するわけではなく、むしろ、職業生活や家庭生活を通じて、漸進的に確立されていくと考えるべきであろう。そういう意味

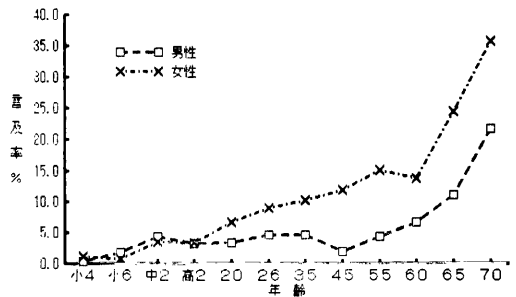


図 2-14 〈717 私は幸福〉の言及率

では、20 代半ばに自己同一性確立の欲求が最も強くなり、その後、自己同一性が確立していくと見ることも可能であろう。50 代から 60 代前半には、職業生活の最終段階を迎える者が多く、子供の養育という面でも最終段階と言えるであろう。この時期には、職業生活や家庭生活における最終的な達成に対する欲求が強くなると考えられる。また、職業生活からの引退や子供の自立後の生活設計についての希望も強くなるであろう。そして、70 代以降は人生の最終段階にあたり、「自分の人生を意味づけたい」という欲求が強いと考えられる。これは、自己実現あるいは Erikson (1959) の自我の完全性 (ego integrity) を目指す欲求と見ることもできるであろう。

自己評価というと、一般的に「自信がある、ない」といった反応が代表的と見られるが、「自分は幸福だ」といった反応のように自己を取り巻く環境を含めた評価や、「個性的」や「平凡」のように質的な自己評価もある。言及率は全般的に低く、表 2-6 には〈717 私は幸福〉だけが示されている。これと、「自信がある」という反応が分類される〈715 自分に満足〉を全被験者での言及率で比較すると、〈717 私は幸福〉が 5.5% で、〈715 自分に満足〉が 2.6% である。否定的な自己評価にあたる〈716 自分に不満〉と〈718 私は不幸〉を比較すると、前者が 4.5% で、後者が 1.3% である。自己評価に関して、肯定的なものを外的に帰属し、否定的なものを内的に帰属するという現象は、アメリカで行なわれた帰属過程の研究とは逆の結果のように見える (e. g., Kingdon, 1967)。これは、研究の方法や手続きの違いによるところもあるだろうが、日米の文化の違いを反映している

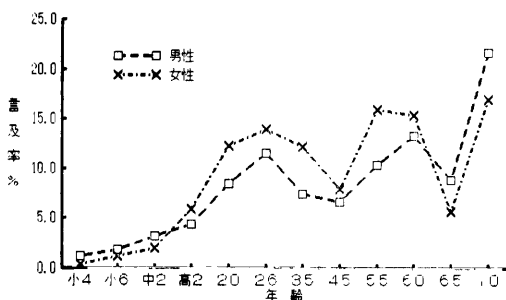


図 2-13 〈701 成長欲求〉の言及率

も考えられる。つまり、日本においては、良いことがあればまわりに感謝し、悪いことがあれば自分を責めるといった傾向が、個人の性質や社会的な規範として存在するとも考えられる。ところで、〈717 私は幸福〉の言及率の年齢による変化を見ると（図 2-14 参照）、60 代以降で特に上昇する傾向が認められる。つまり、高齢者は、自分自身をその環境を含めて肯定的に捉えていると見ることができる。これは、先に述べた自己実現や自我の統合の結果と見ることでもできるが、自己を肯定的に捉えることで心理的な安定を得ているとも考えられる。

日常生活に関する小項目は、〈712 現在の気分・状態〉、〈713 日課・習慣〉、〈714 生活目標・心掛け〉である。これらの小項目は、言及率が比較的高く、特に、〈712 現在の気分・状態〉は、小学校 4 年生と 70 代の女性を除くすべての集団で、20% 以上の言及率がある。おそらく、日常的で身辺的なものが、self-image の要素として大きな意味を持つことを示唆していると言えるであろう。

キャセクションについて小項目には、Spranger (1919) の価値の 6 類型に関する項目や様々な趣味・好みについてのものがある。これらの言及率は、年齢や性別によって異なるが、全般的に高い。特に言及率が高いのは〈742 趣味〉と〈743 好み〉である。キャセクションについての記述は、指向の対象によって様々な小項目に分類されるが、該当する小項目のない場合はこの 2 つの小項目に分類される。これらの言及率が高いということは、それだけキャセクションについての記述が多様であることを示している。〈743 好み〉の言及率を図示したものが図 2-15 であるが、あらゆる年齢で一貫して言及率が高く、また、70 代を除いて、女性の言及率が男性を上回っている。指向の対象であるキャセクションは、自己にとって外的なものと考えられるが、これらの結果を見ると、self-image にキャセクションが多く含まれている。これは自我あるいは自己の領域の問題を考える上で重要な意味をもっている。つまり、自我・自己の領域は身体の内側だけに限定されるのではなく、外的な対象との関係をも含むものと言う

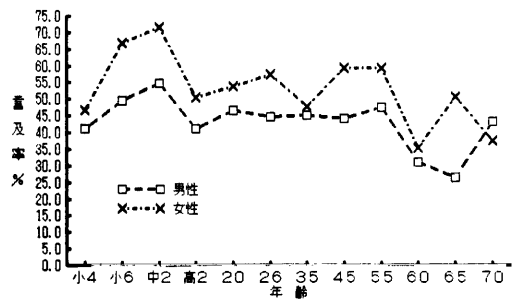


図 2-15 〈743 好み〉の言及率

ことができる。あるいは、このような外的な対象を含んだ個人の心理的な世界全体、つまり、自我関与 (ego involvement) の同心円を、自我・自己の領域と考えるべきであろう。

実存的自己意識を反映した小項目としては、〈750 私は私〉、〈751 私は誰〉、〈752 実存的記述〉などが代表として挙げられる。これらの小項目に分類される反応は、「私は誰でしょう」という問いに対して、例えば、「私は私である」、「自分でもよくわからない」、「自分は世界にたった 1 人しかいない」と答えたものなどである。これらは、自分の属性や性格などのように、自己のある側面に注目したのではなく、自己を包括的に意味づけようという姿勢がうかがえるものである。これらの小項目の言及率は、全年齢を通して見ると比較的低いが、高校生を中心とした思春期の男子で最も高くなっている。自己を包括的に意味づけたいという欲求が、自我同一性の確立の過程にあたる思春期に強くなると考えることも可能であろう。その他に、厳密には実存的自己意識とは言えないが、〈753 生物学的・文化的規定〉、〈754 隠喩的な表現〉という小項目もある。前者には、「人間」、「生物」、「地球人」などといった反応が分類され、後者は、自分を何かにととえて表現した反応が分類される。〈753 生物学的・文化的規定〉の言及率は高く、図 2-16 にもあるように、年齢との明確な相関関係を示している。このような傾向は、《社会》の中の基本的な属性についての小項目にも見られるが、この小項目も基本的な属性の 1 つと考えることができる。つまり、「人間である」あるいは「生物である」といった認識が、self-image の基礎的な要素として重要な意味を持つ

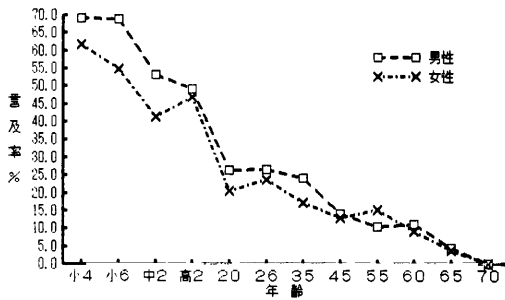


図 2-16 <753 生物学的・文化的規定>の言及率

ていると考えられる。

《その他》の小項目では、〈802 無効回答〉の言及率が、高校2年生の男子で20%を超えている。この小項目には、「私は誰でしょう」という問に対し不適切な反応や、WAI技法に対する拒否と見られる反応が分類される。高校生男子のWAI反応の多くが集団施行によるものであることが、〈802 無効回答〉の言及率に影響しているとも考えられる。しかし、小学生から大学生までのデータの多くは、集団施行で得られたものであることを考慮すると、高校生の男子では、WAI技法のような、自己を直視する課題に対し不快感を覚える者が多いとも考えられる。実存的自己意識に関する小項目の言及率も思春期の男子で高くなっており、以前行なわれた反応パターンの分析では、実存的な反応と無効回答との相関関係が強いという結果も得られている(岩熊・榎田, 1991b)。思春期の男子では、自己を包括的に意味づけようとする欲求と自己を直視したくないという気持ちが並存した、自己に対するアンビバレントな感情があると見ることも可能であろう。

4. まとめ

本章では、WAI反応の反応カテゴリーである基準書の作成の過程と、それをういた反応頻度の分析結果について述べた。基準書は、1983年に初版が作成されて以来、数回の改訂が施されてきた。今回作成された基準書は、1989年度版基準書を改訂した結果得られたもので、基準書の最終版にあたる。改訂の手続きは、1989年度版基準書の199の小項目の分割と併合を行ない197の小項目

を持つ試作版を作成した。そして、この試作版による反応の分類評定と集計を行なった結果を考慮して、小項目の併合と配置の検討を行ない最終版の基準書とした。この基準書は、168の小項目が9つの大項目のもとに整理されたものである。

反応頻度の分析に用いられたデータは、これまでに収集された約14,000のWAI反応から12の年齢層のデータを抽出したもので、データ数が不足している年齢層では新たなデータ収集も行なわなかった。これらのデータは、初めに試作版の基準書によって分類評定と集計が行なわれ、最終版の基準書の完成後、最終版基準書に基づいて再び集計された。集計は、全体的な傾向を捉えるのに有効な大項目単位と、細かいニュアンスをつかむのに適した小項目単位の2種類が行なわれた。また、分析指標として、該当項目に対する1人当りの反応数、即ち、平均反応数と、集団内で該当項目に反応している人の割合、即ち、言及率が用いられた。大項目単位の集計では、平均反応数と言及率が併用され、小項目単位の集計では言及率が用いられた。

大項目単位の頻度分析の結果、《指向》は平均反応数が約7.2で最も多く、言及率も95%以上であった。これは、self-imageや自我・自己と指向的側面との間に強い関連があることを示唆している。次に、反応が多かったのは《社会》であった。これは、小学校4年生から高校2年生にかけて特に多く、年少者で基本的な属性についての反応が多いという他の研究結果とも一致する。名前、性別、年齢といった基本的な属性が、self-imageの発達の基礎にあるとも考えられる。発達的な変化が顕著なのは、《家庭》、《情意》、《力動》である。《家庭》は、30代以上で平均反応数が多くなっており、自分の築いた家庭が個人にとって大きな意味を持つことを示唆している。《情意》と《力動》には、いわゆる性格についての記述が分類される。両者ともに小学校4年生から20代前半にかけて反応数が増加しているが、それ以降《情意》は比較的緩やかに減少しているのに対し、《力動》は急激に減少している。これは、思春期の心理的な不安定さを反映したものとも考えられる。

小項目単位の分析では、20代後半以降の男性の〈112 職場・職業〉と20代前半までの〈113 学校〉の言及率が特に高かった。また、30代から50代にかけての女性では、〈201 家庭内の役割〉も高い言及率を示している。職業を持つ者にとっての職場、学生にとっての学校、主婦にとっての家庭は、生活や人間関係の場の中心であり、これらが self-image の要素として重要な位置を占めていることがうかがえる。〈301 容姿・体格〉と〈302 健康・体質〉は、ともに《個体》の小項目であるが、言及率を見ると異なる発達の变化を示している。〈301 容姿・体格〉は年齢とともに言及率が下降する傾向を示しているが、〈302 健康・体質〉は上昇傾向を示している。この結果は、年齢による身体の捉え方の違いや加齢による身体の衰えなどを反映したものと考えられる。《能力》、《情意》、《力動》の小項目の言及率は、比較的低く、性別や年齢による変化のパターンも多様である。そして、それらの中には、社会的望ましさを反映していると考えられるものも多い。《指向》では、〈701 成長欲求〉の言及率は、20代半ば、50代から60代前半にかけて、そして、70代でピークを描いている。これらのピークは、ライ

フ・サイクルとの対応関係から見ると、自己同一性の確立を目指す欲求の上昇、職業生活や家庭生活における最終的な達成に対する欲求、自己実現あるいは自我の完全性を目指す欲求と理解することも可能であろう。肯定的な自己評価に関する〈717 私は幸福〉は、〈715 自分に満足〉よりも言及率が高く、否定的な自己評価にあたる〈718 私は不幸〉は、〈716 自分に不満〉よりも低い。〈717 私は幸福〉と〈718 私は不幸〉は、自分を取り巻く環境を含めての評価であり、外的な帰属と見ることができる。この結果は、肯定的な自己評価を外的に帰属し、否定的な自己評価を内的に帰属するという傾向を示唆しており、アメリカでの研究とは逆の結果となっている。これは、日米の文化差の一面を示しているとも考えられる。日常生活やキャセクションに関する小項目は、比較的言及率が高い。これらが self-image に多く含まれるということは、このような外的な対象を含めた個人の心理的な世界全体が、自我・自己の領域であることを示唆している。実存的自己意識は、全般的に言及率が低い。思春期の男子で最も高くなっている。自己を包括的に意味づけたいという欲求が、この時期に強くなると考えられる。

3

WAI 技法を用いた達成動機の実験的分析

1. 目的	25
2. 方法	27
3. 結果	28
4. 考察	30

1. 目的

第1章でも述べたように、われわれの WAI 技法についての研究の目的の1つは、WAI をパーソナリティ診断を行なうための技法として確立することにある。パーソナリティ診断の目的は、トータルな人間像の把握であるが、われわれは、WAI 技法で得られる1つ1つの反応を読むという経験を重ねるうちに、それらの反応が被験者の主観的なパーソナリティ像のある面にあたるのではないかと考えるようになった。そして、パーソナリティのある特定の側面について注目し、WAI 反応の評価を行なうことも可能であると判断するに至った。本章では、WAI 技法の応用として、パーソナリティの特定の側面について注目し、分析を行なった結果について述べる。

WAI 技法は自由回答法であり、「私は誰でしょう？ (Who am I?)」という質問が与えられるだけなので、施行した時点では研究者の分析視点に余り制約されない反応が得られる。このようにして得られる反応に対しては、様々な反応カテゴリーによる頻度分析や、多変量解析技法を用いた相

関分析など、多様な分析が可能となる。また、反応カテゴリーについては、反応の内容分析から帰納的に作成されたものから、研究目的に従って、ある特定の側面に焦点を当てたものまで、多様なカテゴリーを用いることが可能である。つまり、WAI 技法は、得られた反応に対し、分析者が多様な視点から分析を行なうことができるのである。

第2章でも示したように、われわれの WAI 技法についての一連の研究においては、WAI 反応を数量的に扱う方法として、反応カテゴリーである「基準書」を作成し、それに基づく頻度分析などを行なってきた。基準書は、ア・プリアリな分析枠組みを導入せずに、WAI 技法で得られた反応そのものから、帰納的にカテゴリーを作成するために、KJ 法による内容分析を進めた結果完成されたものである。基準書の作成の過程で、これと槇田・佐野 (1965) のパーソナリティの概要のスキームとの間に対応関係が認められ、パーソナリティのほとんどすべての側面についての記述が WAI 技法において出現し得ることが示された。また、帰納的に作成されたカテゴリーのバリエーションから、われわれの研究目的の1つであると

ころの self-image の一般的な分布についての知見が得られ、self-image の内容が広範囲にわたることが確認された(楨田・岩熊, 1988a; 楨田・岩熊, 1988b; 楨田・岩熊, 1990; 岩熊・楨田, 1991b)。これらの結果から、WAI 技法がパーソナリティ・テストとしての大きな可能性を持ち、WAI 反応を分析することにより、個人の様々な側面をうかがい知ることができると考えられた。

WAI 反応の分析を行なう際には、以上のように帰納的な方法を用い、ア・プリオリな分析枠組みを導入しない方法がある一方で、予め研究者の狙った側面についての枠組みを決め、それに基づき WAI 反応の評定を行なうという方法もある。例えば、Kuhn と McPartland (1954) の「個人の社会システムとのつながり」という視点に基づいた、「consensual な言及と subconsensual な言及」という分類方法や、Gordon (1968) の「社会的同一性」という視点から作成された反応カテゴリーなどがある。このように特定の側面を狙った研究においても、WAI 技法は大きな利点を持っている。その 1 つは、WAI 技法では被験者の自発的な反応が得られるということである。そのため、研究者の分析視点の影響をほとんど受けず、より自然な形でデータを収集することができる。もう 1 つの利点は、被験者の“生”に近い言葉が得られることである。このことによって、実際に被験者が何を考え、どのように感じているかを知ることができ、そこから新たな知見が得られる可能性もある。このように WAI 技法は、パーソナリティの特定の側面の分析に対しても有効性を持ち、なおかつ研究者の枠組みに制約されずに多くの情報を提供し得るといった利点も持っていると考えられる。

ところで、われわれは「基準書」を用いた WAI 反応の評定を行なう過程で、経験的に、WAI 反応の中に「達成動機」についての表現が出現することを知った。例えば、最終版基準書では、〈701 成長欲求〉、〈702 就職の希望〉、〈707 能力に関する願望〉、〈711 将来〉、〈714 生活目標・心掛け〉などのカテゴリーの中に達成動機を示す反応が含まれることがある。Murray (1938) によれば、達成動機は次のように定義される。達成動機は「むずか

しいことを成し遂げること。自然、人間、思想を支配し、あやつり、組織すること。できるだけ迅速に、できるだけ人手を借りずにすること。妨害を克服し高い標準に達すること。自己を超克すること。他人と競争し、ぬきんでること。才能を有効に使って自尊心を増すこと」を目的とし、「困難なことを成し遂げるために、烈しい、ながい反復的努力をすること。高くそして遠い目標に向かって、ただ一つの目標を持って働くこと。勝とうとする決心を持つこと。何事もうまくやろうとすること。他人の存在によって卓越するよう刺激されること。競争を楽しむこと。意志の力を働かすこと。倦怠と疲労を克服すること。」といった行為に表れる。Murray は、TAT (Thematic Apperception Test) によって個人の動機内容の分析を試み、達成動機を含む 20 数個の社会的動機のリストを作成している。一方、McClelland らは、達成動機ならびに TAT による測定方法に注目し、TAT によって個人の達成動機の高低の測定が可能であること、実験状況を操作することにより、TAT の物語内容に表れる達成動機に変化があることを明らかにした (McClelland, Atkinson, Clark, & Lowell, 1953)。彼らは、テストが彼らの一般的な能力やリーダーシップを明らかにするものであるという説明を予め行なって達成動機を高めた被験者と、そのような操作を行わなかった被験者とに分けて、TAT を施行した。そして、「優れた基準の設定」、「ユニークなやり方での遂行」、「長期にわたる達成」といった達成動機の基準を設けて被験者の物語内容を評定し、達成動機を高めた被験者において、より高い達成動機点が得られるという結果を得ている。

TAT はあいまいな刺激である絵画を被験者に見せて物語をつくらせ、そこに投射される被験者自身の欲求や動機などを分析するという技法である。被験者が自発的に自由に言語表現を行ない、自己を投射したものを分析対象とする点において、TAT と WAI 技法は類似している。また、WAI 技法が「私は誰でしょう? (Who am I?)」という教示を与え、被験者自身のことを語るように要求している点を考えると、WAI 反応に表れた達成動機についての表現を被験者自身の達成動

機の強さとして分析することが可能と思われる。

近年日本においては、生涯学習についての議論が盛んである。成人した後も学習を続け、自分を高めたいこうとする姿勢には、その個人の達成動機が強く反映しているように思われる。そこでわれわれは、WAI 技法を用いて、このような個人の達成動機の分析を試みることにした。その際、生涯学習を実践している人々として、放送大学の学生を被験者として用いることにした。放送大学は、わが国の生涯教育のための中核的な存在として、昭和 58 年 4 月に設置された高等教育機関である。昭和 60 年 4 月より学生の受け入れを開始し、平成元年 3 月には第 1 期の卒業生が誕生している。放送大学に在籍している学生の構成を見ると、年齢的には 30 才以上が全体の約 2/3 を占め、教員、公務員、会社員、個人・自由業、農業といった有職者が過半数を占めている（「平成元年度 放送大学学園要覧」より）。放送大学卒業のためには、4 年以上在籍し、テレビ・ラジオでの放送授業を視聴してレポートを提出すること、各地域にある学習センターでの面接授業に出席し、単位認定試験を受けること、最終年度には卒業研究を行なうことが必要とされている。実際、放送大学で卒業を目指している学生にとって、放送大学は物理的な時間においても、精神的な自己関与度においても生活の中で大きな比重を占めているようである。このように、放送大学在学生の多数を占める社会人、中・高齢者にとって、放送大学に在学し、なおかつ卒業を目指すことは容易なことではなく、単に知的欲求があるという以上の強い意欲が必要である。つまり、放送大学に在学する学生は、一般の人々に比して強い達成動機を特性として持っていることが予測される。そして、WAI 技法が達成動機を測る道具として有効であるなら、放送大学に在籍する学生の集団は、そうでない人々の集団に対して、高い達成動機の強さを示すことになる。このような仮説に基づき、放送大学に在籍する学生に WAI 技法を施行し、放送大学以外の人々と反応を比較することにした。

以上のように、われわれは、WAI 技法を用いて“達成動機”についての分析を試みることにした。

そして、この試みを通じて、WAI 技法が、パーソナリティの特定の側面を評価する道具として有用性を持つかどうかを検討していくことにした。

2. 方法

〔被験者と WAI 施行の手続き〕

放送大学の学生に対する WAI 技法の施行に際しては、次の 2 つの手続きのいずれかがとられた。その 1 つは、放送大学の学習センターにおいて、面接授業の時間中に集団施行するというものである。教室で WAI 用紙を配布し、被験者全員に口頭で WAI 技法についての教示を与え、その後で被験者からの質問を受けた。記入に要する時間には個人差があるため、20～30 分の時間を与えたが、時間内に書き終わらなかった被験者に対しては、授業終了後の休憩時間や自宅での記入を求め、後日回収した。2 つめの手続きは、放送大学在学中の学生に個人的に依頼するものである。被験者に WAI 用紙を手渡して口頭で教示を与え、自宅で記入して後日提出するよう求めた。今回のデータ収集においては、氏名、年齢、現住所、学歴、職業などをフェイス・シートに記入する通常の WAI 用紙での施行が難しいため、年齢と性別のみを記入する無記名 WAI 用紙を使用した。また、いずれの手続きにおいても、WAI 記入の教示では今回の研究の目的については触れず、一般的な WAI 技法の教示のみを与えた。

以上のような手続きを経て収集された放送大学の有効データ数は、30 才以上の男性 82 名、女性 186 名、計 268 名分であった。一方、放送大学の学生に対する比較対照群は、1989 年度まで

表 3-1 被験者の内訳

年 齢	放送大			対照群			計		
	男性	女性	計	男性	女性	計	男性	女性	計
30代	22	48	70	30	50	80	52	98	150
40代	28	78	106	31	79	110	59	157	216
50代	11	34	45	21	41	62	32	75	107
60才以上	21	26	47	30	40	70	51	66	117
計	82	186	268	112	210	322	194	398	590

に収集されていた 30 才以上の有効データ、男性 2,549 名、女性 2,875 名、計 5,424 名の中から放送大学の学生以外の男性 112 名、女性 210 名、計 322 名をランダムに抽出した。表 3-1 は、放送大学と対照群の被験者の構成を示したものである。

[達成動機の評価と集計]

達成動機の評価に際しては、上記の全被験者の WAI の各反応に対し、そこに表現されている達成動機の強さを弱い方から“±”，“+”，“++”の 3 段階で評価した。そして、これらの評価に対応させて、それぞれ 0 点、1 点、2 点の達成動機得点を与えた。手続きの第 1 段階では、達成動機に対する評価基準を作成した。全被験者の WAI 反応の中からいくつかを任意に取り出し、それぞれの反応を読み、達成動機がより強く表現されていると思われる反応から順に並べていき、それらを“++”，“+”，“±”の 3 つのグループにわけた。次の段階では、このようにして得られた反応を基準例として、590 名の被験者すべての WAI 反応についての評価を行ない、被験者ごとに達成動機得点を算出した。表 3-2 は、実際に達成動機評価において“++”，“+”，“±”とされた反応例を示したものである。達成動機の評価は、最終的には、放送大学の学生 1 名がおこなったが 評価基準の作成の段階では、心理学を専攻する大学院レベルの者と教員が各 1 名ずつ加わり、3 者の合議によって

表 3-2 WAI 反応の達成動機についての評価例

評価	得点	反 応 例
++	2	<ul style="list-style-type: none"> やる気 根気 勇気 元気一倍あり まだまだこれからだと思ふ。ファイトはいつも湧く。 私は〇〇(会社名)の益々の発展に努力します。 4年で必ず卒業するつもりである。 何かに挑戦している時がうらやましい。
+	1	<ul style="list-style-type: none"> 私は仕事が好きです。 本をたくさん読みたい。 私は1つくらい習い事をしたいたいと思っている。 現在ワープロに挑戦しています。 わからないことを調べるのが好きである。(百科辞典などで)
±	0	<ul style="list-style-type: none"> 私は主婦です。 東京都民である。 旅行が趣味である。 人の好き嫌いが難しい。 最近少し白髪が出てきました。

基準作成が進められた。また、それに基づく評価も、一定の基準で評価が行なわれるようになるまで、上記 3 名の合議によって行なわれた。なお、被験者の属性によって、評価にバイアスがかからないようにするため、被験者の属性は評価者によって評価を行なった。

3. 結果

以上の手続きに従い、各被験者ごとに達成動機得点を算出した結果、達成動機得点は、最低が 0 点、最高が 8 点であった。次に、達成動機得点の平均を所属集団 (i. e., 放送大学の学生; 対照群), 性別, 年齢 (i. e., 30 代; 40 代; 50 代; 60 才以上) で分けて算出した。その結果が表 3-3 である。さらに、所属集団, 性別, 年齢を要因として、達成動機得点に対する分散分析を行なった。

分散分析の結果は、所属集団の主効果のみが 0.1% 水準で有意であった (表 3-4)。この結果も示すとおり、所属集団間で、平均得点に大きな差

表 3-3 達成動機得点の平均と標準偏差

年齢	性別	放送大		対照群		全体	
		平均	SD	平均	SD	平均	SD
30代	男性	1.18	1.47	0.47	0.78	0.77	1.17
	女性	1.38	1.00	0.58	1.20	0.98	1.07
	全体	1.31	1.83	0.52	1.00	0.89	1.52
40代	男性	1.81	1.42	0.38	0.87	0.97	1.25
	女性	1.31	1.33	0.38	0.63	0.84	1.14
	全体	1.39	1.36	0.38	0.84	0.88	1.16
50代	男性	1.38	2.11	0.48	0.75	0.78	1.41
	女性	1.82	1.70	0.41	0.71	1.05	1.43
	全体	1.71	1.70	0.44	0.72	0.97	1.42
60才以上	男性	1.52	1.57	0.53	0.78	0.94	1.28
	女性	2.54	1.88	0.35	0.88	1.21	1.58
	全体	2.09	1.80	0.43	0.71	1.09	1.45
全体	男性	1.44	1.58	0.46	0.73	0.88	1.25
	女性	1.59	1.88	0.42	0.82	0.97	1.42
	全体	1.54	1.64	0.44	0.79	0.94	1.36

表 3-4 達成動機得点の分散分析

要因	df	F 値
所属 (放送大・対照群)	1	117.09 ***
性別	1	0.16
年代	3	2.00
所属×性別	1	0.82
所属×年代	3	3.14
性別×年代	3	0.91
所属×性別×年代	3	2.16

*** $p < 0.001$

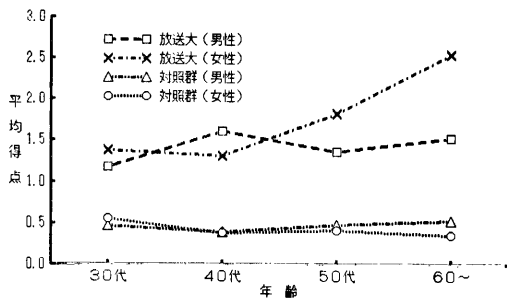


図 3-1 達成動機得点の平均

が認められる。放送大学では 1.54 であるのに対し、対照群は 0.44 と、放送大学の方がかなり高くなっている。性別については、分散分析では有意な効果が認められず、所属集団ごとに見ても、放送大学では、男性の平均得点が 1.44、女性が 1.59 で、対照群では、男性 0.46、女性 0.42 となっている。このように、各所属集団内では性別によって平均得点で差は生まれず、その差は所属集団間に生じていることがわかる。

年齢についても、分散分析で有意な効果が認められていない。しかし、所属集団と性別ごとに、年齢による平均得点の推移をグラフ化すると、図 3-1 のようになる。まず、対照群では、平均得点は 0.3 から 0.6 までの値を推移し、年代や性別による差異はほとんど認められない。放送大学では男女ともにすべての年代で対照群を大きく上回っているが、男性では年代による変化はあまりないのに対し、女性では、40 代以降年齢が高くなるに従い平均得点は高くなる傾向を示している。特に、60 才以上では 2.54 と、すべての年代・性別・所属グループを通じて最も高い得点を示している。対照群の女性では、60 才以上の平均が他の年代とあまり異なるらないため、放送大学との差異

表 3-5 達成動機の反応を示した被験者数

年齢	性別	放送大		対照群		全体	
		実数	%	実数	%	実数	%
30代	男性	14	83.8	10	33.3	24	46.2
	女性	24	50.0	14	28.0	38	38.8
	全体	38	54.3	24	30.0	62	41.3
40代	男性	22	78.6	9	29.0	31	52.5
	女性	49	82.8	24	30.4	73	46.5
	全体	71	87.0	33	30.0	104	48.1
50代	男性	8	54.5	8	38.1	14	43.8
	女性	24	70.6	13	31.7	37	49.3
	全体	30	66.7	21	33.9	51	47.7
60才以上	男性	14	88.7	12	40.0	26	51.0
	女性	23	88.5	10	25.0	33	50.0
	全体	37	78.7	22	31.4	59	50.4
全体	男性	58	68.3	39	34.8	95	49.0
	女性	120	84.5	61	29.0	181	45.7
	全体	178	65.7	100	31.1	278	46.8

が非常に大きなものになっている。

ところで、達成動機得点の全体平均を見ると、0.94 となっている。これは、WAI 反応の中の 20 の回答の中に、達成動機を示すと評価された回答が 1 つもない被験者が多数いることを示唆している。そこで、達成動機を示す反応をした者の数を実際に算出してみることにした。具体的には、1 点以上の達成動機点を持つ被験者、つまり、何らかの達成動機を感じさせる WAI 反応を少なくとも 1 つ以上記述した被験者数を算出し、集団におけるパーセンテージも算出した。その結果が表 3-5 である。これを見ると、達成動機を示す反応をしている者は、全体で 46.8% となっており、半数以上の被験者は、WAI 反応において達成動機を示していないことがわかる。さらに、所属集団、性別、年齢を要因として、度数法による分散分析も行なった (表 3-6)。

分散分析では、平均得点を指標とした場合と同様に、所属集団の主効果のみが有意となっている。全体的にも平均得点を指標とした場合と同様

表 3-6 達成動機反応をしている被験者数の分散分析

要因	df	F 値
所属 (放送大・対照群)	1	80.16 ***
性別	1	1.43
年代	3	1.34
所属×性別	1	0.07
所属×年代	3	1.33
性別×年代	3	0.39
所属×性別×年代	3	2.32

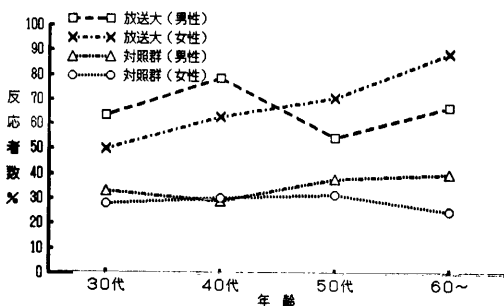
*** $p < 0.001$ 

図 3-2 達成動機反応者の割合

の傾向が見られる。放送大学の全体では 65.7% の者が、何らかの達成動機に関する反応をしているのに対し、対照群では 31.1% となっている。また、男女別に見ると、放送大学では男性が 68.3%、女性が 64.5% であるのに対し、対照群では男性が 34.8%、女性が 29.0% であった。つまり、所属集団間において大きな差が生じているのに対し、各所属集団内では性別による大きな差は認められない。また、図 3-2 に示されているように、所属集団と性別ごとに、年齢による推移をグラフ化しても同様の傾向が認められる。放送大学は、男女とも、いずれの年代においても対照群よりも高い割合を示し、放送大学の女性は年齢が上がるに従い割合も上昇し、60 才以上では 88.5% と、すべての年代・性別・所属グループを通して最も高い割合を示している。

4. 考察

以上のように、WAI 反応に表れた達成動機を評価し、達成動機得点の平均を放送大学と対照群との間で比較したところ、2 つの集団間には大き

な差が認められた。放送大学ではすべての性別・年代において、達成動機得点が対照群を大きく上回るという結果が得られた。また、分散分析の結果においても、放送大学生か否かという所属集団の要因のみが、有意な効果を持つことが示された。この結果は、放送大学に所属する者はそれ以外の人々に比して、高い達成動機を持つという仮説を支持している。そして、性別や年齢の要因よりも、放送大学という集団に所属しているか否かが、達成動機の強さに関連していることを示している。

一方、高齢の放送大学生においては、達成動機に男女差が認められる。放送大学の女性は、特に 40 才以上において、年齢が高くなるに従って達成動機が強くなるという傾向を示している。このような男女差を理解する手がかりの 1 つは、放送大学への進学動機の違いにあるように思われる。何らかの調査結果に基づくものではないが、高齢者の放送大学への進学の動機には、大きく分けて 2 種類のものがあるように思われる。1 つは、「老後の時間で以前からやりたかったことをやりたい」とか、もっと漠然と、「余生を何か有意義なことに使いたい」というものである。もう 1 つは、「若い頃に受けることのできなかった大学教育を受けたい」というものである。高齢になってから放送大学へ在籍するという事は、かなり強い意欲、体力、知力の持ち主でなければ難しい。Allport (1961) も述べているように、能力 (competence) というのは、かなり基本的な動機の 1 つと言える。おそらく、後者のような進学動機で放送大学へ在籍している人は、条件さえ恵まれていれば、若い頃に大学へ進学していた人々と考えられ、このような人々は、資質としてはエリートであり、当然、高い達成動機を持っているであろう。結果として、比較的ゆとりの感じられる前者のような進学動機の人々よりも強い達成動機を示すことになるであろう。

そして、このような進学動機の違いが、高齢の放送大学生の男女の間にもあるように思われる。男性の場合は、大学に行くことが現在ほど一般的ではなかったにしても、高等教育を受けてから社会に出て活躍するということが、1 つのライフ・コースとして確立していた。従って、男性の放送

大学への進学動機は、大学教育を受けたいというよりも、退職後の時間を有意義に使いたいというものが多くなる。それに対し女性は、特に現在 40 才以上の人々の場合、文化的、社会的、経済的な理由によって、若い頃に高等教育を受ける機会が少なく、この傾向は年齢をさかのぼるほど強い。そして、放送大学に在籍する女性の中には、大学教育を受けるだけの意欲、体力、知力に恵まれながら、若い頃に高等教育を受けることができなかった人々が多くいると考えられる。結果として、高齢の放送大学生の男女におけるこのような進学動機の違いが、達成動機の強さの違いとして現れたと考えることもできるであろう。

実際、そのように非常に強い達成動機を持った女性の一群が存在していることは確かなように思える。例えば、放送大学の学習センターにデータ収集に向いた折りにも、各教室で一番前の席で授業を熱心に聞く中高年の女性の姿を多く見かけた。また、WAI への記入を依頼した場合に最も自発的に進んで応じてくれるのも、熱心に自分が理解するまで教示の意味などを質問するのも、中高年の女性であった。このような印象は、放送大学の中老年女性の、実際の WAI 反応を読んでいる時点でもうなづけるものであった。そこで、事例として実際の WAI 反応を 2 つほど挙げてみたい。

事例 1 59 才 女性 放送大学

- 1 放送大学が好き
- 2 私は生け花を教えるのが好き
- 3 何にでも興味がある。
- 4 料理をするのが好きだが時々手抜きをする。
- ⑤ 勉強が楽しい。だが難しい。
- ⑥ 面接授業が好き、直接先生に会えるから。
- ⑦ 暇があるとボランティアをする。
- 8 自分で健康のためヨガを暇をみてやる。
- ⑨ 語学は難しいが必死でがんばっている。
- ⑩ 読書が好き
- 11 水泳が好きだが、時間が無い。
- 12 テニスも好きだが、時間が無い。
- 13 ワープロをやっと覚えた面白い。

- 14 和裁をするのが好きだが卒業まではやめてい
る。
- 15 植木の世話が好き、だが、暇をみてやる。
- 16 絵画を描くのが好きだが今は時間が無い。
- 17 絵画を観るのも好き
- ⑱ まじめである。
- ⑲ 誠実である。
- ⑳ せっかちである。

事例 2 65 才 女性 放送大学

- 1 放送大学生である。
- 2 華道教授をしている。
- 3 元洋裁教師。
- 4 日本画を描く。夢中になれる趣味である。
- 5 団体の役員（会長）を受けている。
- 6 来春卒業の予定である。がんばる考【注：
“積”の間違い】もりである。
- 7 学ぶことは楽しいが、苦しいことでもある。
- 8 時間を 2 倍欲しい。少々行動がトロくなった
気がする。
- ⑨ 何にでも興味がある。
- 10 何でも責任を自分が一人で背負ってしまう。
- ⑪ 責任感が強い ■【注：被験者自身の訂正部分】
まじめである。
- ⑫ 子ども好き。
- 13 卒業したら種々やりたいことがある。
- 14 主婦である。主婦とは一家のプランナーでも
あって楽しくもある。
- 15 主人はじめ家族を愛している。
- 16 もし息子が結婚したら、お嫁さんと仲良く楽
しくやりたい。
- 17 相手のよいことだけを見て、悪い処は許すよ
うに心掛けたい
- 18 誰とでも、仲良くできる。
- 19 「他人 {ひと}【注：被験者自身がルビをふって
いる】は皆わが師なり」誰の言葉か忘れたが、
好きな言葉である
- 20 粗々かしい、忙しい為もある。

どちらの事例も達成動機の高さを感じさせる内容であるが、特に生活空間の広さ、指向の範囲の

広さが目を引く。これらは、放送大学の女性のケースで目につく特徴である。放送大学生は、放送大学での学習に時間を費やすことはもちろんのこと、それぞれ別の趣味や所属団体を持っていることが多い。また、「何にでも興味がある」という表現が両者に共通しているのは非常に暗示的である。また、1 つめの反応は、それぞれ「放送大学が好き」、「放送大学生である」と記述してあり、両者とも放送大学に対するアイデンティティの強さを感じさせる。このように、放送大学の女性の達成動機が中高年において強くなっていくという今回の結果に関しては、経験的に非常に納得できるものであった。

ところで、今回の研究では、反応に示された達成動機をその強弱により 0 点、1 点、2 点という得点に置き換えている。WAI 技法は自由回答法であり、得られる反応は千差万別である。それらを段階のある得点に置き換えることについては、評価基準を決めているとはいえ、評価者の主観にも影響を受けやすく、基準もあいまいになり易いという問題があることも否定できない。しかし、評価基準を作成する際により多くの反応例を示すことによって、このような問題はある程度解決できる。また、多くの評価者に独立に評価を行なわせて、その結果がどのくらい一致するかを確認するという方法も考えられる。今回の分析では、達成動機についての反応を少なくとも 1 つ以上した者の数を指標の 1 つとして用いた。このような方法は、情報量が減るという意味ではデメリットもあるが、評価の安定性をよくするためには有効な方法と言える。特に、評価対象に段階をつけることが難しい場合には、評価の時点からこのような評価方法をとることも考えられる。このような問題も含めて、今後、分析技法の検討が必要であろう。

本章の研究の目的は、パーソナリティの特定の側面の評価における WAI 技法の有効性を検討することにある。今回は、放送大学の学生が一般の人々に比して強い達成動機を示すという予想通りの結果が得られた。今後、「達成動機」と同様に、パーソナリティの様々な側面に焦点を絞って評価を行なうことも可能と思われる。それは、WAI 技法の 1 つの活用方法と言えるであろう。また、それらの知見を積み重ねることによって、まだ未発達と言える WAI 技法の分析技法の発展に寄与するものと期待される。

しかしながら、WAI 技法があらゆる問題に対して有効性を持つとは言えない。それは、WAI 技法が自由回答法であるため、研究者が知りたい側面についての反応を得られるとは限らないからである。今回の分析では、約半数の被験者が達成動機を示す反応をしたが、問題とする側面によっては、このような高い頻度の反応を得られないことも予想される。WAI 技法では、パーソナリティのほとんどすべての側面についての記述が出現し得るが、その中でも出現しやすい側面と出現しにくい側面があることが知られている(岩熊・楨田, 1991b)。例えば、能力的な側面については反応が少ないため、これらの分析に用いることは難しいように思われる。一方、指向的側面についての反応は、WAI 技法において比較的出現しやすく、バラエティもあるため、焦点を絞って評価を行なう方法が有効性を持つと言えるであろう。このように、WAI 技法の応用的な利用については、反応頻度を含めた反応特性をよく検討した上で用いる必要があるだろう。そして、このような研究例を積み重ねることにより、様々な知見が得られるとともに、WAI 技法の特性も明確になってくるものと思われる。

1. 研究の総括	33
2. 今後の研究課題と展望	34

1. 研究の総括

本モノグラフは、「WAI 技法を用いた自我の実証的研究」の成果の一部をまとめたものである。このモノグラフでは特に、最終版基準書の作成過程とそれによる反応頻度の分析、WAI 技法を用いた達成動機分析について述べた。ここでは、このモノグラフの研究成果について概観する。

第1章では、研究プロジェクトの目的とこれまでの研究成果について述べた。そこでは、プロジェクトの目的として5つの目的が挙げられている。特に、第1目的である個人の self-image の内容と範囲の把握と、第2の目的であるその反応頻度の把握は、このプロジェクトの中心的な課題であった。これについては、第2章において最終版基準書の作成とそれに基づく反応頻度の分析によって示されている。また、プロジェクトの目的の中にはまだ十分に達成されていないものもあるが、それについては次節でさらに検討を加える。

第2章では、上にも述べたように、「基準書」の最終版の作成の過程と、それに基づく反応頻度の分析結果について述べた。基準書は、WAI 反

応を分類するための反応カテゴリーで、WAI 反応の内容分析の結果に基づき帰納的に作成されている。これは、1983年にこのプロジェクトが開始されて以来、改訂が重ねられており、今回、最終的な改訂を終えたものである。最終版基準書は、小項目と呼ばれる168のカテゴリーで構成されており、これらの小項目は、大項目と呼ばれる9つの上位カテゴリーのもとにまとめられている。最終版基準書を用いた約4,000名のWAI反応の分析結果によると、大項目《指向》は平均反応数が最も多く、self-image や自我・自己と指向的側面との間に強い関連があることを示唆している。また、名前、性別、年齢といった基本的な属性が年少者において多く、これらが self-image の発達の基礎にあるとも考えられる。小項目単位の分析では、〈112 職場・職業〉、〈113 学校〉、〈201 家庭内の役割〉の言及率が特に高かった。これらは、社会生活や人間関係の場の中心であり、これらが self-image の重要な要素であることを示唆している。その他に、日常生活やキャセクションに関する小項目の言及率が比較的高いことが示された。この結果は、このような外的な対象を含めた個人の心理的な世界全体が、自我・自己の

領域であることを示唆している。

第3章では、WAI技法を用いた新しい試みとして、達成動機の分析を行なった。従来のわれわれの研究では、上記の基準書を中心とした帰納的な分析が主であったが、ここでは、基準書を用いず、達成動機という1つの側面に狙いを絞って分析を行なっている。具体的には、達成動機が強いと予想される放送大学の学生を被験者としてWAI技法を施行し、それ以外の者のWAI反応との比較を行なった。その際、1つ1つの反応がどのくらい達成動機を示しているかを判断するための基準を実際の反応から作成し、その基準に基づいてすべての反応を評価するという手続きをとった。このようにして達成動機得点の平均を放送大学と対照群との間で比較した。その結果、2つの集団の間には大きな差が認められ、放送大学ではどの性別年代においても対照群を大きく上回るという結果を得た。また、分散分析の結果においても、放送大学か否かという所属集団の要因のみが、有意な効果を持つことが示された。この結果は、放送大学に所属する者はそれ以外の人々に比して、高い達成動機を持つという仮説を支持している。そして、性別や年齢の要因よりも、放送大学という集団に所属しているか否かが、達成動機の強さに関連していることを示している。このような結果は、WAI技法が「達成動機」を測る道具として有効であることを示している。また、「達成動機」と同様に、パーソナリティの様々な側面に焦点を絞って評価を行なうことも可能と思われる。このような知見を積み重ねることによって、WAI技法の分析技法の発展に寄与するものと期待される。

2. 今後の研究課題と展望

われわれは、約10年にわたってWAI技法に関する実証的な研究を行なってきた。その中で得られた成果も少なくないが、やり残された課題も存在する。その中で特に重要なのは、WAI技法のパーソナリティ診断への適用の問題である。ここでは、まず、これまでに得られた知見から、WAI技法のパーソナリティ診断への適用可能性

について考えてみたい。

われわれの研究プロジェクトが最も力を入れて取り組んできたのが、WAI反応に現れる内容とその頻度の把握である。それは、つまり、基準書の作成と基準書による反応頻度の分析ということになる。われわれがこれらに力を入れてきた理由は、これらがWAI技法をパーソナリティ診断に適用する際の前提となると考えたからである。WAI技法によって個人の何を知ることができるのかが明確になっていなければ、WAI技法をパーソナリティ診断に利用することはできない。そういう意味では、基準書の作成を通じて得られた知見は、われわれの期待以上のものであった。それは、WAI反応の帰納的な分析の結果、WAI反応が理論的に考えられたパーソナリティのあらゆる側面に及ぶことが示されたからである。しかも、各側面は、内容分析や反応パターンの結果、まとまりを持って現れてきたのである。これは、理論的に導き出されたパーソナリティ・スキームを、期せずして実証したことになる。そこで、われわれはこの結果に基づいて、パーソナリティ・スキームを整理しなおし、実証的な知見を反映したものにした。このパーソナリティ・スキームは、パーソナリティ診断を行なう上でも枠組みとなるものである。つまり、WAI技法は、パーソナリティ・スキームとの対応関係を持つという意味で、パーソナリティ診断において有効性を持っていると言えるであろう。

このように、得られる情報の範囲については、WAI技法のパーソナリティ診断に対する有効性が示されたが、情報の“質”，つまり、WAI反応が個人にとってどんな意味を持つのかということも検討しておく必要がある。われわれは、残念ながら、直接的にこの問題に取り組んだ分析を行っていないが、いくつかの分析の中で、間接的な知見を得ている。その1つは、第3章で示した達成動機に関する分析である。この分析においては、放送大学の学生を被験者としている。われわれは、この分析を始める以前から、データ収集などのために放送大学を訪れており、放送大学の学生が強い達成動機を持っていることを、われわれの自身の目で見えてきた。もちろん、これは主観的

な判断に基づくものではあるが、放送大学を卒業するための要件を考慮すれば、当然のこととも思われる。そこで、WAI 技法を用いて放送大学の学生とそれ以外の者を比較することを試みたわけであるが、その結果は、われわれの予測通り、放送大学の学生が強い達成動機を持つことを示した。これは、WAI 反応が、われわれの見てきた放送大学生の姿を反映しており、被験者の幻想やその場限りのいい加減な反応とは言い切れないものであることを示していると言えるであろう。

WAI 反応の“質”に関するもう 1 つの知見は、WAI 反応の相互関連性の分析で得られている。この分析では、WAI 技法を施行した後で、それについて被験者自身にインタビューを行なっている。その結果、被験者が自分の反応内容について積極的にコメントを述べる傾向が示された。そしてこれは、被験者が反応内容に対し強い興味を持っていることを示唆している。つまり、個人は自らの WAI 反応の内容に強く自我関与しており、見方を変えれば、個人の自我関与しているものが、WAI 反応に現れていると見ることも可能であろう。このように、WAI 反応は、個人の生きた姿を反映し、個人が自我関与している対象、あるいは、その個人が“関わっている”世界をも反映すると言えるであろう。

このような知見を考慮すると、WAI 技法は、反応の範囲やその質から、パーソナリティ診断に適用する上での最低必要条件を満たしていると言える。しかし、具体的にパーソナリティ診断に用いる際の手続きについては、試作段階のものはいくつかあるが、まだ十分な検討は為されていない。評価手続きの作成にあたっては、大きく分けて 2 つの方向が考えられる。その 1 つは、いわゆる標準的な評価手続きを確立することである。標準的な手続きの長所の 1 つは、誰が評価にあたって同じ様な評価結果が得られ、WAI 技法が公共性を持つことにつながることにある。例えば、ある評価者が WAI 反応から導き出したパーソナリティ評価は、その結果を見る別の個人にとっても信頼できるものとなる。結果的には、WAI 技法によって、パーソナリティ診断を行なう人々の間での情報交換が可能となる。もう 1 つの方向

は、WAI 技法を使用する評価者が、それぞれの目的にあわせて、自分なりの評価方法を作りだしていくというものである。WAI 技法で得られる情報が広範囲にわたることは既に示したが、必ずしもすべての評価者がそれらすべてを必要としているわけではない。パーソナリティ診断と言っても、臨床、教育、人事、産業衛生など多様な場面が考えられ、その目的やそれを取り巻く状況もそれぞれに異なる。従って、必要とされる情報も診断を行なう状況によって異なることになる。このような場合、個々の評価者が、その場面において WAI 技法の施行経験を積み重ねることによって、自分の必要とする情報を得るための評価手続きを作り出すことが必要となるであろう。

WAI 技法の評価手続きについては、このようなことが考えられるが、現在最も必要なのは、実際のパーソナリティ診断の事例を積み重ねることである。このような事例の蓄積から、標準的な手続きが確立していくことにもなるし、また、個人が自らの評価手続きを作成する上でも参考となる。本モノグラフには、巻末に事例集として 38 名の WAI 反応が掲載されている。事例集は、「組織行動研究」の No. 16 (楨田・岩熊, 1990) と No. 19 (岩熊・楨田, 1991b) に掲載されている分を併せると、小学生から 70 才以上の老人までの 133 事例となる。これらを見ることで、WAI 反応の特徴や感触もある程度理解できるのではないかと思う。

以上のように、今後の重要な課題の 1 つは、WAI 技法のパーソナリティ診断への適用の問題である。しかしその他に、プロジェクトの目的としては明確に挙げられていないが、解決しておくべき問題や、研究の過程で大きな意味を持ってきた問題もある。その 1 つは、WAI 反応の出現順序、即ち、ある反応が 20 の回答のうちの何答目に現れるかという位置と、反応内容や被験者にとってのそれに対する意味づけなどとの関係である。これについては、他の研究者によって、いくつかの研究結果も示されているが、われわれは、正面からは扱っていない問題である。出現順序は、WAI 反応の基本的な性質の 1 つとも考えられるため、分析する必要のある課題と言えるで

あろう。同様に、“自分らしさ”の○についての分析も、まだ解決されていない課題である。これについては、WAI 技法施行の際に、○を付け忘れる被験者が多いため、分析されずにきた。しかし、これが個人を理解する上で重要な手がかりとなる可能性もあるので、分析を行なっておく必要があるように思われる。

そして、最後に残された課題は、“自我”、“自己”、“パーソナリティ”といった基本的な概念に関する問題である。これらの概念の問題は、多くの心理学者あるいは哲学者を悩ませてきた問題であり、簡単に解決できる課題とは思われない。ところが、先にも述べたように、WAI 反応の帰納的な分析結果とパーソナリティ・スキームの間には対応が認められている。われわれがもともと WAI 技法を用いた理由は、これが自我あるいは自己を理解する上で有効な技法と考えたからであり、このような結果を期待していたわけではない。この結果は、WAI 技法の帰納的な分析によって、それまで実証的に示されるとは考えられて

いなかったパーソナリティ・スキームを、実証的な方法で示したことを意味する。また、自我や自己の概念とパーソナリティの概念が、何らかの強い関連を持つことも示唆している。そういう意味では、これらの概念を実証的に明確にするとまではいかないまでも、WAI 反応の分析から、何らかの手がかりが得られる可能性もあると考えられる。

以上、WAI 技法のパーソナリティ診断への適用の問題を中心に、今後の展望や課題について述べてきた。残された課題は、必ずしも少なくないし、また、容易に解決できるものばかりではない。しかし、WAI 技法の潜在的な可能性も含めて考慮すれば、これらの課題の解決は、やがて何らかの果実をもたらすものと期待できる。このような期待のもとに、われわれだけでなく、多くの研究者やパーソナリティ診断の専門家が、WAI 技法に関する研究を積み重ねていくことが望まれる。

5

文献

1. 引用文献	37
2. 参考文献	38

1. 本文で直接に引用している文献を以下に挙げる。

Allport, G. W. 1961 *Pattern and growth in personality*. New York: Holt, Reinhart & Winston.

(今田 恵監訳 1968 人格心理学 (上・下) 誠信書房)

Erikson, E. H. 1959 *Psychological Issues*. Vol. 1. *Identity and the life cycle*. New York: International Universities Press.

(小此木啓吾訳編 1973 自我同一性 誠信書房)

Gordon, C. 1968 Self-conceptions: Configurations of content. In C. Gordon, & K. J. Gergen (Eds.), *The self in social interaction*. Vol. 1. *Classic and contemporary perspectives*. New York: Wiley. Pp. 115-136.

岩熊史朗 1986 WAI を用いた自我の研究 ——Self-Image の相互関連性について—— 慶應義塾大学大学院社会学研究科修士論文 (未公刊)

岩熊史朗 1991 WAI 技法を用いた自我の実証的研究 ——Self-Image の内容と構造の分析—— 慶應義塾大学大学院社会学研究科博士論文 (未公刊)

岩熊史朗・榎田 仁 1989 個人のセルフ・イメージの構造 ——大学生を被験者とした WAI 反応の相互関連性の分析—— 心理学研究, **60**, 237-244.

岩熊史朗・榎田 仁 1991a セルフ・イメージの発達的变化 ——WAI 技法に対する反応パターンの分析—— 社会心理学研究, **6**, 155-164.

岩熊史朗・榎田 仁 1991b WAI 技法を用いた自我の実証的研究 (2) 組織行動研究 (慶應義塾大学産業研究所), No. 28. (Vol. 19)

Kingdon, J. W. 1967 Politicians' beliefs about voters. *The American Political Science Review*, **61**, 137-145.

Kuhn, M. H., & McPartland, T. S. 1954 An empirical investigation of self-attitudes. *American Sociological Review*, **19**, 68-76.

McClelland, D. C., Atkinson, J. W., Clark, R. A., & Lowell, E. L. 1953 *The achievement motive*. New

York: Appleton-Century-Crofts.

- 楨田 仁・星 薫・岩熊史朗 1991 WAI 技法を用いた Self-Image の研究 (3) —— ライフ・サイクルを通じた発達の変化—— 慶應義塾大学大学院社会学研究科紀要, 31, 79-88.
- 楨田 仁・岩熊史朗 1988a WAI 技法を用いた Self-Image の研究 (1) —— 内容分析 (KJ 法) による基準書の作成—— 慶應義塾大学大学院社会学研究科紀要, 28, 61-71.
- 楨田 仁・岩熊史朗 1988b WAI 技法を用いた Self-Image の研究 (2) —— WAI 反応の発達の変化—— 哲学 (慶應義塾大学三田哲学会), 87, 305-327.
- 楨田 仁・岩熊史朗 1990 WAI 技法を用いた自我の実証的研究 (1) 組織行動研究 (慶應義塾大学産業研究所), No. 25. (Vol. 16)
- 楨田 仁・佐野勝男 1965 Dosefu-Test 基本生活領域の診断——テスト解説—— 金子書房
- Montemayor, R., & Eisen, M. 1977 The development of self-conceptions from childhood to adolescence. *Developmental Psychology*, 13, 314-319.
- Murray, H. A. 1938 *Explorations in personality: A clinical and experimental study of fifty men of college*. New York: Oxford University Press.
- (外林大作訳編 1962 パーソナリティ I・II 誠信書房)
- Rogers, C. R. 1951 *Client-centered therapy: It's current practice, implications and therapy*. Boston: Houghton.
- (伊藤 博訳編 1967 パーソナリティ理論 ロージャズ全集 8 岩崎学術出版社)
- Spranger 1919 *Lebensformen*. 5th ed. Halle: Niemeyer.

2. WAI 技法, 20 答法 (TST), W-A-Y 技法, “Tell Us about Yourself” テストに関する文献を参考文献として挙げる。先に挙げた文献と重複しているものもあるが, 専門書あるいは雑誌論文として, 公刊されているものを中心に取り上げた。

- Andersen, N. N. 1965 Insitutionalization, interaction, and self-conception in aging. In A. M. Rose, & W. A. Peterson (Eds.), *Older people and their social world*. Philadelphia: F. A. Davis. Pp. 245-257.
- Armstrong, R. G., Hambacher, W. O., & Overley, J. F. 1962 Self concepts of psychiatric and normal subjects as revealed by the WAY test. *Journal of Clinical Psychology*, 18, 271-276.
- Atsumi, R., & Hoshino, A. 1960 The relationship between self-attitudes of children and adjustment levels as related by peer group members. *Japanese Psychological Research*, 4, 135-138.
- Back, K. W., & Paramesh, C. R. 1969 Self-image, information exchange, and social character. *International Journal of Psychology*, 4, 109-117.
- Bigner, J. J. 1971 Sibling position and definition of self. *Journal of Social Psychology*, 84, 307-308.
- Brim, O. G., Jr. 1965 Adolescent personality as self-other systems. *Journal of Marriage and the Family*, 27, 156-162.
- Brim, O. G., Jr., & Wood, N. 1956 Self and other conceptions in courtship and marriage pairs. *Journal of Marriage and Family Living*, 18, 243-248.
- Brodsky, S. L. 1967 The WAYTE method for investigating self-perceptions. *Journal of Projective Technique and Personality Assessment*, 31, 60-64.
- Brooks, R. S. 1969 The self and political role: A symbolic interactionist approach to political ideology. *Sociological Quarterly*, 10, 22-31.
- Brown, C. M., & Ferguson, L. W. 1968 Self-concept and religious belief. *Psychological Reports*, 22, 266.

- Buerkle, J. V. 1960 Self-attitudes and marital adjustment, *Merrill-Palmer Quarterly*, 6, 114-124.
- Bugental, J. F. T. 1964 Investigation into the self-concept: III. Instructions for the W-A-Y method. *Psychological Reports*, 15, 643-650.
- Bugental, J. F. T., & Gunning, E. C. 1955 Investigation into self concept: II. Stability of reported self-identifications. *Journal of Clinical Psychology*, 11, 41-46.
- Bugental, J. F. T., & Zelen, S. L. 1949 "Who Are You?" A preliminary report on a method for studying the phenomenal self. *American Psychologist*, 4, 387.
- Bugental, J. F. T., & Zelen, S. L. 1950 Investigation into the 'self-concept': I. The W-A-Y technique. *Journal of Personality*, 18, 483-498.
- Clark, M., & Anderson, B. G. 1967 *Culture and aging: An anthropological study of older Americans*. Springfield, Ill.: C. C. Thomas.
- Coe, R. M. 1965a Self-conception and institutionalization. In A. M. Rose, & W. A. Peterson (Eds.), *Older people and their social world*. Philadelphia: F. A. Davis. Pp. 225-243.
- Coe, R. M. 1965b Self-conception and professional training. *Nursing Research*, 14, 19-52.
- Couch, C. J. 1958 Self-attitudes and degree of agreement with immediate others. *American Journal of Sociology*, 63, 491-496.
- Couch, C. J. 1962 Family role specialization and self-attitudes in children. *Sociological Quarterly*, 3, 115-121.
- Couch, C. J. 1966 Self identification and alienation. *Sociological Quarterly*, 7, 255-264.
- Dorn, D. S. 1968 Self-concept, alienation, and anxiety in a contraculture and subculture: A research report. *Journal of Criminal Law, Criminology, and Police Science*, 59, 531-535.
- Driver, E. D. 1969 Self-conceptions in India and the United States: A cross-cultural validation of twenty statements test. *Sociological Quarterly*, 10, 341-354.
- Erickson, R. J., Grow, W. J., Zurcher, L. A., Connett, A. V., & Stillwell, W. D. 1971 *The offender looks at his own needs*. LaJolla, California: Western Behavioral Sciences Institute.
- 古沢厚子・星野 命 1962 自己記述にあらわれた自己態度の安定性 国際基督教大学学报 1-A, 教育研究, 9, 97-124.
- Garretson, W. S. 1962 The consensual definition of social objects. *Sociological Quarterly*, 3, 107-113.
- Gebel, A. S. 1954 Self-perception and leaderless group discussion status. *Journal of Social Psychology*, 40, 309-318.
- Gordon, C. 1968 Self-conceptions: Configurations of content. In C. Gordon, & K. J. Gergen (Eds.), *The self in social interaction*. Vol. 1. *Classic and contemporary perspectives*. New York: Wiley. Pp. 115-136.
- Gordon, C. 1969 Self-conceptions methodologies. *Journal of Nervous and Mental Disease*, 148, 328-364.
- Grossack, M. M. 1960 The "Who Am I" Test. *Journal of Social Psychology*, 51, 399-402.
- Gustav, A. 1962 Comparison of college grades and self-concept. *Psychological Reports*, 11, 601-602.
- Hall, P. M. 1966 Identification with the delinquent subculture and level of self-evaluation. *Sociometry*, 29, 146-158.
- Harris, E. E. 1965a Family and student identities: An exploratory study in self and "we-group" attitudes. *Journal of Negro Education*, 34, 17-22.
- Harris, E. E. 1965b Racial and national identities: An exploratory study in self and "we-group" attitudes. *Journal of Negro Education*, 34, 425-430.
- Hickman, C. A., & Kuhn, H. M. 1956 *Individuals, groups, and economic behavior*. New York: Dryden Press.

- 星野 命 1986 二〇答法 詫摩武俊 (監) パッケージ・性格の心理学 第6巻 性格の理解と把握 プレーン出版 Pp. 169-185.
- Insel, S. A., Reese, C. A., & Alexander, B. B. 1968 Self-presentations in relation to internal and external referents. *Journal of Consulting and Clinical Psychology*, **32**, 389-395.
- Isenberger, W. 1959a Self-attitudes of women physical education major students and of women physical education teachers. *Research Quarterly of the American Association of Health, Physical Education, and Recreation*, **30**, 44-53.
- Isenberger, W. 1959b Self-attitudes of women physical education major students as related to measures of interest and success. *Research Quarterly of the American Association of Health, Physical Education, and Recreation*, **30**, 167-177.
- 岩熊史朗・槇田 仁 1989 個人のセルフ・イメージの構造 ——大学生を被験者とした WAI 反応の相互関連性の分析—— 心理学研究, **60**, 237-244.
- 岩熊史朗・槇田 仁 1991a セルフ・イメージの発達の变化 ——WAI 技法に対する反応パターンの分析—— 社会心理学研究, **6**, 155-164.
- 岩熊史朗・槇田 仁 1991b WAI 技法を用いた自我の実証的研究 (2) 組織行動研究 (慶應義塾大学産業研究所), No. 28. (Vol. 19)
- Jones, J. G., & Strowig, R. W. 1968 Adolescent identity and self-perception as predictors of scholastic achievement. *Journal of Educational Research*, **62** (2), 78-82.
- 梶田毅 1988 自己意識の心理学 [第2版] 東京大学出版会
- Kaplan, H. B., & Meyerowitz, J. H. 1970 Social and psychosocial correlates of drug abuse: A comparison of addict and non-addict populations from the perspective of self-theory. *Social Science and Medicine*, **4**, 203-225.
- Karmel, M. 1969 Total institutions and self-mortification. *Journal of Health and Social Behavior*, **10**, 134-141.
- 加藤孝義 1964 TST による肢体不自由者の自己態度について 臨床心理, **3** (1), 42-45.
- 加藤孝義 1966 TST による肢体不自由者の自己観について 臨床心理, **5** (4), 14-24.
- Kato, T. 1967 Self-concept of the physically handicapped in two kind of twenty statements test. *Tohoku Psychological Folia*, **25**, 104-114.
- Kikuchi, T. 1968 Studies on the development of self-concept (I): An investigation the self-concept of children and adolescents by a modified method of twenty statements test. *Tohoku Psychological Folia*, **27**, 22-31.
- 菊地登紀子 1968 女子大学生の自己観 修紅短期大学紀要, **1**, 1-16.
- 菊地登紀子 1970 青年期における自己観 [1] ——私立女子高校生における発達の様相—— 岩手大学教育学部研究年報, **30**, 57-74.
- Koenig, F. 1969 Definitions of self and ordinal position of birth. *Journal of Social Psychology*, **78**, 287-288.
- 国際基督教大学教育研究所教育心理学研究室自己態度研究会 1962 少年の自己態度分析法における非行性の研究 科学警察研究所報告 (防犯少年編), **3**(2), 77-81.
- 国際基督教大学教育研究所教育心理学研究室自己態度研究会 1963 少年の非行性の分析記述に関する研究 科学警察研究所報告 (防犯少年編), **4** (2), 101-109.
- Kuhn, M. H. 1960 Self-attitudes by sex and professional training, *Sociological Quarterly*, **1**, 39-55.
- Kuhn, M. H. 1962 The interview and the professional relationship. In A. M. Rose (Ed), *Human behavior and social processes*. Boston: Houghton Mifflin. Pp. 193-206.
- Kuhn, M. H., & McPartland, T. S. 1954 An empirical investigation of self-attitudes. *American Sociological Review*, **19**, 68-76.

- Liu, W. T. 1962 Self-concept, life goals and anomia among delinquents and nondelinquents. *American Catholic Sociological Review*, 23, 41-55.
- Lowenthal, M. F., & Berkman, P. L. 1967 *Aging and mental disorder in San Francisco*. San Francisco: Jossey-Bass.
- McClelland, D. C., & Winter, D. G. 1969 *Motivating economic achievement*. New York: Free Press.
- McGuire, W. J., & McGuire, C. V. 1981 Spontaneous self-concept as affected by personal distinctiveness. In M. D. Lynch, A. A. Norem-Hebeisen, & K. J. Gergen (Eds.), *Self Concept: Advances in theory and research*. Cambridge, Mass.: Ballinger. Pp. 147-171.
- McGuire, W. J., McGuire, C. V., & Winton, W. 1979 Effects of household sex composition on the salience of one's gender in the spontaneous self-concept. *Journal of Experimental Social Psychology*, 15, 77-90.
- McGuire, W. J., & Padawer-Singer, A. 1976 Trait salience in the spontaneous self-concept. *Journal of Personality and Social Psychology*, 33, 743-754.
- McLaughlin, B. 1966 The WAI dictionary and self-percieved identity in college students. In P. J. Stone, D. C. Dunphy, M. S. Smith, & D. M. Ogilvie (Eds.), *The general inquirer: A computer approach to content analysis*. Cambridge, Mass.: M. I. T. Press. Pp. 548-566.
- McPartland, T. S., & Cumming, J. H. 1958 Self-conception, social class, and mental health. *Human Organization*, 17, 24-29.
- McPartland, T. S., Cumming, J. H., & Garretson, W. S. 1961 Self-conception and ward behavior in two psychiatric hospitals. *Sociometry*, 24, 11-124.
- McPhail, S. C. 1968 Respondents' judgements of self statements. *Sociological Quarterly*, 9, 202-209.
- 榎田 仁・星 薫・岩熊史朗 1991 WAI 技法を用いた Self-Image の研究 (3) ——ライフ・サイクルを通じての発達の変化—— 慶應義塾大学大学院社会学研究科紀要, 31, 79-88.
- 榎田 仁・岩熊史朗 1988a WAI 技法を用いた Self-Image の研究 (1) ——内容分析 (KJ 法) による基準書の作成—— 慶應義塾大学大学院社会学研究科紀要, 28, 61-71.
- 榎田 仁・岩熊史朗 1988b WAI 技法を用いた Self-Image の研究 (2) ——WAI 反応の発達の変化—— 哲学 (慶應義塾大学三田哲学会), 87, 305-327.
- 榎田 仁・岩熊史朗 1990 WAI 技法を用いた自我の実証的研究 (1) 組織行動研究 (慶應義塾大学産業研究所), No. 25. (Vol. 16)
- Maranell, G. M. 1965 An examination of self and group attitudes of adolescent clique members. *The Kansan Journal of Sociology*, 1, 123-130.
- Mason, E. P. 1954 Some factors in self judgements. *Journal of Clinical Psychology*, 10, 336-340.
- Mason, E. P., Adams, H. L., & Blood, D. F. 1966 Personality characteristics of gifted college freshmen. *Psychology in the School*, 3, 360-365.
- Mason, E. P., Adams, H. L., & Blood, D. F. 1968 Further study of personality characteristics of bright college freshmen. *Psychological Reports*, 23, 395-400.
- Mason, E. P., & Blood, D. F. 1966 Cross-validation study of personality characteristics of gifted college freshmen. *Proceedings of the 74th Annual Convention of the American Psychological Association*, 1, 283-284.
- 松本 巖 1967 20 答法による初任科生の自己態度 科学警察研究所報告 (防犯少年編), 8 (2), 76-81.
- Montemayor, R., & Eisen, M. 1977 The development of self-conceptions from childhood to adolescence. *Developmental Psychology*, 13, 314-319.
- Mulford, H. A., & Salisbury, W. W., II. 1964 Self-conceptions in a general population. *Sociological Quarterly*, 5, 35-46.
- 村本由紀子 1989 アイデンティティ確立の発達段階が社会的比較に及ぼす効果 社会心理学研究, 4, 1-10.

- 長尾 勲 1975 TST に見られる自己態度 (I) 九州産業大学教養学部紀要, 12 (2), 63-69.
- 長尾 勲 1980 T・S・T に見られる自己態度 IV 九州産業大学教養学部紀要, 16, 85-105.
- 西村春夫・星野 命 1964 自己態度の記述の心理的負荷について 科学警察研究所報告 (防犯少年編), 5 (2), 13-28.
- Oyamada, T. 1967 Two modes of self-image. *Tohoku Psychologia Folia*, 25, 97-103.
- 小山田隆明 1971 セルフ・イメージの発達の研究 (序説) 岐阜大学研究報告 (人文科学), 20, 88-96.
- Oyamada, T., Kikuchi, T., & Sato, S. 1967 Studies on sensory deprivation: VI. Part 4. Effects of sensory deprivation on the self-image. *Tohoku Psychologia Folia*, 26, 21-25.
- Ruff, G. E., & Levy, E. Z. 1959 Psychiatric evaluation of candidates for space flight. *American Journal of Psychiatry*, 116, 385-391.
- Saeki, C. 1979 An analysis at adolescent's self-concept using the WAI test. 慶應義塾大学大学院社会学研究科紀要, 19, 81-89.
- Sato, I. 1965 Studies on sensory deprivation: IV. Part 5. Changes of "self-concept" under sensory deprivation. *Tohoku Psychologia Folia*, 24, 18-23.
- Schmitt, R. L. 1966 Major role change and self change. *Sociological Quarterly*, 7, 311-322.
- Schneider, L., & Zurcher, L. 1970 Toward understanding the Catholic crisis: Observations on dissident priests in Texas. *Scientific Study of Religion*, 9, 197-207.
- Schwirian, K. P. 1964 Variation in structure of the Kuhn-McPartland TST and related response differences. *Sociological Quarterly*, 5, 47-59.
- Spitzer, S. P. 1969 Test equivalence of unstructured self-evaluation instruments. *Sociological Quarterly*, 10, 57-62.
- Spitzer, S. P. 1981 Reflective Process. In M. D. Lynch, A. A. Norem-Hebeisen, & K. J. Gergen (Eds.), *Self Concept: Advances in theory and research*. Cambridge, Mass.: Ballinger. Pp. 75-85.
- Spitzer, S. P., Couch, C. J., & Stratton, J. R. 1970 *The assessment of the self*. Iowa City: Sernoll.
- Spitzer, S. P., Stratton, J. R., Fitzgerald, J. D., & Mach, B. K. 1966 The self concept: Test equivalence and perceived validity. *Sociological Quarterly*, 7, 265-280.
- Stewart, R. L., & Vernon, G. M. 1959 Four correlates of empathy in the dating situation. *Sociology and Social Research*, 43, 280-285.
- Stratton, J. R., & Spitzer, S. P. 1966 Test equivalence of projective and structured self-concept instruments. *Journal of Projective Technique and Personality Assessment*, 30, 456-459.
- Stratton, J. R., & Spitzer, S. P. 1967 Sexual permissiveness and self-evaluation: A question of substance and a question of method. *Journal of Marriage and Family*, 29, 437-441.
- Swanborn, P. G., & Weima, J. 1966 A social psychological study of religious non-believers: A clitique and a replication. *Social Compass*, 12, 158-163.
- Tamney, J. B., Hopkins, K., & Jacovini, J. 1965 Social psychological study of religious nobelievers. *Social Compass*, 13, 177-186.
- 高垣忠一郎 1974 TST にあらわれた反応の心理的負荷について 京都大学教育学部紀要, 20, 209-227.
- 高垣忠一郎 1975 TST (20 答法) における 2 つの反応儀式について 京都大学教育学部紀要, 21, 18-25.
- Tanaka, H., Kosukegawa, T., Kikuchi, T., & Sakamoto, M. 1969 Studies on the sensory deprivation: VII. Part 3. Results of the personality tests and interview. *Tohoku Psychologia Folia*, 27, 82-90.
- Tolor, A. 1957 Self-perceptions of neuropsychiatric patients on the W-A-Y test. *Journal of Clinical Psychology*, 13, 403-406.
- Tucker, C. W., Jr. 1966 Some methodological problems of Kuhn's self theory. *Sociological Quarterly*, 7, 345-365.

- Vernon, G. M. 1962a Religious self-identification. *Pacific Sociological Review*, 5, 40-43.
- Vernon, G. M. 1962b Measuring religion: Two methods compared. *Review of Religious Research*, 3, 159-165.
- Vernon, G. M., & Stewart, R. L. 1959 Is American religiosity real? *The Humanist*, 1, 14-16.
- Waisanen, F. B. 1962 Self attitudes and performance expectations. *Sociological Quarterly*, 3, 208-219.
- Warshay, L. H. 1962 Breadth of perspective. In A. M. Rose (Ed), *Human behavior and social processes*. Boston: Houghton Mifflin. Pp. 148-176.
- Wellman, B. 1971 "I am a student." *Sociology of Education*, 44, 422-437.
- Wylie, R. C. 1974 *The self-concept*. 2nd ed. Vol. 1. Lincoln: University of Nebraska Press.
- 山田ゆかり 1989 青年期における自己概念の形成過程に関する研究 ——20 答法での自己記述を手がかりとして—— 心理学研究, 60, 245-252.
- Zelen, S. L. 1954a Acceptance and acceptability: An examination of social reciprocity. *Journal of Consulting Psychology*, 5, 316.
- Zelen, S. L. 1954b The relationship of peer acceptance, acceptance of others, and self-acceptance. *Proceedings of Iowa Academy of Science*, 61, 446-449.
- Zelen, S. L., Sheehan, J. G., & Bugental, J. F. T. 1954 Self-perceptions in stuttering. *Journal of Clinical Psychology*, 10, 70-72.

6

資料

1. 最終版基準書	45
2. WAI 事例集	71

1. 最終版基準書

基準書は、WAI 反応のための評価カテゴリーである。基準書は、WAI 反応の内容分析の結果に基づいて帰納的に作成されている。ここに掲載した最終版基準書は、1983年に初版が作成されて以来、数回の改訂の結果得られたものである。この基準書には、小項目と呼ばれる168のカテゴリーがあり、それらは大項目と呼ばれる9つの上位カテゴリーに分類されている。

ここでは、最終版基準書の全カテゴリーの小項目名と例示を掲載した。小項目名は、各カテゴリーの全体を代表するように付けられており、例示は、実際どのような反応がそのカテゴリーに分類されるかを示している。実際の分類評価においては、小項目名と例示を総合的に見て、最も近いと思われるカテゴリーに反応を分類することになる。なお、基準書の巻末には、小項目名及び例示の五十音順索引を掲載してある。

最終版基準書の構成は以下のようになっている。

大項目名	小項目番号	ページ
1. 社 会	101~117	46
2. 家 庭	201~211	48
3. 個 体	301~303	49
4. 能 力	401~409	49
5. 情 意	501~542	50
6. 力 動	601~627	54
7. 指 向	701~755	56
8. そ の 他	801~803	60
9. 無 回 答	901	60
小項目名・例示索引		61

社会

小項目名	例 示
101 名前	<ul style="list-style-type: none"> ・山田太郎です。 ・鈴木です。 ・礼子です。 ・名前は～です。 ・旧姓～です。
102 ニックネーム	<ul style="list-style-type: none"> ・ニックネームは～です。 ・～というあだ名があります。 ・人から～と呼ばれています。
103 性別	<ul style="list-style-type: none"> ・男である。 ・女です。 ・男ではありません。
104 年齢・世代	<ul style="list-style-type: none"> ・～才です。 ・未成年。中年。 ・三十代。 ・思春期。 ・若いです。 ・大人。 ・大人と子供の間。 ・おじさん。おばさん。 ・私はそろそろ還暦を迎える。
105 生年月日	<ul style="list-style-type: none"> ・～年～月～日生まれ。 ・戦前派。戦後派。 ・犬年生まれ。 ・昭和一桁。 ・天秤座。 ・団塊の世代。
106 人種・国籍	<ul style="list-style-type: none"> ・東洋人。 ・日本人。 ・国籍はアメリカ。 ・アジア人。 ・黄色人種。 ・大和民族。 ・日系二世である。 ・ハーフです。
107 住所	<ul style="list-style-type: none"> ・東京都民。 ・～市民です。 ・杉並区に住んでいる。 ・昔、～に住んでいた。

小項目名	例 示
108 暮らし方	<ul style="list-style-type: none"> ・アパート暮らし。 ・寮生。下宿人。 ・山の上に住んでいる。 ・一人暮らし。 ・単身赴任中。
109 出身・育ち	<ul style="list-style-type: none"> ・～出身。 ・～で生まれた。 ・本籍は～。 ・江戸っ子。浜っ子。 ・～で育った。 ・下町育ち。 ・田舎者。
110 家柄・ 家の職業	<ul style="list-style-type: none"> ・上流階級。 ・中流家庭。 ・家は八百屋をやっている。 ・農家に生まれた。 ・～家の子孫。 ・祖先は～。
111 結婚	<ul style="list-style-type: none"> ・結婚している。 ・独身である。 ・新婚である。 ・結婚～年。 ・結婚式を迎えた。 ・離婚歴がある。
112 職場・職業	<ul style="list-style-type: none"> ・会社員。サラリーマン。OL。 ・公務員。教師。歯科医。 ・社会人。 ・会社名。職種。仕事の内容。部署。 ・自営業を営んでいる。 ・仕事が忙しい。 ・仕事が好き。 ・仕事に不熱心。 ・上司とうまく行っている。 ・上司に恵まれていない。 ・転職を考えている。 ・～年働いています。 ・定年間近。 ・無職。

小項目名	例 示
113 学校	<ul style="list-style-type: none"> ・学校名。学生。学年。学部。学籍番号。 ・高校生。大学生。浪人。受験生。 ・大学で～を勉強をしている。 ・学校が好き。 ・学校へ行きたくない。 ・先生が嫌い。 ・高校生活は面白かった。
114 学歴・職歴	<ul style="list-style-type: none"> ・学歴。 ・出身校。 ・職歴。 ・～社に勤めていた。 ・～高校のOB。 ・元海軍中尉。
115 クラブ・ 所属団体	<ul style="list-style-type: none"> ・児童文化研究会に入っている。 ・クラブに青春をかけている。 ・サークルの部長。 ・学生時代はラグビー部だった。 ・会社でサークルに入っている。 ・近所の茶道のサークルの代表。 ・早朝野球のチームのエース。 ・大学で～ゼミに入っている。 ・～ゼミのOB。 ・サークルには入っていない。 ・町内会長です。 ・地元の消防団員。 ・PTAの理事。 ・子供会の役員。 ・老人クラブの会長。 ・ライオンズクラブの会員。
116 友人・恋人	<ul style="list-style-type: none"> ・～君と友達。 ・友人を大切にしている。 ・友人に感謝している。 ・友人が多い、少ない。 ・友達が欲しい。 ・友人は少ないが、深くつきあう方。 ・恋人がいる。 ・片思い中。 ・～さんは私の恋人です。 ・私の彼女は可愛い。 ・～さんが好きです。 ・～君に懂れています。

小項目名	例 示
117 経済状態	<ul style="list-style-type: none"> ・年収。月収。収入。ボーナス。 ・年金を～円もらっている。 ・仕送り。 ・アルバイト料。 ・おこづかい。お年玉。 ・初任給は～万円。 ・経済的に自立している。 ・共働き。 ・その日暮し。 ・年金暮らしをしている。 ・アルバイト、パートをしている。 ・貯金が～円ある。 ・へそくりをしている。 ・株主。 ・消費者。 ・納税者。青色申告者。

家庭

小項目名	例示
201 家庭内の役割	<ul style="list-style-type: none"> ・父。母。夫。妻。嫁。 ・長男。長女。末っ子。 ・一人っ子。 ・兄。姉。弟。妹。 ・～人兄弟の～番目。 ・～家の一員。 ・世帯主。当主。 ・未亡人。 ・扶養家族を持っている。 ・主婦（家事をする人）。 ・妊婦（もうすぐ母親になる）。
202 両親	<ul style="list-style-type: none"> ・両親とうまくいっている。 ・親孝行。 ・親を大切にしない。 ・両親健在。 ・親子喧嘩が絶えない。 ・両親と別居しています。
203 父親	<ul style="list-style-type: none"> ・父親が好き。 ・父親とうまくいっていない。 ・父はあまり家にいません。 ・父親は公務員。 ・父親がいない。 ・父は一年前に亡くなった。
204 母親	<ul style="list-style-type: none"> ・母親を尊敬している。 ・母親と仲が悪い。 ・母親は私に厳しい。 ・母は女手一つで私を育ててくれた。
205 兄弟姉妹	<ul style="list-style-type: none"> ・弟思い。 ・兄弟のことがたまに気になる。 ・兄弟と仲が悪い。 ・～人兄弟。 ・姉がいる。 ・兄は別居している。 ・兄は～に勤めている。 ・妹が欲しい。

小項目名	例示
206 子供	<ul style="list-style-type: none"> ・子供が一人いる。 ・子供煩。 ・子供には甘い。 ・自分の子供が嫌い。 ・子供に厳しい。 ・娘の結婚が心配。 ・子供達はもうそれぞれの家庭を持っている。 ・子供がいない。 ・子どもが欲しい。
207 配偶者	<ul style="list-style-type: none"> ・良妻賢母の妻がいる。 ・夫とうまくいっていない。 ・夫は教師をしている。 ・夫と死別。 ・亭主関白。 ・妻の健康が気がかり。 ・今の妻とは再婚。
208 祖父母	<ul style="list-style-type: none"> ・おばあちゃん子。 ・祖父と仲が悪い。 ・祖父母は健在。 ・おじいちゃんに長生きして欲しい。 ・祖父は大阪の人。
209 孫	<ul style="list-style-type: none"> ・孫が10人いる。 ・孫が可愛い。 ・孫はうるさい。 ・孫は元気だ。 ・孫の顔が早く見たい。
210 親戚・親族	<ul style="list-style-type: none"> ・叔父が好き。 ・姪が可愛い。 ・姑とうまくいっていない。 ・子供の頃、従兄弟とよく遊んだ。 ・曾祖父は軍人だった。 ・あまり親戚付き合いはしてない。
211 家族との関係	<ul style="list-style-type: none"> ・家族を愛している。 ・～人家族。 ・家庭第一。 ・家庭は安らぎの場。 ・家族に冷たい。

個体

小項目名	例示
301 容姿・体格	<ul style="list-style-type: none"> ・身長。体重。 ・やせている。太っている。 ・背が低い。高い。 ・中肉中背。 ・体格が良い。悪い。 ・筋肉質。 ・手足が短い。 ・顔が大きい。 ・色黒。 ・眼鏡をかけている。 ・父親に似ている。 ・～に似ている。 ・男前。ハンサム。 ・美人。かわいい。 ・容姿は人並。 ・実際より若く見られる。 ・近ごろめつきり白髪が増えた。
302 健康・体質	<ul style="list-style-type: none"> ・健康である。 ・持病がある。 ・疲れやすい。 ・ひ弱。貧血。 ・高血圧。 ・風邪をひきやすい。 ・血液型。 ・アレルギー体質。 ・汗かき。 ・寒がり。暑がり。 ・左利き（利き手）。 ・酒に弱い。 ・寝起きが悪い。
303 身体的能力	<ul style="list-style-type: none"> ・反射神経が発達している。 ・走るのが速い。 ・器用。不器用。 ・目が良い。悪い。 ・耳が良い。悪い。 ・味覚が発達している。 ・声が良い。ガラガラ声。 ・声が大きい。 ・腕力がある。 ・力持ち。 ・体がいうことをきかなくなった。

能力

小項目名	例示
401 頭が良い	<ul style="list-style-type: none"> ・頭がきれる。 ・見通しがきく。 ・頭はまあまあ賢い。 ・頭は悪いわけではない。 ・IQ（知能指数）が高い。 ・頭の回転は速い方である。
402 頭が悪い	<ul style="list-style-type: none"> ・頭が弱い。 ・知能が低い。 ・頭の回転が遅い。
403 個別の能力がある	<ul style="list-style-type: none"> ・英語が得意。 ・ピアノが得意。 ・テニスが得意。 ・経営・営業能力がある。 ・文才がある。 ・字が上手。 ・ワープロができる。 ・円周率を20桁言える。
404 個別の能力がない	<ul style="list-style-type: none"> ・英語が不得意。 ・経営・営業能力がない。 ・数字が苦手。 ・歌が下手。音痴。 ・楽器は全くできない。 ・電話番号が覚えられない。 ・字が下手。 ・方向音痴。
405 適応力がある	<ul style="list-style-type: none"> ・指導力がある。 ・組織力がある。 ・説得力がある。 ・管理者の能力がある。 ・人の扱い方がうまい。 ・要領が良い。 ・世渡りがうまい。 ・物事はてきぱき処理する。 ・調子がよい。 ・人から好かれる。 ・もてる。 ・柔軟性がある。 ・適応性がある。 ・順応性がある。 ・融通がきく。 ・気分転換がうまい。 ・気持ちのきりかえが速い。

情意

小項目名	例示
406 適応力がない	<ul style="list-style-type: none"> ・指導力がない。 ・組織力がない。 ・説得力がない。 ・管理者の能力がない。 ・人の顔をおぼえるのが苦手。 ・要領が悪い。 ・世渡りが下手。 ・時間配分が悪い。 ・物事をときばき処理できない。 ・切り替えが下手。 ・嘘が下手。 ・人から嫌われる。 ・もてない。
407 一般的な能力がある	<ul style="list-style-type: none"> ・美的センスがある。 ・審美眼がある。 ・記憶力がある。 ・創造力が豊か。 ・発想が豊か。 ・勉強が得意。 ・知識がある。 ・博識。 ・物知り。 ・何でも知っている。 ・雑学博士。 ・運動神経が発達している。
408 一般的な能力がない	<ul style="list-style-type: none"> ・美的センスがない。 ・企画力がない。 ・記憶力がない。 ・想像力が貧困。 ・成績が悪い。 ・知識がない。 ・忘れっぽい。 ・忘れものばかりしている。
409 資格・免許	<ul style="list-style-type: none"> ・運転免許を持っている。 ・運転免許がない。 ・英検2級を持っている。 ・剣道5段。 ・書道3段。 ・資格を何一つ持っていない。

小項目名	例示
501 同調的	<ul style="list-style-type: none"> ・外向的。 ・気さく。 ・愛想が良い。 ・親しみやすい。 ・人当たりがいい。 ・人見知りしない。 ・誰とでもすぐ仲良くなれる。 ・気やすい。 ・人付き合いがよい。 ・社交的。 ・協調性がある。 ・集団で何かするのが好き。
502 開放的	<ul style="list-style-type: none"> ・あけっぴろげ。 ・何でも人に話す。 ・秘密を持たない。
503 明るい	<ul style="list-style-type: none"> ・明朗。 ・陽気。 ・快活。 ・よく笑う。 ・笑い上戸。 ・おちやめ。 ・いつもニコニコしている。
504 にぎやか	<ul style="list-style-type: none"> ・騒がしい。 ・宴会要員。
505 おしゃべり	<ul style="list-style-type: none"> ・口が軽い。 ・口数が多い。 ・話し上手。 ・人前で話すのが得意。 ・話題が豊富。 ・人と話していてもネタのつきたことがない。 ・話し好き。
506 ユーモアがある	<ul style="list-style-type: none"> ・冗談が好き。 ・面白い。 ・ひょうきん。 ・人を笑わせるのが好き。
507 温厚	<ul style="list-style-type: none"> ・寛容。 ・鷹揚。 ・おおらか。 ・おだやか。 ・温かい。 ・あまりおこらない。 ・心が広い。

小項目名	例 示
508 優しい	<ul style="list-style-type: none"> ・思いやりがある。 ・親切。 ・気だてがよい。
509 世話好き	<ul style="list-style-type: none"> ・面倒見が良い。 ・人の相談にのるのが好き。 ・おせっかい。 ・気が利く。 ・よく気が付く。 ・困っている人を放っておけない。 ・頼りがいがある。 ・人から頼りにされる。 ・相談役・調整役になる。 ・包容力がある。 ・親分肌。姉御肌。
510 お人好し	<ul style="list-style-type: none"> ・情にもろい。 ・情に厚い。 ・同情しやすい。 ・涙もろい。 ・人がいい。 ・人を信じやすい。
511 寂しがりや	<ul style="list-style-type: none"> ・一人でいるのが嫌い。 ・人がいるとホッとする。
512 行動力がある	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的。 ・物事に率先して取り組む。 ・自分からどんどん行くタイプ。 ・行動的。 ・実行型。 ・じっと考えるのは嫌い。 ・行動しながら考える。 ・すぐに行動に移す。 ・活発。 ・活動的。 ・元気。 ・いつも体を動かしている。 ・わんぱく、おてんば。 ・エネルギーがある。
513 おつちよこ ちよい	<ul style="list-style-type: none"> ・そそっかしい。 ・ドジ。 ・軽率。 ・早のみこみをする。 ・あわてもの。 ・失敗ばかりしている。

小項目名	例 示
514 せっかち	<ul style="list-style-type: none"> ・気がはやい。 ・気ぜわしい。 ・せかせかしている。 ・落ち着きがない。
515 お調子者	<ul style="list-style-type: none"> ・調子にのりやすい。 ・おせじによわい。 ・のせられやすい。
516 好奇心旺盛	<ul style="list-style-type: none"> ・詮索好き。 ・野次馬。 ・何事にも関心を持つ。 ・気が多い。
517 素直	<ul style="list-style-type: none"> ・従順。 ・口答えしない。
518 おおざっぱ	<ul style="list-style-type: none"> ・ずぼら。 ・ややこしいことが嫌い。 ・几張面でない。 ・繊細さに欠ける。
519 のんき	<ul style="list-style-type: none"> ・のんびりしている。 ・おっとりしている。 ・気が長い。
520 抑鬱的	<ul style="list-style-type: none"> ・わけもなく落ち込むことがある。 ・時々ふさぎ込むことがある。 ・一人でいたくなることがある。
521 度胸がある	<ul style="list-style-type: none"> ・気丈。 ・芯が強い。 ・逆境に強い。 ・動揺しない。 ・大胆。 ・あがらない。 ・勇敢。 ・あまりびくびくしない。
522 意志が強い	<ul style="list-style-type: none"> ・意志力がある。 ・自制心が強い。 ・自分に厳しい。 ・口が堅い。

小項目名	例示
523 忍耐・根性	<ul style="list-style-type: none"> ・忍耐強い。 ・根気がある。 ・我慢強い。 ・粘り強い。 ・根性がある。 ・やり通す。 ・しごとい。
524 強情・頑固	<ul style="list-style-type: none"> ・融通がきかない。
525 努力家・勤勉	<ul style="list-style-type: none"> ・頑張り家。 ・地道。 ・働き者。 ・コツコツやる方。
526 主体性がある	<ul style="list-style-type: none"> ・しっかりしている。 ・決断力がある。 ・自立心がある。 ・他人をあてにしない。 ・自分をちゃんと持っている。 ・人に流されない。
527 まじめ・誠実	<ul style="list-style-type: none"> ・正義感が強い。 ・フェア。 ・公正。 ・陰口をきかない。 ・正直者。 ・曲がったことは嫌い。
528 責任感がある	<ul style="list-style-type: none"> ・義務を果たす。 ・義理堅い。 ・律儀。 ・約束を守る。
529 凝り性	<ul style="list-style-type: none"> ・一途。 ・情熱家。 ・物事に熱中しやすい。 ・物事にのめりこむタイプ。 ・思い込んだら命がけ。

小項目名	例示
530 几帳面	<ul style="list-style-type: none"> ・やりかけたことを残すと気になる。 ・まめ。 ・潔癖。 ・完全主義。完璧主義。 ・きれい好き。 ・身の回りのものはきちんとしておく。 ・いつも部屋のなかをきれいにしている。
531 慎重	<ul style="list-style-type: none"> ・じっくり腰を据えて考える。 ・用心深い。 ・無理なことはしない。 ・石橋をたたいて渡る。
532 ぐず	<ul style="list-style-type: none"> ・のろい。 ・とろい。 ・ゆっくり。 ・取り掛かるのが遅い。
533 無神経	<ul style="list-style-type: none"> ・鈍感。 ・にぶい。 ・図々しい。 ・図太い。 ・ふてぶてしい。 ・あつかましい。 ・面の皮が厚い。
534 内向的	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の世界にこもりがち。 ・人付き合いが嫌い・下手。 ・孤独が好き。 ・大勢でいるのが嫌い。 ・一人でいても平気。 ・無愛想。 ・とっつきにくい。 ・愛敬がない。 ・ぶつきらぼう。 ・非社交的。
535 無口・口下手	<ul style="list-style-type: none"> ・聞き役にまわる。 ・口数が少ない。 ・寡黙。 ・無駄口はたたかない。 ・大勢で話しをするのは苦手。 ・人前で話すのが苦手、下手。 ・自分の考えをストレートに表せない。 ・自分自身を表現することが苦手。

小項目名	例 示
536 暗い	<ul style="list-style-type: none"> ・根暗。 ・陰気。
537 冷静・クール	<ul style="list-style-type: none"> ・感情的にならない。 ・冷たい。 ・冷めている。 ・ニヒリスト。 ・非情。 ・どんな時でも落ち着いている。 ・情に溺れない。 ・感情を表さない。 ・無表情。 ・喜怒哀楽が顔に出ない。 ・ポーカークフェイス。
538 まわりが気にならない	<ul style="list-style-type: none"> ・まわりを気にしない。 ・世間体を気にしない。 ・世事に無関心。 ・無頓着。 ・気が利かない。 ・他人に対する気配りに欠ける。
539 執着心がない	<ul style="list-style-type: none"> ・淡泊。 ・熱中することがない。 ・欲がない。 ・野心がない。 ・物欲がない。 ・淡々としている。
540 ものぐさ	<ul style="list-style-type: none"> ・怠け者。 ・面倒くさがり屋。 ・出不精、筆不精。 ・ぐうたらしているのが好き。 ・じっとしているのが好き。 ・ぼんやりしている。 ・エネルギーがない。 ・無気力。 ・ぼ一つとしている。
541 繊細	<ul style="list-style-type: none"> ・敏感。 ・感じやすい。 ・デリケート。 ・傷つきやすい。 ・感受性豊か。

小項目名	例 示
542 通俗的 성격 類型	<ul style="list-style-type: none"> ・典型的な長女タイプの性格。 ・典型的なA型人間。 ・やぎ座タイプ。 ・典型的な～型の性格。 ・典型的な二重人格。 ・分裂的。

力動

小項目名	例示
601 自己中心的	<ul style="list-style-type: none"> ・自分勝手。 ・独断的。 ・思いやりが無い。 ・わがまま。 ・身勝手。 ・自己主張が強い。 ・他人のことは考えない。 ・自意識が強い。 ・自分がかわいい。
602 気分屋	<ul style="list-style-type: none"> ・気分が変わりやすい。 ・気分に変がある。 ・気まぐれ。 ・今泣いた鳥がもう笑った。 ・お天気屋。
603 好き嫌いが 激しい	<ul style="list-style-type: none"> ・人の好みははっきりしている。 ・嫌いな人とは口もきかない。
604 飽きっぽい	<ul style="list-style-type: none"> ・移り気。 ・浮気っぽい。 ・熱しやすく冷めやすい。 ・意志が弱い。 ・根気がない。 ・諦めが早い。 ・粘りが無い。 ・忍耐力がない。 ・持続性がない。 ・三日坊主。 ・すぐ投げる。
605 感情的	<ul style="list-style-type: none"> ・自制心がない。 ・衝動的。 ・感情が激しい。 ・感情を抑えられない。 ・うれしがり屋。 ・泣き虫。 ・自分を抑えられない。
606 短気	<ul style="list-style-type: none"> ・怒りっぽい。 ・けんか早い。 ・カーッとなりやすい。

小項目名	例示
607 攻撃的	<ul style="list-style-type: none"> ・けんかずき。 ・競争心が強い。 ・闘争本能が強い。 ・強引。 ・気が荒い。 ・乱暴者。
608 見栄っぱり	<ul style="list-style-type: none"> ・他人に良く見せようとする。 ・ええかつこしい。 ・人にかっこいいところをみせたがる。 ・目だちたがり屋。 ・派手好き。 ・人の上に立つのが好き。
609 自信家	<ul style="list-style-type: none"> ・自惚れや。 ・自信をもちすぎる。 ・プライドが高い。 ・自尊心が強い。 ・自信過剰。 ・人を見下す。 ・人をばかにする。
610 野心的	<ul style="list-style-type: none"> ・高望み。 ・理想が高い。
611 負けず嫌い	<ul style="list-style-type: none"> ・勝気。 ・くやしがりや。 ・人とはりあいたがる。 ・意地っぱり。 ・強がり。
612 生意気	<ul style="list-style-type: none"> ・かわいげがない。 ・憎たらしい。 ・小憎らしい。
613 子供っぽい	<ul style="list-style-type: none"> ・無邪気。 ・幼稚。 ・考えが幼稚です。 ・甘えんぼう。 ・家にいると親に甘えてしまう。 ・世間知らず。 ・考えが甘い。 ・大人になれない。 ・気が若い。

小項目名	例 示
614 依存心が強い	<ul style="list-style-type: none"> ・人をすぐ頼りにする。 ・すぐ相談する。 ・人に左右されやすい。 ・優柔不断。 ・ぐずぐずする傾向がある。
615 感傷的	<ul style="list-style-type: none"> ・ロマンチスト。 ・ムード派。 ・空想家。 ・夢想家。 ・感情移入しやすい。 ・自己暗示にかかりやすい。
616 いい加減	<ul style="list-style-type: none"> ・無責任。 ・投げやり。 ・ルーズ。 ・だらしない。 ・責任転嫁しやすい。
617 神経質	<ul style="list-style-type: none"> ・神経が細かい。 ・いつも神経が張りつめている。 ・神経がピリピリしている。
618 気が小さい	<ul style="list-style-type: none"> ・気が弱い。 ・意気地がない。 ・はっきり「ノー」と言えない。 ・臆病。 ・小心。 ・度胸がない。 ・あがりやすい。 ・緊張しやすい。 ・焦る。
619 恥しがり屋	<ul style="list-style-type: none"> ・照れ屋。 ・はにかみ屋。 ・人見知り。 ・初対面の人とはあまり話ができない。
620 消極的	<ul style="list-style-type: none"> ・おとなしい。 ・静か。 ・目立たない。 ・地味。 ・我が強くない。 ・目立ちたくない。 ・積極性に欠ける。 ・派手な事は嫌い。 ・自分をあまり飾りたてない方。 ・控え目。

小項目名	例 示
621 ひがみつぼい	<ul style="list-style-type: none"> ・やきもちやき。 ・妬み深い。 ・うらやましがり屋。 ・いじけやすい。 ・卑屈。 ・疑い深い。
622 意地悪	<ul style="list-style-type: none"> ・陰険。 ・あげあしとり。 ・口が悪い。 ・皮肉屋。 ・辛らつなことを言う。 ・人をすぐにとがめてしまう。 ・批判癖。 ・人の足を引っ張る。
623 しつこい	<ul style="list-style-type: none"> ・執念深い。 ・根にもつ。 ・未練がましい。 ・物事にこだわる。
624 あまのじゃく	<ul style="list-style-type: none"> ・素直でない。 ・ひねくれ者。 ・反発心が強い。 ・すぐ口答えしてしまう。
625 ～ぶる	<ul style="list-style-type: none"> ・かわい子ぶる。 ・ぶりっ子。 ・真面目ぶる。 ・偽善的、偽悪的。
626 コンプレックス	<ul style="list-style-type: none"> ・劣等感がある。 ・マザコン。
627 恐怖症	<ul style="list-style-type: none"> ・高所恐怖症。 ・赤面恐怖症。 ・強迫観念的。 ・自分の臭いが気になる病だ。 ・自虐的。

指向

小項目名	例示
701 成長欲求	<ul style="list-style-type: none"> ・自分を成長させたい。 ・偉大な人間になりたい。 ・自分の人生目標に向かって努力している。 ・明日に向かって生きている。 ・アイデンティティを確立させていきたい。 ・仕事で成功したい。 ・向上心がある。
702 就職の希望	<ul style="list-style-type: none"> ・～という職業に就きたい。 ・～という職業に就きたくない。 ・～社に入社したい。 ・看護婦さんになりたい。 ・水商売はしたくない。 ・将来、パイロットになるつもりだ。 ・子供の頃、軍人になりたかった。
703 結婚に関する 願望	<ul style="list-style-type: none"> ・結婚したい。 ・結婚生活に憧れる。 ・～と結婚したい。 ・～才までに結婚したい。 ・結婚したくない。
704 容姿に対する 意識	<ul style="list-style-type: none"> ・やせたい。 ・きれいになりたい。 ・もう少し身軽になりたい。 ・格好は気にしない。 ・髪をのぼそうと思う。 ・身だしなみを気にする。 ・ファッションに興味がある。 ・服なんかどうでもいい。 ・年をとっても老けたくない。 ・鏡を見るたび年を感じる。
705 健康に対する 意識	<ul style="list-style-type: none"> ・健康になりたい。 ・体力が欲しい。 ・健康を気にする。 ・健康のためジョギングしている。 ・食事に気を付けている。 ・癌になりたくない。
706 年齢に対する 意識	<ul style="list-style-type: none"> ・いつまでも若くいたい。 ・年はとりたくない。 ・最近誕生日がきても嬉しくない。 ・老いを感じる。

小項目名	例示
707 能力に関する 願望	<ul style="list-style-type: none"> ・歌がうまくなりたい。 ・スキーがうまくなりたい。 ・運転がうまくなりたい。 ・ワープロができるようになりたい。
708 性格を変え たい	<ul style="list-style-type: none"> ・～な人間に成りたい。 ・～さんみたいの人になりたい。 ・機転が利く人間になりたい。
709 逃避願望	<ul style="list-style-type: none"> ・蒸発したい。 ・消えたい。 ・家出したい。 ・大人になりたくない。 ・できるなら逃避したい。 ・死にたい。
710 非現実的願望	<ul style="list-style-type: none"> ・翼が欲しい。 ・猫になりたい。 ・戦国時代に行きたい。 ・男に生まれたかった。
711 将来	<ul style="list-style-type: none"> ・将来は外国で暮らしたい。 ・将来の希望はまだない。 ・10年後は母親になっているだろう。 ・未来への明確なビジョンはまだない。 ・老後はのんびり暮らしたい。 ・定年後は～したい。 ・進学したい。 ・～大学に入りたい。 ・留学したい。
712 現在の 気分・状態	<ul style="list-style-type: none"> ・気分良好。 ・気分が安定している。 ・悩んでいる。 ・落ち込んでいる。 ・今、眠い。 ・この頃どうもすつきりしない。 ・今、～がしたい。 ・今、欲しい物は～だ。 ・ワープロを買いたい。 ・車を持っている。 ・犬を飼っている。 ・所有物。 ・多趣味である。 ・毎日忙しい。

小項目名	例 示
713 日課・習慣	<ul style="list-style-type: none"> 起床は6時。 通勤には私鉄を使っている。 毎日散歩する。 電話をよくする。 ピアノを習っている。 掃除、洗濯に明け暮れています。 よく遊ぶ。
714 生活目標・ 心掛け	<ul style="list-style-type: none"> 余暇は有意義に過ごすべきだ。 毎日が充実するように生きる。 一日を大切にしたい。 ものを大切にする。 ～をモットーとしている。
715 自分に満足	<ul style="list-style-type: none"> 自分の性格に満足している。 自分の性格が好き。 自分の生き方に満足している。 自分の生き方は正しいと確信している。
716 自分に不満	<ul style="list-style-type: none"> 自分に不満を感じる。 自分が嫌い。 自分の性格に不満。 自分の性格が嫌い。 自分の生き方に不満がある。 私は欠点だけです。 自分はまだ未熟。 現実の自分は理想とは程遠い。 自分に自信が持てない。
717 私は幸福	<ul style="list-style-type: none"> 私は幸せだ。 幸福感を感じる。 自分は恵まれている。 人間に生まれてよかった。 日本人でよかった。 毎日が楽しい。 現在の生活に感謝しています。
718 私は不幸	<ul style="list-style-type: none"> 私は不幸せだ。 私の人生は不幸の連続だった。 生きているのは辛い。 なぜこんな時代に生まれたのだろう。 何をやってもうまく行かない。 毎日が嫌なことの連続。

小項目名	例 示
719 楽観的	<ul style="list-style-type: none"> 物事にこだわらない。 くよくよしない。 楽道家。 先のことは余り考えない。 これといった悩みがない。
720 悲観的	<ul style="list-style-type: none"> 何事も悪い方に考える傾向がある。 後悔ばかりしている。 くよくよ悩む。 すぐ気に病む。 悩みが多い。 心配性。 不安を感じやすい。 物事を気にする。 まわりを気にする。 相手の顔を気にする。 世間体を気にする。
721 将来性がある	<ul style="list-style-type: none"> 将来性のある人。 可能性のある人。 将来、必ず成功する。 絶対大きくなる人。 21世紀を背負う人。
722 個性的	<ul style="list-style-type: none"> 個性がある。 ユニーク。 人の真似が嫌い。 自分は他の人とは違う。 変な人間。
723 平凡	<ul style="list-style-type: none"> 平凡な生活を送っている。 普通の人間。 人畜無害。 無難な人間。 その他大勢。 一般市民。
724 マイペース	<ul style="list-style-type: none"> 独立自尊。 自分のペースを大切にしている。
725 率直	<ul style="list-style-type: none"> 思ったことをまっすぐに言う。 物事をはつきりさせる。 白黒をはつきりさせる。 言いたいことははっきり言う。

小項目名	例 示
726 男らしさ・ 女らしさ	<ul style="list-style-type: none"> ・男らしい。 ・男っぽい。 ・女らしい。 ・大和撫子。 ・女々しい。 ・男まさり。
727 自他の評価 のズレ	<ul style="list-style-type: none"> ・本当の自分は人にはわからない。 ・誤解されやすい。 ・他人に本当より良く思われている。
728 理論指向	<ul style="list-style-type: none"> ・理論家。 ・理屈をこねるのが好き。 ・理屈っぽい。 ・頭脳労働向き。 ・行動するより頭で考えるタイプ。 ・一人で考えるのが好き。 ・思考的。 ・江戸の文化について調べている。 ・生物学に興味がある。 ・哲学が好き。 ・勉強が好き。
729 経済指向	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日必ず経済新聞を読む。 ・株に興味がある。 ・世の中すべて金。 ・節約的。 ・やりくり上手。 ・お金の使い方がうまい。 ・経済観念がある。 ・けち。 ・金に汚い。 ・浪費的。 ・衝動買いをしてしまう。 ・貯金が下手。
730 審美指向	<ul style="list-style-type: none"> ・美しいものを求める。 ・美しいものに憧れる。 ・絵をかくのが好き。 ・音楽が好き。 ・文学に興味がある。 ・星を見るのが好き。 ・骨董品などに心を魅かれる。 ・茶道が趣味。 ・華道に興味がある。 ・書道が好き。 ・盆栽が好き。

小項目名	例 示
731 社会指向	<ul style="list-style-type: none"> ・社会問題に興味がある。 ・社会の役に立ちたい。 ・ボランティアをしている。 ・世のため人のために何かしたい。
732 政治指向	<ul style="list-style-type: none"> ・政治に関心がある。 ・支持政党。 ・政治家の～さんが好き、嫌い。 ・選挙は欠かさずに行く。 ・権力指向。 ・世の中すべて力。
733 宗教指向	<ul style="list-style-type: none"> ・信仰は重んずるべきだ。 ・キリスト教の信者である。 ・浄土真宗である。 ・～教を信じない。 ・神は存在する。
734 飲食への指向	<ul style="list-style-type: none"> ・食べるのが好き。 ・辛いものが好き。 ・甘党。 ・酒好き。 ・タバコが好き。 ・辛いものは嫌い。 ・納豆は食べられない。
735 スポーツ への指向	<ul style="list-style-type: none"> ・好きなスポーツ。 ・運動をするのが好き。 ・野球を観るのが好き。 ・ゴルフをやる。 ・ボーリングは面白いと思わない。
736 旅行への指向	<ul style="list-style-type: none"> ・旅行するのが好き。 ・趣味は旅行。 ・団体で旅行するのは嫌い。
737 ギャンブル への指向	<ul style="list-style-type: none"> ・賭事が好き。 ・麻雀はつきあい程度。 ・パチンコをやる。 ・時々競馬に行く。
738 男好き・ 女好き	<ul style="list-style-type: none"> ・エッチ。 ・好色家。 ・軟派。

小項目名	例 示
739 好きなタイプ ・嫌いな タイプ	<ul style="list-style-type: none"> ・～な人が好き、嫌い。 ・タバコを吸う人とはつき合いたくない。 ・背の高い人が好き。 ・厚化粧の女は嫌い。 ・京都（東京）の人が好き。 ・都会の人（田舎者）が好き。 ・貧乏ゆすりをする人は嫌い。
740 新しいもの 好き	<ul style="list-style-type: none"> ・革新的。 ・常に流行の先端を行っている。 ・変化を好む。 ・新製品にすぐ飛びつく。
741 古いもの好き	<ul style="list-style-type: none"> ・保守的。 ・流行を追うのが嫌い。 ・伝統を重んじる。 ・古い考え方の方が好き。
742 趣味	<ul style="list-style-type: none"> ・ドライブが趣味。 ・読書が趣味。 ・映画をよく見る。 ・囲碁（将棋）をよくやる。 ・手芸、洋裁が趣味。 ・オーディオが好き。 ・カラオケが趣味。 ・料理が趣味。 ・機械いじりが趣味。
743 好み	<ul style="list-style-type: none"> ・赤より白が好き。 ・山が好き。 ・子供が好き。 ・人混みが嫌い。 ・自然が好き。 ・テレビを見るのが好き。 ・～のファン。
744 生死に対する 意識	<ul style="list-style-type: none"> ・生命は尊い。 ・生きることは素晴らしい。 ・長寿でありたい。 ・100まで生きたい。 ・死は美しい。 ・死を受け入れる。 ・死ぬのも運命です。 ・死についてよく考える。 ・死は生の一部。

小項目名	例 示
745 運命観	<ul style="list-style-type: none"> ・運命を信じる。 ・運命を信じない。 ・運命は受け入れる。 ・運の善し悪しで人生は決まる。 ・占いを信じる。 ・占いを信じない。
746 自然観	<ul style="list-style-type: none"> ・自然の力は偉大。 ・自然は大きい。 ・海は偉大。 ・山は偉大。 ・地震が怖い。 ・天災からは逃れられない。
747 超自然	<ul style="list-style-type: none"> ・時の流れは止められない。 ・四次元の世界はあると思う。 ・未知の物体に興味がある。 ・宇宙の起源が知りたい。
748 過去について の記述	<ul style="list-style-type: none"> ・よく昔の思い出にふける。 ・過去を省みることが多い。 ・昔は良かったと思う。 ・若い頃に戻りたい。 ・故郷が懐かしい。 ・故郷の～はいい所だった。 ・戦争の時のことをよく思い出す。 ・経験したこと。 ・入院したことがある。 ・陸軍に召集された。 ・大戦中は勤労動員に参加した。 ・戦時中の記憶がある。 ・戦後の食糧難を体験した。
749 帰属意識	<ul style="list-style-type: none"> ・愛校心が強い。 ・愛社心がある。 ・郷土愛が強い。 ・愛国心がある。
750 私は私	<ul style="list-style-type: none"> ・私は私以外の誰でもない。 ・自分は自分でしかない。
751 私は誰	<ul style="list-style-type: none"> ・自分は本当は何者なんだろう。 ・どこからきてどこに行くのだろう。 ・何のために生きているのだろう。 ・自分がわからない。

小項目名	例 示
752 実存的記述	<ul style="list-style-type: none"> ・生きている。 ・存在する個体。 ・私一人しかいない。 ・自分は世界でたった一人。
753 生物学的・ 文化的規定	<ul style="list-style-type: none"> ・人間。ヒト。ホモ・サピエンス。 ・宇宙人。地球人。 ・生物。動物。哺乳類。 ・手が2本。足が2本。
754 隠喩的な表現	<ul style="list-style-type: none"> ・私は花。 ・私は風。 ・私は重くて四角い物体である。 ・私はジャンヌ・ダルク。
755 自己に対する 興味・関心	<ul style="list-style-type: none"> ・自分についてもっと知りたい。 ・自分に興味がある。

その他

小項目名	例 示
801 WAIに 関する記述	<ul style="list-style-type: none"> ・このテストはおもしろい。 ・このテストはつまらない。 ・こんなテストで私はわからない。 ・質問の意図がよくわからない。
802 無効回答	<ul style="list-style-type: none"> ・ふざけている回答。 ・見当違いの回答。
803 その他	<ul style="list-style-type: none"> ・無効回答ではないが、該当する小項目のない回答。

無回答

小項目名	例 示
901 無回答	<ul style="list-style-type: none"> ・全く書かれていない回答。 ・不完全で意味を成さない回答。

小項目名・例示索引

(数字は小項目番号を示す。番号の前に*の付いたものは小項目名である)

あ

I Qが高い……………401
 愛敬がない……………534
 愛校心が高い……………749
 愛国心がある……………749
 愛社心がある……………749
 愛想が良い……………501
 相手の顔色を気にする……………720
 アイデンティティを確立させ
 ていきたい……………701
 青色申告者……………117
 赤より白が好き……………743
 明るい……………*503
 あがらない……………521
 あがりやすい……………618
 飽きっぽい……………*604
 諦めが早い……………604
 あげつぽろげ……………502
 あげあしとり……………622
 足が2本……………753
 アジア人……………106
 明日に向かって生きている……………701
 汗かき……………302
 焦る……………618
 温かい……………507
 頭がきれむ……………401
 頭が良い……………*401
 頭が弱い……………402
 頭が悪い……………*402
 頭の回転が遅い……………402
 頭の回転は速い方である……………401
 頭はまあまあ賢い……………401
 頭は悪いわけではない……………401
 新しいもの好き……………*740
 あつかましい……………533
 暑がり……………302
 厚化粧の女は嫌い……………739
 兄……………201
 兄は～に勤めている……………205
 兄は別居している……………205
 姉……………201
 姉がいる……………205
 姉御肌……………509
 アパート暮らし……………108
 甘えんぼう……………813

甘党……………734
 あまのじゃく……………*624
 あまりおこらない……………507
 あまり親戚付き合いはしてな
 い……………210
 あまりびくびくしない……………521
 アルバイト料……………117
 アルバイトをしている……………117
 アレルギー体質……………302
 あわてもの……………513

い

いい加減……………*616
 言いたいことははっきり言う……………725
 家柄……………*110
 家出したい……………709
 家にいると親に甘えてしまう……………613
 家の職業……………*110
 家は八百屋をやっている……………110
 生きている……………752
 生きているのは辛い……………718
 生きることは素晴らしい……………744
 意気地がない……………618
 囲碁をよくやる……………742
 意志が強い……………*522
 意志が弱い……………604
 石橋をたたいて渡る……………531
 意志力がある……………522
 いじけやすい……………621
 意地っぱり……………611
 意地悪……………*622
 依存心が強い……………*614
 偉大な人間になりたい……………701
 一途……………529
 一日を大切にしたい……………714
 一般市民……………723
 一般的な能力がある……………*407
 一般的な能力がない……………*408
 いつまでも若くいたい……………706
 いつも体を動かしている……………512
 いつも神経が張りつめている……………617
 いつもニコニコしている……………503
 いつも部屋のなかをきれいに
 している……………530
 田舎者……………109
 田舎者が好き……………739

犬年生まれ……………105
 犬を飼っている……………712
 今、～がしたい……………712
 今泣いた鳥がもう笑った……………602
 今、眠い……………712
 今の妻とは再婚……………207
 今、欲しい物は～だ……………712
 妹……………201
 妹が欲しい……………205
 色黒……………301
 陰気……………536
 陰険……………622
 飲食への指向……………*734
 隠喩的な表現……………*754

う

WAIに関する記述……………*801
 嘘が下手……………406
 疑い深い……………621
 歌がうまくなりたいたい……………707
 歌が下手……………404
 宇宙人……………753
 宇宙の起源が知りたい……………747
 美しいものに憧れる……………730
 美しいものを求める……………730
 移り気……………604
 自惚れや……………609
 海は偉大……………746
 占いを信じない……………745
 占いを信じる……………745
 うらやましがり屋……………621
 うれしがり屋……………605
 浮気っぽい……………604
 運転がうまくなりたいたい……………707
 運転免許がない……………409
 運転免許を持っている……………409
 運動神経が発達している……………407
 運動をするのが好き……………735
 運の善し悪しで人生は決まる……………745
 運命観……………*745
 運命は受け入れる……………745
 運命を信じない……………745
 運命を信じる……………745

え

映画をよく見る……………742

営業能力がある……………403
 営業能力がない……………404
 英検2級を持っている……………409
 英語が得意……………403
 英語が不得意……………404
 ええかつこしい……………608
 エッチ……………738
 江戸っ子……………109
 江戸の文化について調べてい
 る……………728
 エネルギーがある……………512
 エネルギーがない……………540
 絵をかくのが好き……………730
 宴会要員……………504
 円周率を20桁言える……………403

お

OL……………112
 オーディオが好き……………742
 老いを感じる……………706
 黄色人種……………106
 鷹揚……………507
 おおざっぱ……………*518
 大勢でいるのが嫌い……………534
 大勢で話しをするのは苦手……………535
 おおらか……………507
 お金の使い方がうまい……………729
 臆病……………618
 おこづかい……………117
 怒りっぱい……………606
 おしゃべり……………*505
 おじいちゃんに長生きして欲
 しい……………208
 叔父が好き……………210
 おじさん……………104
 おせじによわい……………515
 おせつかい……………509
 おだやか……………507
 落ち込んでいる……………712
 落ち着きがない……………514
 おちやめ……………503
 お調子者……………*515
 おつちよこちよい……………*513
 夫……………201
 夫とうまくいっていない……………207
 夫と死別……………207
 夫は教師をしている……………207
 おっとりしている……………519
 お天気屋……………602
 おてんば……………512

弟……………201
 弟思い……………205
 男好き……………*738
 男っぱい……………726
 男である……………103
 男ではありません……………103
 男に生まれたかった……………710
 男前……………301
 男まさり……………726
 男らしい……………726
 男らしさ……………*726
 お年玉……………117
 大人……………104
 おとなしい……………620
 大人と子供の間……………104
 大人になりたくない……………709
 大人になれない……………613
 おばあちゃん子……………208
 おばさん……………104
 お人好し……………*510
 思い込んだら命がけ……………529
 思いやりがある……………508
 思いやりがない……………601
 面白い……………506
 思ったことをまっすぐに言う……………725
 親孝行……………202
 親子喧嘩が絶えない……………202
 親分肌……………509
 親を大切にしない……………202
 音楽が好き……………730
 温厚……………*507
 音痴……………404
 女好き……………*738
 女です……………103
 女らしい……………726
 女らしさ……………*726

か

カーッとなりやすい……………606
 快活……………503
 会社員……………112
 会社でサークルに入っている……………115
 会社名……………112
 開放的……………*502
 顔が大きい……………301
 鏡を見るたび年を感じる……………704
 革新的……………740
 賭事が好き……………737
 陰口をきかない……………527
 過去についての記述……………*748

過去を省みることが多い……………748
 家事をする人……………201
 風邪をひきやすい……………302
 家族との関係……………*211
 家族に冷たい……………211
 家族を愛している……………211
 片思い中……………116
 勝気……………611
 格好は気にしない……………704
 活発……………512
 活動的……………512
 家庭第一……………211
 家庭内の役割……………*201
 家庭は安らぎの場……………211
 華道に興味がある……………730
 金に汚い……………729
 可能性のある人……………721
 株に興味がある……………729
 株主……………117
 神は存在する……………733
 髪をのぼそうと思う……………704
 寡黙……………535
 辛いものが好き……………734
 辛いものは嫌い……………734
 カラオケが趣味……………742
 体がいうことをきかなくなっ
 た……………303
 かわいい……………301
 かわいげがない……………612
 かわい子ぶる……………625
 考えが甘い……………613
 考えが幼稚です……………613
 看護婦さんになりたい……………702
 感傷的……………*615
 感じやすい……………541
 感受性豊か……………541
 感情移入しやすい……………615
 感情が激しい……………605
 感情的……………*605
 感情的にならない……………537
 感情を表さない……………537
 感情を抑えられない……………605
 完全主義……………530
 完璧主義……………530
 寛容……………507
 管理者の能力がある……………405
 管理者の能力がない……………406
 外向的……………501
 我が強くない……………620
 学生……………113

学生時代はラグビー部だった・115
 学籍番号・113
 学年・113
 学部・113
 学歴・*114
 楽器は全くできない・404
 学校・*113
 学校が好き・113
 学校へ行きたくない・113
 学校名・113
 我慢強い・523
 ガラガラ声・303
 頑固・*524
 癌になりたくない・705
 頑張り家・525

き

消えたい・709
 記憶力がある・407
 記憶力がない・408
 機械いじりが趣味・742
 企画力がない・408
 気が荒い・607
 気が多い・516
 気が利かない・538
 気が利く・509
 気が小さい・*618
 気が長い・519
 気ははやい・514
 気が弱い・618
 気が若い・613
 利き手・302
 聞き役にまわる・535
 気さく・501
 起床は6時・713
 気丈・521
 傷つきやすい・541
 気ぜわしい・514
 帰属意識・*749
 気だてがよい・508
 几帳面・*530
 几帳面でない・518
 機転が利く人間になりたい・708
 喜怒哀楽が顔に出ない・537
 気分が安定している・712
 気分が変わりやすい・802
 気分転換がうまい・405
 気分が波がある・802
 気分屋・*802
 気分良好・712

気まぐれ・602
 気持ちのきりかえが速い・405
 気やすい・501
 旧姓～です・101
 教師・112
 競争心が強い・607
 兄弟姉妹・*205
 兄弟と仲が悪い・205
 協調性がある・501
 京都の人が好き・739
 郷土愛が強い・749
 強迫観念的・627
 恐怖症・*627
 ～教を信じない・733
 兄弟のことがたまに気になる・205
 器用・303
 嫌いなタイプ・*739
 嫌いな人とは口もきかない・603
 切り替えが下手・406
 キリスト教の信者である・733
 きれいな好き・530
 きれいになりたい・704
 金婚式を迎えた・111
 近所の茶道のサークルの代表・115
 緊張しやすい・618
 筋肉質・301
 勤勉・*525
 偽善的・625
 偽善的・625
 義務を果たす・528
 逆境に強い・521
 ギャンブルへの指向・*737
 義理堅い・528

<

クール・*537
 空想家・615
 口数が多い・505
 口数が少ない・535
 口が堅い・522
 口が軽い・505
 口が悪い・622
 口答えしない・517
 口下手・*535
 くやしがりや・611
 くよくよしない・719
 くよくよ悩む・720
 暗い・*536
 暮らし方・*108
 クラブ・*115

クラブに青春をかけている・115
 車を持っている・712
 ～君と友達・116
 ～君に憧れています・116
 ぐうたらしているのが好き・540
 ぐず・*532
 ぐずぐずする傾向がある・614

け

経営能力がある・403
 経営能力がない・404
 経験したこと・748
 経済観念がある・729
 経済指向・*729
 経済状態・*117
 経済的に自立している・117
 軽率・513
 けち・729
 結婚・*111
 結婚したい・703
 結婚したくない・703
 結婚している・111
 結婚生活に憧れる・703
 結婚に関する願望・*703
 結婚～年・111
 潔癖・530
 血液型・302
 決断力がある・526
 ～家の一員・201
 ～家の子孫・110
 けんかずき・607
 けんか早い・606
 健康・*302
 健康である・302
 健康に対する意識・*705
 健康になりたい・705
 健康のためジョギングして
 る・705
 健康を気にする・705
 見当違いの回答・802
 剣道5段・409
 権力指向・732
 下宿人・108
 月収・117
 元気・512
 現在の気分・状態・*712
 現在の生活に感謝しています・717
 現実の自分は理想とは程遠い・716

こ

恋人……………*116
 恋人がいる……………116
 後悔ばかりしている……………720
 好奇心旺盛……………*516
 高血圧……………302
 攻撃的……………*807
 高校生……………113
 高校生活は面白かった……………113
 ～高校の○B……………114
 高所恐怖症……………627
 好色家……………738
 向上心がある……………701
 公正……………527
 行動しながら考える……………512
 行動するより頭で考えるタイプ……………728
 行動的……………512
 行動力がある……………*512
 幸福感を感じる……………717
 公務員……………112
 声大きい……………303
 声が良い……………303
 故郷が懐かしい……………748
 故郷の～はいい所だった……………748
 国籍……………*106
 国籍はアメリカ……………106
 心掛け……………*714
 心が広い……………507
 個性がある……………722
 個性的……………*722
 骨董品などに心を魅かれる……………730
 コツコツやる方……………525
 孤独が好き……………534
 子供……………*206
 子供会の役員……………115
 子供がいない……………206
 子供が好き……………743
 子供が一人いる……………206
 子どもが欲しい……………206
 子供達はもうそれぞれの家庭を持つ……………206
 子供っぽい……………*813
 子供に厳しい……………206
 子供には甘い……………206
 子供の頃、従兄弟とよく遊んだ……………210
 子供の頃、軍人になりたかった……………702

小憎らしい……………612
 この頃どうもすつきりしない……………712
 このテストはおもしろい……………801
 このテストはつまらない……………801
 好み……………*743
 個別の能力がある……………*403
 個別の能力がない……………*404
 子煩悩……………206
 困っている人を放っておけない……………509
 凝り性……………*529
 これと似た悩みがない……………719
 根気がある……………523
 根気がない……………604
 根性……………*523
 根性がある……………523
 こんなテストで私はわからぬ……………801
 コンプレックス……………*626
 強引……………607
 強情……………*524
 誤解されやすい……………727
 ゴルフをやる……………735

さ

サークルには入っていない……………115
 サークルの部長……………115
 最近誕生日がきても嬉しくな……………706
 ～才です……………104
 ～才までに結婚したい……………703
 先のことは余り考えない……………719
 酒好き……………734
 酒に弱い……………302
 茶道が趣味……………730
 寂しがりや……………*511
 寒がり……………302
 冷めている……………537
 サラリーマン……………112
 騒がしい……………504
 ～さんが好きです……………116
 三十代……………104
 ～さんは私の恋人です……………116
 ～さんみたいな人になりたい……………708
 雑学博士……………407

し

仕送り……………117
 歯科医……………112
 資格……………*409

資格を何一つ持っていない……………409
 思想的……………728
 仕事が忙しい……………112
 仕事が好き……………112
 仕事で成功したい……………701
 仕事に不熱心……………112
 仕事の内容……………112
 思春期……………104
 支持政党……………732
 静か……………620
 自然観……………*746
 自然が好き……………743
 自然の力は偉大……………746
 自然は大きい……………746
 親しみやすい……………501
 下町育ち……………109
 しつかりしている……………526
 失敗ばかりしている……………513
 しつこい……………*623
 質問の意図がよくわからない……………801
 指導力がある……………405
 指導力がない……………406
 死にたい……………709
 死についてよく考える……………744
 死ぬのも運命です……………744
 死は美しい……………744
 死は生の一部……………744
 しぶとい……………523
 ～市民です……………107
 社会指向……………*731
 社会人……………112
 社会の役に立ちたい……………731
 社会問題に興味がある……………731
 社交的……………501
 ～社に勤めていた……………114
 ～社に入社したい……………702
 習慣……………*713
 宗教指向……………*733
 就職の希望……………*702
 集団で何かするのが好き……………501
 執着心がない……………*539
 姑とうまくいっていない……………210
 収入……………117
 執念深い……………623
 手芸が趣味……………742
 主体性がある……………*526
 出身……………*109
 出身校……………114
 ～出身……………109
 主婦……………201

趣味……………*742	自意識が強い……………601	自分の性格が嫌い……………716
趣味は旅行……………736	自営業を営んでいる……………112	自分の性格が好き……………715
消極的……………*620	時間配分が悪い……………406	自分の性格に不満……………716
将棋をよくやる……………742	字が上手……………403	自分の性格に満足している…715
小心……………618	字が下手……………404	自分の世界にこもりがち…534
衝動買いをしてしまう……………729	自虐的……………627	自分の臭いが気になる病だ…627
衝動的……………605	自己暗示にかかりやすい……………615	自分のペースを大切にしてい
消費者……………117	自己中心的……………*601	る……………*724
将来……………*711	自己主張が強い……………601	自分は自分でしかない……………750
将来、必ず成功する……………721	自己に対する興味・関心…*755	自分は世界でたった一人…752
将来性がある……………*721	自信家……………*609	自分は他の人とは違う……………722
将来性のある人……………721	自信過剰……………609	自分は本当は何者なんだろう…751
将来の希望はまだない……………711	地震が怖い……………746	自分はまだ未熟……………716
将来は外国で暮らしたい……………711	自信をもちすぎる……………609	自分は恵まれている……………717
将来、パイロットになるつも	自制心が強い……………522	自分をあまり飾りたてない方…620
りだ……………*702	自制心がない……………605	自分を抑えられない……………605
昭和一桁……………105	自尊心が強い……………609	自分を成長させたい……………701
職業……………*112	持続性がない……………604	自分をちゃんと持っている…526
職種……………112	自他の評価のズレ……………*727	地味……………620
食事に気を付けている……………705	じっくり腰を据えて考える…531	地道……………525
職場……………*112	実行型……………512	地元の消防団員……………115
職歴……………*114	実際より若く見られる……………301	住所……………*107
正直者……………527	じっと考えるのは嫌い……………512	従順……………517
所属団体……………*115	じっとしているのが好き…540	柔軟性がある……………405
初対面の人とはあまり話がで	実存的記述……………*752	10年後は母親になっている
きない……………619	児童文化研究会に入っている…115	だろう……………711
書道が好き……………730	持病がある……………302	受験生……………113
書道3段……………409	自分勝手……………601	順応性がある……………405
初任給は～万円……………117	自分からどンドン行くタイプ…512	上司とうまく行っている……………112
所有物……………712	自分がかわいい……………601	上司に恵まれていない……………112
白黒をはつきりさせる……………725	自分が嫌い……………716	冗談が好き……………506
死を受け入れる……………744	自分がわからない……………751	浄土真宗である……………733
進学したい……………711	自分自身を表現することが苦	情に厚い……………510
芯が強い……………521	手……………535	情に溺れない……………537
神経がピリピリしている……………617	自分に厳しい……………522	情にもろい……………510
神経が細かい……………817	自分に興味がある……………755	情熱家……………529
神経質……………*617	自分に自信が持てない……………716	蒸発したい……………709
信仰は重んずるべきだ……………733	自分についてもっと知りたい…755	上流階級……………110
新婚である……………111	自分に不満……………*716	自立心がある……………526
新製品にすぐ飛びつく……………740	自分に不満を感じる……………716	人種……………*106
親戚……………*210	自分に満足……………*715	人畜無害……………723
親切……………508	自分の生き方に不満がある…716	
親族……………*210	自分の生き方に満足している…715	
身体的能力……………*303	自分の生き方は正しいと確信	
身長……………301	している……………715	
慎重……………*531	自分の考えをストレートに表	
心配性……………720	せない……………535	
審美眼がある……………407	自分の子供が嫌い……………206	
審美指向……………*730	自分の人生目標に向かって努	
辛らつなことを言う……………622	力している……………701	
		数字が苦手……………404
		末っ子……………201
		スキーがうまくなりたい……………707
		好き嫌いが激しい……………*603
		好きなスポーツ……………735
		好きなタイプ……………*739
		杉並区に住んでいる……………107

す

すぐ気に病む……………720
 すぐ口答えしてしまう……………624
 すぐ相談する……………614
 すぐ投げる……………604
 すぐに行動に移す……………512
 鈴木です……………101
 素直……………*517
 素直でない……………624
 スポーツへの指向……………*735
 図々しい……………533
 頭脳労働向き……………728
 図太い……………533
 ずぼら……………518

せ

性格を変えたい……………*708
 生活目標……………*714
 正義感が強い……………527
 生死に対する意識……………*744
 政治家の～さんが嫌い……………732
 政治家の～さんが好き……………732
 政治指向……………*732
 誠実……………*527
 政治に関心がある……………732
 成績が悪い……………408
 成長欲求……………*701
 生年月日……………*105
 生物……………753
 生物学的・文化的規定規定……………*753
 生物学に興味がある……………728
 性別……………*103
 生命は尊い……………744
 せかせかしている……………514
 背が高い……………301
 背が低い……………301
 責任感がある……………*528
 責任転嫁しやすい……………616
 赤面恐怖症……………627
 世間知らず……………613
 世間体を気にしない……………538
 世間体を気にする……………720
 世事に無関心……………538
 世帯主……………201
 世代……………*104
 せっかち……………*514
 積極性に欠ける……………620
 積極的……………512
 説得力がある……………405
 説得力がない……………406
 節約的……………729

背の高い人が好き……………739
 世話好き……………*509
 選挙は欠かさずに行く……………732
 戦国時代に行きたい……………710
 戦後の食糧難を体験した……………748
 戦後派……………105
 繊細……………*541
 繊細さに欠ける……………518
 詮索好き……………518
 戦時中の記憶がある……………748
 先生が嫌い……………113
 戦前派……………105
 戦争の時のことをよく思い出
 す……………748
 絶対大きくなる人……………721
 ～ゼミのOB……………115

そ

掃除、洗濯に明け暮れている
 す……………713
 曾祖父は軍人だった……………210
 想像力が貧困……………408
 創造力が豊か……………407
 相談役になる……………509
 早朝野球のチームのエース……………115
 組織力がある……………405
 組織力がない……………406
 祖先は……………110
 そそっかしい……………513
 育ち……………*109
 率直……………*725
 その他……………*803
 その他大勢……………723
 その日暮し……………117
 祖父と仲が悪い……………208
 祖父は大阪の人……………208
 祖父母……………*208
 祖父母は健在……………208
 存在する個体……………752

た

体格……………*301
 体格が良い……………301
 体格が悪い……………301
 体質……………*302
 体重……………301
 大戦中は勤労働員に参加した……………748
 体力が欲しい……………705
 高望み……………610
 多趣味である……………712

他人に対する気配りに欠ける……………538
 他人に本当より良く思われて
 いる……………727
 他人に良く見せようとする……………608
 他人のことは考えない……………601
 他人をあてにしない……………526
 タバコが好き……………734
 タバコを吸う人とはつき合い
 たくない……………739
 食べるのが好き……………734
 頼りがいがある……………509
 短気……………*606
 単身赴任中……………108
 淡々としている……………539
 淡泊……………539
 大学生……………113
 大学で～ゼミに入っている……………115
 大学で～を勉強をしている……………113
 ～大学に入りたい……………711
 大胆……………521
 だらしない……………616
 誰とでもすぐ仲良くなれる……………501
 団塊の世代……………105
 団円で旅行するのは嫌い……………736

ち

近ごろめつきり白髪が増えた……………301
 力持ち……………303
 地球人……………753
 知識がある……………407
 知識がない……………408
 父……………201
 父親……………*203
 父親がいない……………203
 父親が好き……………203
 父親とうまくいっていない……………203
 父親に似ている……………301
 父親は公務員……………203
 父はあまり家にいません……………203
 父は一年前に亡くなった……………203
 知能が低い……………402
 知能指数が高い……………401
 中肉中背……………301
 中年……………104
 中流家庭……………110
 調子がよい……………405
 超自然……………*747
 調子にのりやすい……………515
 長寿でありたい……………744
 長女……………201

調整役になる……………509
町内会長です……………115
長男……………201
貯金が～円ある……………117
貯金が下手……………729

つ

通勤には私鉄を使っている…713
通俗的性格類型……………*542
疲れやすい……………302
常に流行の先端を行っている…740
翼が欲しい……………710
妻……………201
妻の健康が気がかり……………207
冷たい……………537
強がり……………611
面の皮が厚い……………533

て

手足が短い……………301
亭主関白……………207
定年後は～したい……………711
定年間近……………112
手が2本……………753
適応性がある……………405
適応力がある……………*405
適応力がない……………*406
哲学が好き……………728
テニスが得意……………403
テレビを見るのが好き……………743
照れ屋……………619
典型的なA型人間……………542
典型的な～型の性格……………542
典型的な長女タイプの性格……………542
典型的二重人格……………542
天災からは逃れられない……………746
転職を考えている……………112
天秤座……………105
～で生まれた……………109
できるなら逃避したい……………709
～で育った……………109
出不精……………540
デリケート……………541
伝統を重んじる……………741
電話番号が覚えられない……………404
電話をよくする……………713

と

～というあだ名があります…102
～という職業に就きたい……………702

～という職業に就きたくない…702
東京都民……………107
東京の人が好き……………739
当主……………201
闘争本能が強い……………607
逃避願望……………*709
東洋人……………106
都会の人が好き……………739
時々競馬に行く……………737
時々ふさぎ込むことがある…520
時の流れは止められない……………747
～と結婚したい……………703
年をとっても老けたくない…704
年はとりたくない……………706
とっつきにくい……………534
友達が欲しい……………116
共働き……………117
取り掛かるのが遅い……………532
とろい……………532
同情しやすい……………510
同調的……………*501
動物……………753
動揺しない……………521
度胸がある……………*521
度胸がない……………618
読書が趣味……………742
独身である……………111
独断的……………601
独立自尊……………724
どこからきてどこに行くのだ
ろう……………751
ドジ……………513
ドライブが趣味……………742
努力家……………*525
鈍感……………533
どんな時でも落ち着いている…537

な

内向的……………*534
泣き虫……………605
投げやり……………616
なぜこんな時代に生まれたのだ
らう……………718
納豆は食べられない……………734
何事にも関心を持つ……………516
何事も悪い方に考える傾向が
ある……………720
何をやってもうまく行かない…718
～な人間に成りたい……………708
～な人が嫌い……………739

～な人が好き……………739
生意気……………*612
名前……………*101
名前は～です……………101
怠け者……………540
涙もろい……………510
悩みが多い……………720
悩んでいる……………712
何でも知っている……………407
何でも人に話す……………502
何のために生きているのだろ
う……………751
軟派……………738

に

にぎやか……………*504
憎たらしい……………612
21世紀を背負う人……………721
日課……………*713
ニックネーム……………*102
ニックネームは～です……………102
日系二世である……………106
～に似ている……………301
ニヒリスト……………537
にぶい……………533
日本人……………106
日本人でよかった……………717
入院したことがある……………748
～人家族……………211
～人兄弟……………205
～人兄弟の～番目……………201
人間……………753
人間に生まれてよかった……………717
忍耐……………*523
忍耐強い……………523
忍耐力がない……………604
妊婦……………201

ね

寝起きが悪い……………302
根暗……………536
猫になりたい……………710
妬み深い……………621
熱しやすく冷めやすい……………604
熱中することがない……………539
根にもつ……………623
粘りがいい……………604
粘り強い……………523
～年～月～日生まれ……………105
年金暮らしをしている……………117

年金を～円もらっている……117
 年取……………117
 ～年働いています……………112
 年令……………*104
 年齢に対する意識……………*706

の

農家に生まれた……………110
 納税者……………117
 能力に関する願望……………*707
 のせられやすい……………515
 ～のファン……………743
 のろい……………532
 のんき……………*519
 のんびりしている……………519

は

ハーフです……………106
 配偶者……………*207
 博識……………407
 走るのが速い……………303
 恥しがり屋……………*619
 働き者……………525
 はっきり「ノー」と言えない……………618
 発想が豊か……………407
 派手好き……………608
 派手な事は嫌い……………620
 話し上手……………505
 話し好き……………505
 はにかみ屋……………619
 母……………201
 母親……………*204
 母親と仲が悪い……………204
 母親は私に厳しい……………204
 母親を尊敬している……………204
 母は女手一つで私を育ててくれた……………204
 浜っ子……………109
 早のみごみをする……………513
 ハンサム……………301
 反射神経が発達している……………303
 反発心が強い……………624
 パートをしている……………117
 パチンコをやる……………737

ひ

控え目……………620
 悲観的……………*720
 ひがみつばい……………*621
 卑屈……………621

非現実的願望……………*710
 非社交的……………534
 非情……………537
 左利き……………302
 ヒト……………753
 人当たりがいい……………501
 人から嫌われる……………406
 人から好かれる……………405
 人から頼りにされる……………509
 人から～と呼ばれています……………102
 人がいい……………510
 人がいるとホッとすると……………511
 人混みが嫌い……………743
 人付き合いが嫌い……………534
 人付き合いが下手……………534
 人付き合いがよい……………501
 人と話していてもネタのつきたことがない……………505
 人とはりあいたがる……………611
 人にかっこいいところをみせたがる……………608
 人に左右されやすい……………614
 人に流されない……………526
 人の足を引っ張る……………622
 人の扱い方がうまい……………405
 人の上に立つのが好き……………608
 人の顔をおぼえるのが苦手……………406
 人の好みははっきりしている……………603
 人の相談にのるのが好き……………509
 人の真似が嫌い……………722
 人前で話すのが得意……………505
 人前で話すのが苦手……………535
 人前で話すのが下手……………535
 人見知り……………619
 人見知りしない……………501
 一人暮らし……………108
 一人っ子……………201
 一人でいたくることがある……………520
 一人でいても平気……………534
 一人でいるのが嫌い……………511
 一人で考えるのが好き……………728
 人を信じやすい……………510
 人をすぐ頼りにする……………614
 人をすぐにとがめてしまう……………622
 人をばかにする……………609
 人を見下す……………609
 人を笑わせるのが好き……………506
 皮肉屋……………622
 ひねくれ者……………624
 批判癖……………622

秘密を持たない……………502
 100まで生きたい……………744
 ひょうきん……………506
 ひ弱……………302
 貧血……………302
 美人……………301
 美的センスがある……………407
 美的センスがない……………408
 敏感……………541
 貧乏ゆすりをする人は嫌い……………739
 PTAの理事……………115
 ピアノが得意……………403
 ピアノを習っている……………713

ふ

ファッションに興味がある……………704
 不安を感じやすい……………720
 フェア……………527
 不完全で意味を成さない回答……………901
 服なんかどうでもいい……………704
 ふざけている回答……………802
 普通の人間……………723
 ふてぶてしい……………533
 筆不精……………540
 太っている……………301
 扶養家族を持っている……………201
 古い考え方の方が好き……………741
 古いもの好き……………*741
 無愛想……………534
 不器用……………303
 部署……………112
 ぶっきらぼう……………534
 物欲がない……………539
 無難な人間……………723
 ぶりっ子……………625
 ～ぶる……………*625
 文学に興味がある……………730
 文才がある……………403
 分裂的……………542
 プライドが高い……………609

へ

平凡……………*723
 平凡な生活を送っている……………723
 へそくりをしている……………117
 変化を好む……………740
 変な人間……………722
 勉強が好き……………728
 勉強が得意……………407

ほ

方向音痴……………404
 包容力がある……………509
 保守的……………741
 星を見るのが好き……………730
 哺乳類……………753
 ホモ・サピエンス……………753
 本籍は～……………109
 本当の自分は人にはわからな
 い……………727
 ぼ一つとしている……………540
 ボーナス……………117
 ボーリングは面白いと思わ
 ない……………735
 ボランティアをしている……………731
 盆栽が好き……………730
 ぼんやりしている……………540
 ボーカーフェイス……………537

ま

麻雀はつきあい程度……………737
 毎日忙しい……………712
 毎日必ず経済新聞を読む……………729
 毎日が嫌なことの連続……………718
 毎日が充実するように生きる……………714
 毎日が楽しい……………717
 毎日散歩する……………713
 マイペース……………724
 曲がったことは嫌い……………527
 孫はうるさい……………209
 負けず嫌い……………611
 孫……………209
 孫が可愛い……………209
 孫が10人いる……………209
 孫の顔が早く見たい……………209
 孫は元気だ……………209
 マザコン……………626
 まじめ……………527
 真面目ぶる……………625
 全く書かれていない回答……………901
 まめ……………530
 まわりが気にならない……………538
 まわりを気にしない……………538
 まわりを気にする……………720

み

見栄っぱり……………608
 味覚が発達している……………303
 身勝手……………601

未成年……………104
 身だしなみを気にする……………704
 未知の物体に興味がある……………747
 三日坊主……………604
 見通しがきく……………401
 身の回りのものはきちんとし
 ておく……………530
 未亡人……………201
 耳が良い……………303
 耳が悪い……………303
 未来への明確なビジョンはま
 だない……………711
 未練がましい……………623

む

ムード派……………615
 無回答……………901
 昔、～に住んでいた……………107
 昔は良かったと思う……………748
 無気力……………540
 無口……………535
 無効回答……………802
 無効回答ではないが、該当す
 る小項目のない回答……………803
 無職……………112
 無神経……………533
 無邪気……………613
 娘の結婚が心配……………206
 水商売はしたくない……………702
 無責任……………616
 夢想家……………615
 無駄口はたたかない……………535
 無頓着……………538
 無表情……………537
 無理なことはしない……………531

め

姪が可愛い……………210
 明朗……………503
 眼鏡をかけている……………301
 目が良い……………303
 目が悪い……………303
 目だたない……………620
 目だちたがり屋……………608
 目立ちたくない……………620
 女々しい……………726
 免許……………409
 面倒くさがり屋……………540
 面倒見が良い……………509

も

もうすぐ母親になる……………201
 もう少し身軽になりたい……………704
 もてない……………406
 もてる……………405
 元海軍中尉……………114
 物事にこだわる……………623
 ものぐさ……………540
 物事にこだわらない……………719
 物事に熱中しやすい……………529
 物事にのめりこむタイプ……………529
 物事はてきぱき処理する……………405
 物事を気にする……………720
 物事に率先して取り組む……………512
 物事をてきぱき処理できない……………406
 物事をはつきりさせる……………725
 物知り……………407
 ものを大切ににする……………714

や

やきもちやき……………621
 野球を観るのが好き……………735
 やぎ座タイプ……………542
 約束を守る……………528
 優しい……………508
 野心がない……………539
 野心的……………610
 野次馬……………516
 やせたい……………704
 やせている……………301
 山が好き……………743
 山田太郎です……………101
 大和撫子……………726
 大和民族……………106
 山の上に住んでいる……………108
 山は偉大……………746
 ややこしいことが嫌い……………518
 やりかけたことを残すと気に
 なる……………530
 やりくり上手……………729
 やり通す……………523

ゆ

ユーモアがある……………506
 勇敢……………521
 優柔不断……………614
 友人……………116
 友人が多い……………116
 友人が少ない……………116

友人に感謝している……………116
 友人は少ないが、深くつきあ
 　　う方……………116
 友人を大切にしている……………116
 融通がきかない……………524
 融通がきく……………405
 ゆっくり……………532
 ユニーク……………722

よ

陽気……………503
 洋裁が趣味……………742
 容姿……………*301
 容姿に対する意識……………*704
 容姿は人並……………301
 用心深い……………531
 幼稚……………613
 要領が良い……………405
 要領が悪い……………406
 余暇は有意義に過ごすべきだ・714
 よく遊ぶ……………713
 抑鬱的……………*520
 欲がない……………539
 よく気が付く……………509
 よく昔の思い出にふける……………748
 よく笑う……………503
 四次元の世界はあると思う……………747
 世のため人のために何かした
 　　い……………731
 世の中すべて金……………729
 世の中すべて力……………732
 嫁……………201
 世渡りがうまい……………405
 世渡りが下手……………406

ら

ライオンズクラブの会員……………115
 楽道家……………719
 楽観的……………*719
 乱暴者……………607

り

陸軍に召集された……………748
 理屈っぽい……………728
 理屈をこねるのが好き……………728
 離婚歴がある……………111
 理想が高い……………610
 律儀……………528
 留学したい……………711
 流行を追うのが嫌い……………741

良妻賢母の妻がいる……………207
 両親……………*202
 両親健在……………202
 両親とうまくいつている……………202
 両親と別居しています……………202
 寮生……………108
 料理が趣味……………742
 旅行するのが好き……………736
 旅行への指向……………*736
 理論家……………728
 理論指向……………*728

る

ルーズ……………616

れ

礼子です……………101
 冷静……………*537
 劣等感がある……………626

ろ

老後はのんびり暮したい……………711
 老人クラブの会長……………115
 浪人……………113
 浪費的……………729
 ロマンチスト……………615

わ

ワープロができる……………403
 ワープロができるようになり
 　　たい……………707
 ワープロを買いたい……………712
 若い頃に戻りたい……………748
 若いです……………104
 わがまま……………601
 わけもなく落ち込むことがあ
 　　る……………520
 忘れっぽい……………408
 忘れものばかりしている……………408
 私の彼女は可愛い……………116
 私の人生は不幸の連続だった……………718
 私は重くて四角い物体である……………754
 私は風……………754
 私は欠点だらけです……………716
 私は幸福……………*717
 私は幸せだ……………717
 私はジャンヌ・ダルク……………754
 私はそろそろ還暦を迎える……………104
 私は誰……………*751
 私は花……………754

私は不幸……………*718
 私は不幸せだ……………718
 私は私……………*750
 私は私以外の誰でもない……………750
 私一人しかいない……………752
 話題が豊富……………505
 笑い上戸……………503
 わんぱく……………512
 腕力がある……………303

を

～をモットーとしている……………714

2. WAI 事例集

この事例集には、50代から70才以上までの38事例を掲載した。掲載された事例には、その年齢において一般的なものと特殊例の両者が含まれるよう努めたが、適切な事例がない場合もあり、年齢・性別ごとの事例数には偏りがある。なお、小学生から高校生までの事例（事例1～事例48）は「組織行動研究, No. 16」に、大学生から40代までの事例（事例49～事例95）は「組織行動研究, No. 19」に掲載されているので参照された。

事例の構成は以下のようになっている。

事例 96～111	50代	p. 71～77
事例 112～124	60代	p. 78～83
事例 125～133	70才以上	p. 83～87

各事例は、被験者の反応を忠実に掲載しようと極力努めた。各回答は、回答番号をつけて1つずつ掲載しており、その回答に自分らしいものとして○が付けられている場合、回答番号を○で囲んである。また、最終版基準書で分類した際の小項目番号を、各回答の最後の（ ）内に示してある。被験者の回答の中には、プライバシーの保護や印刷の都合からそのまま掲載できなかった部分もある。それについては以下のような変更を加えて掲載した。

- ① プライバシー保護の立場から、そのまま掲載することができない固有名詞は、〈 〉の中に説明を入れて省略を行なった。
- ② 被験者自身が反応内容の削除を行なっている部分は、■を用いてある。
- ③ 文字や文章が、各行の上や下から挿入されているものは、{ }の中に入れて印刷してある。
- ④ その他説明が必要なものについては、※を用いて回答の後で説明するか、あるいは、[注:]として反応の中で説明を加えた。

50代

事例96 男性 54才（会社員）

- 1 私はサラリーマンです。(112)
- 2 私は家族を幸せにするために働きます。(211, 112)
- 3 私はスポーツが好きです。(735)
- ④ 私は酒宴が苦手です。(534)
- 5 私は人との付合が下手です。(534)
- 6 私は健康です。(302)
- 7 私は少し位の病気で病院に行きません。(713)
- 8 私は政治に関心があります。(732)
- 9 私は気前が良い方です。(509)
- ⑩ 私は年よりも若い方です。(301)
- 11 私は音楽が好きです。(730)
- 12 私は話す事が下手です。(535)
- 13 私は、貧■（乏）です。(117)
- ⑫ 私は煙草を吸ひます。(734)
- 15 私はオジタリアン■■■ {では} ない。(542)
- 16 私はゴルフが下手です。(404)
- ⑬ 私は縁起をかつぎません。(745)
- 18 私は無神論者です。(733)
- 19 私は積極的に意見を言いません。(620)
- 20 私は戦中、戦後をよく知ってます。(748)

職業、家庭、身体、能力、性格、趣味、態度などの幅広い内容が含まれている。中年の男性では、このように広範な内容が含まれる傾向がある。

事例97 男性 54才

- ① 真面目な人柄である (527)
- ② 日常生活に於てはマイペース型である (724)
- 3 人情味が厚い方である (510)
- ④ 神経質である (617)
- 5 衝動買をする時がある (729)
- ⑥ 時間的には規則正しい方である (530)
- ⑦ 見栄をはるタイプでなく けんそんするタイプ

である (620)

- 8 一寸した事でも場合によっては何時迄も気にする (623)
- ⑨ 食べ物に対して好き.きらいがほとんどない。(734)
- 10 流行の商品にとらわれない。(741)
- 11 どちらかと言うと口数が少ない方である (535)
- ⑫ 几帳面な性格である。(530)
- ⑬ 喜怒哀楽が表情に出る方である。(605)
- ⑭ おおらかな気持を半面持っている。(507)
- 15 茶、グレー系統の落付いた色が好き (743)
- 16 休日の朝は平日(出勤)より早く目が覚める方である (713)
- ⑮ 他人にはやさしい方である (508)
- 18 短気の方である (606)
- ※19~20は無回答(901)

社会属性や家族についての記述がなく、性格についての記述がほとんどを占めている。特に、真面目で几帳面な性格が反応によくあらわれている。

事例98 男性 54才 4ヶ月(会社員)

- 1 私は日本人である。(106)
- 2 私は男である。(103)
- 3 私は横浜に住んでいる。(107)
- 4 私は東京に通勤している。(713)
- ⑤ 私は電気の技術者である。(112)
- 6 私は電気機械製造会社に勤務している。(112)
- 7 私はお酒が好きである。(734)
- 8 私は眼鏡をかけている。(301)
- 9 私は自動車を運転することが出来る。(403)
- 10 私は旅行が好きである。(736)
- 11 私は海が好きである。(743)
- 12 私は集合住宅に住んでいる。(108)
- 13 私は緑の多い所に住んでいる。(108)
- 14 私は自然が好きである。(743)
- 15 私は犬を飼っている。(712)
- 16 私は少々肥満体である。(301)
- ※17~20は無回答(901)

前半はデモグラフィック属性を中心に述べられており、後半は好みや身体などについての言及が見られる。中年の男性では、社会的な属性についての記述が多い傾向がある。

事例99 男性 54才 5ヶ月(自営業)

- 1 自分 (750)
- 2 本人 (750)
- 3 あるじ (201)
- 4 男 (103)
- 5 主人 (201)
- 6 世帯主 (201)
- 7 オレ (750)
- 8 長男 (201)
- 9 おじさん (104)
- ⑩ 大黒柱 (201)
- 11 父 (201)
- 12 パパ (201)
- 13 親方 (112)
- 14 亭主閑白 (207)
- 15 じいちゃん (201)
- 16 営業主 (112)
- ⑪ おやじ (201)
- 18 勝気 (611)
- 19 変人 (722)
- 20 のんべー (734)

すべての回答が単語になっているが、性格についての記述はほとんどない。家庭内における役割についての記述が多く、被験者にとっての家庭の重要性を示唆しているが、内面性は感じられない。

事例100 男性 55才 1ヶ月

- ① 166cm、80kg、超肥満体人間です。(301)
- 2 減量に挑戦中、5kgカット実現、ウォー！。(704)
- ③ 真面目人間、今どき存在感低い。(527)
- 4 家庭では尊敬される父親と自負する。(201)
- 5 昭和1ヶタ生まれの戦中派 オジンです。(105,104)

- 6 昭和とともに生きた人間です。(748)
 7 昭和天皇の崩御は心が痛みます。(803)
 8 美空ひばりの死去、またひとつ昭和が終った、
 9 どの感が強いです。
 ※9,10で1回答(748)
 10 自民党、リクルート事件の反省不足を痛感！。
 (732)
 11 「政治不在」でも、日本丸は順風航海。(732)
 ⑫ ニュータイプの政治家誕生を願望。(732)
 13 経済記者30年を経験。(112)
 ⑬ 「生きた経済」を経験できて満足。(729,715)
 15 新職場での再出発に燃える。(112)
 16 趣味はゴルフとサツキです。(735,730)
 ⑭ ゴルフ、《ゴルフ場名》の理事長杯に優勝
 18 その勝利を大切に生きる。
 ※17,18で1回答(735)
 19 サツキ、手入れの結果が、正直に出るから好き
 20 です。(730)

経済記者をしていただけあって、社会的な視点からの記述が目につく。それ以外にも身体、性格、趣味などについての記述もあり、多様な内容が含まれている。

事例101 男性 55才 7ヶ月 (会社員)

- ① 規則正しい生活をしようと心掛けている
 (714)
 ② 夢を追う男でもある (701,103)
 3 酒が好きである (734)
 ④ 小説、特に歴史物を読むのが好きである
 (747)
 5 仏教の教義を知ること好きである (733)
 ⑥ たまには創作を書くのも好きである (730)
 7 一つのこと専念することがある (529)
 8 女房を今もって好んでいるという不思議な男でも
 ある (207,103)
 9 娘を嫁にやるときあんなに泣けるものかと自分
 でも驚いている (206)
 ⑩ 会社の仕事にも熱心である (112)
 11 いまだかつて遅刻したことがない。人と逢うと
 きは30分前である (530)

- 12 帽巾は似合わないのであまり好きでないので、
 かぶらない (704)
 13 ネクタイは好きなものは、何日もやっている。
 (704)
 14 人と話しをするときは言葉を選んで話そうと思
 っている (714)
 15 周囲の人の意見は極力きくようにしている
 (714)
 ⑯ 吾れながら我の強いところがあると思っている
 (601)
 17 意外と料理が好きなのかもしれない (742)
 18 おいしい物は遠い所までいっても喰べに行く
 (734)
 19 清けつな着物、清けつな部屋が好きであるがや
 ることは駄目な男 (530,540)
 ⑰ 常に自分自身に負けまいと心掛けている男で
 もある (701)

好み、趣味、心掛けといった指向的な側面について記述が多く見られる。また、家族についての記述には、妻や娘に対する感情がよく表現されている。

事例102 男性 55才 7ヶ月 (会社員)

- ① 母に似てお人好しで 嘘が云えない 人柄のよう
 だ (204,527)
 ② 情にもろい性格で芝居や映画を見て涙すること
 がよくある (510)
 3 粗忽もので度々失敗をするが後悔しないように
 している。(513,714)
 ④ 人に裏切られても私は人を裏切ることができな
 い (527)
 ⑤ 私は誠実の二文字を座右の銘にしている。
 (714)
 ⑥ 争いごとは好まないが、正当なことでは敢然と
 立ち向かう。(507,527)
 ⑦ 喜怒哀楽が姿や顔に出て修行の足りなさを感じ
 る。(605,716)
 ⑧ 優柔不断な面も有し自己の歯痒さを感じること
 がある。(614,716)
 9 趣味、嗜好が多く、極め手に欠ける。(712)

- ⑩ 大雑把な性格と繊細な面が同居しているようだ。(518,541)
- ⑪ 思慮分別は比較的 わきまえている方であると思う (527)
- 12 女家族の中に一人男の意地を出しても所詮は女に操られている。(211)
- ⑫ 家の者は私を信頼しきっているだけに軽はずみな真似ができない (211,201)
- ⑬ 家では明るい家庭づくりをモットーにして互に協力しあっている (211)
- ⑭ 交友関係は割合と広いが、時には煩わしくなる。(405,534)
- ⑮ 性格は厳しい方であると思うが第三者に与える印象はマイルドらしい (522,507)
- 17 静寂と情緒には心ひかれるものがある。(730)
- ⑯ 二年前の大腸ポリープの手術から生きることへの執着が強くなった。(302,744)
- ⑰ 思ったことを必ず実行できる人を私は羨ましく思う (708)
- ⑱ 会社では常に明るい雰囲気づくりに心がけている。(112)

性格についての記述が大部分であるが、それに対する自分の態度も含めた掘り下げた表現がなされている。一方、デモグラフィック属性についてはほとんど言及されていない。

事例103 男性 55才 9ヶ月 (会社役員)

- 1 人間 (753)
- 2 東洋人 (106)
- 3 日本人 (106)
- 4 中年男性 (104,103)
- 5 会社人間 (749)
- 6 会社代表 (112)
- 7 基本的に勤勉 (525)
- 8 典型的昭和一ケタ代人間 (542)
- ⑨ 理論型人間 (728)
- 10 B型タイプ (542)
- 11 双子座、甲型 (542)
- 12 実行型人間 (512)

- ⑬ 引率、指導型人間 (405)
 - ⑭ 国際型人間 (542)
 - 15 自己中心型 (601)
 - 16 狩人型 (542)
 - 17 集中努力型 (522,525)
 - 18 気まゝ、ムラ気 (604)
 - 19 同時に長(距)離ランナー (523)
 - ⑯ 可成りムツカシイ人間 (754)
- ※自分らしさの○は、番号に付けられておらず、回答の先頭に書かれている。

好みや願望などに触れず、デモグラフィック属性と性格を中心に記述した反応は、中年男性でよく見られる。この事例の場合、「～型」という表現を多用して自己を規定しようとしている点特徴的である。

事例104 女性 51才 5ヶ月 (公務員)

- 1 日本人 (106)
- 2 51才 (104)
- 3 女性 (103)
- 4 男と女の子がいる (206)
- 5 生まれは山口県 (109)
- 6 住んでいる所は神奈川県 (107)
- 7 思いやりはある方だと思う。(508)
- ⑧ 短足 (301)
- ⑨ 健康である。(302)
- ⑩ 気が小さい (618)
- 11 血液型A型 (302)
- 12 歌を歌うのが好き (742)
- ⑬ 口うるさい (622)
- 14 おしゃべり (505)
- ⑮ 花が好き (730)
- 16 短気 (606)
- 17 不公平が嫌い (527)
- 18 動物が好き (743)
- ⑰ 編物が好き (742)
- 20 水泳が好き (735)

デモグラフィック属性、家族、身体、性格、好みと、幅広い内容が記述されている。それぞれの

内容を見ると、この年齢の女性として標準的な事例と言える。

事例105 女性 52才(放送大学生)

- 1 私は女性です (103)
- 2 私は主婦です (201)
- ③ 私は放送大学で勉強しています (113)
- ④ 私はどちらかと云えば内気です (619)
- 5 私は運動神経はにぶい方です (408)
- 6 私は体がかたいです (303)
- 7 私は水泳をやっています (735)
- 8 私は創造性に欠けます (408)
- ⑨ 私は勉強が大好きです (728)
- ⑩ 私はカウンセリングの勉強をしています (728)
- 11 私は文章を書くのが下手です (404)
- ⑫ 私は真面目すぎると思います (527)
- 13 私は人の話を聞くのは上手だと思います (405)
- 14 私はすぐに人を信じます (510)
- 15 私は今の所健康だと思っています (302)
- 16 私はお料理は得意の方です (403)
- 17 私は一応絵を習っています (730)
- 18 私は老後は海の見える所で暮らしたいと思っています (711)
- 19 私は目立つ事が大嫌いです (620)
- ⑳ 私は是非とも卒業したいです (711)

これは放送大学生の事例である。「主婦」という記述は見られるが家庭に関する記述はほとんどない。一方、勉強や趣味などについての記述が多く、前向きの姿勢がうかがえる。

事例106 女性 50才 11ヶ月(主婦)

- 1 私は家庭の主婦です。(201)
- ② 私は旅行が大好きです。(736)
- 3 私は食べ物で好き嫌いがありません。(734)
- 4 私は太っております。(301)
- 5 私は髪が白くなってきています。(301)
- ⑥ 私は子供の頃から運動が苦手です。(408)

- 7 私はテレビを見るのが好きです。(743)
- 8 私は甘いものが大好きです。(734)
- 9 私は動物が大好きです。(743)
- ⑩ 私は上手にうそをつくことが出来ません。(406)
- 11 私は手芸が好きです。(742)
- 12 私はデパートへ行くことが好きです。(743)
- 13 私は会社勤めをしたことはありません。(114)
- 14 私は最近よくねむくなります。(712)
- 15 私は最近何をやるにも根気がなくなってきた。(712)
- ⑯ 私は家で一人であるよりも友人と話をしている方が好きです。(116,501)
- 17 私はハイキングをしながら野草をみるのが好きです。(730)
- 18 私は茨城県出身です。(109)
- 19 私■には二人の娘がおります。(206)
- 20 私は文章を書くことが苦手です。(404)

デモグラフィック属性や身体についての記述も含まれているが、好みについての記述が特に多い。これは女性全般に見られる特徴である。また、この事例の場合、老いに対する意識も現れている。

事例107 女性 51才 5ヶ月(主婦)

- 1 私は結婚しています (111)
- 2 私は身長が高い方です。(301)
- 3 私は内攻性格です (534)
- ④ 私は人の前に出る事が極端に苦手です。(620)
- ⑤ 私は仕事をやり始めると、完全にしないと気がすみません。(529)
- 6 私は泣き虫です。(605)
- 7 私はよく、ぐずぐずして時間を無駄にしています。(532)
- 8 私は他人の目を気にする方です。(720)
- 9 私は読書が好きです。(742)
- 10 私はピアノを弾くのが好きです。しかし下手です。(730,404)
- ⑪ 私は自分の仕事をほっといても、人の事はよくしてあげたい (509)
- 12 {↓} そのくせに人に振り回されると後でいら

いらする。(601)

- ⑬ 私は“べつたり”は好きではない。実際には距離を置く。(534)
- 14 人のきらう事■(は)しない方です。(508)
- ⑭ 夜更し 朝寝型。(とはいっても、家族に迷惑をかけない程度) (713,211)
- 16 きまり、はよく守る。(528)
- 17 買物 大好き。お金がない時は見て歩くだけ。(743)
- ⑮ とても人見知りする方です。(619)
- 19 私はすごくおとなしいのに、人には明朗だと思われる努力をする。(620,708)
- 20 手先が器用で、そういう面では女らしい仕事が得意。(303,407)

性格や好みについて日常生活との関連で具体的に記述している。そのため反応から被験者の人柄を感じ取ることができる。なお、日常生活に即した記述は主婦の反応に多い。

事例108 女性 54才 11ヶ月(主婦)

- ① 世界中をゆつくり歩いてみたい。(736)
- 2 飛行機より船旅がいい。(736)
- 3 新開地より厂史のあるところへゆきたい。(736)
- 4 自然の多く残っている□へゆきたい。(736)
- ⑤ 小さい生命も大切にしたい。(744)
- ⑥ 束縛されるのはいや。(724)
- 7 月にはゆきたくない。(743)
- ⑧ 春が好き。(743)
- ⑨ 美味しいものが食べたい。(734)
- ⑩ 上等な香水がほしい。(712)
- ⑪ 翼があるといい。(710)
- ⑫ 戦争は絶対いや。(731)
- 13 材料をそろえて御料理をしたい。(712)
- 14 友人知人を招待したい。(116)
- ⑬ 花がいっぱいあるといい。(730)
- ⑭ 御金があるといいな。(729)
- 17 好きな課目を勉強したい。(728)
- ⑮ いろんな才能があつたら幸せ。(707)
- 19 人生が何回かあるといい。(710)

⑯ 魔女になりたい。(710)

すべてが指向的側面についての記述で、特に願望が多く記述されている。全体的に現実感があまりなく、ロマンチックな印象を受ける。このような反応は、成人では比較的稀である。

事例109 女性 57才 5ヶ月(主婦)

- 1 私は 昭和ひと術生れです。(105)
- 2 私は、五人兄妹の真中です。(201)
- 3 私は、県立高等女学校 三年生の時に終戦を迎えました。(748)
- 4 私は、学徒動員の経験があります。(748)
- 5 私は、三人の子供の母親です。(206,201)
- 6 私は、末の子供が 満二歳の時に教員を辞めました。(206,114)
- ⑦ 私は、現在、お茶を楽しみながら教えています。(730,112)
- ⑧ 私は、もっと勉強しなければいけないと思っています。(701)
- ⑨ 私は、積極性に乏しいです。(620)
- ⑩ 私は、行動力に欠けています。(540)
- ⑪ 私は、あまり、おしゃべりではありません。(535)
- 12 私は、ユーモアのある人になりたいと思っています。(708)
- 13 私は、小さい頃から運動が苦手で好きではありません。(408,735)
- 14 私は、手先の仕事が好きです。(742)
- 15 私は、偏食の傾向が強いです。(734)
- 16 私は 甘いものが好きです。(734)
- ⑬ 私は 秋が好きです。(743)
- 18 私は、人の中になかなか溶けこめません。(534)
- ⑮ 私は、ひとりで くよくよします。(720)
- 20 私は 文章を書くのは 好きです。(742)

デモグラフィック属性と生活史が前半に書かれているが、その中に戦争についての記述が含まれている。50代以上の反応には戦争に関する記述が含まれることが多く、戦争体験が個人に強い心

理的影響を及ぼしていることが理解できる。

事例110 女性 57才 7ヶ月 (主婦)

- 1 S.5年.9月12日生れの主婦です (105, 201)
- 2 生れは神奈川県、小学校は山形県、女学校は宮城県、父の転勤で各地へ (109,203)
- 3 21才で結婚。(111)
- 4 一男、一女の母 (206,201)
- 5 結婚後も神奈川、新潟、宮城、又神奈川に戻って来る (107)
- 6 24才で長男、30才で長女を出産。(206)
- 7 子供達はそれぞれ独立し、今は主人と二人暮らし。(206,207)
- 8 つねに子供達の幸せのみを考へている。(206)
- 9 自分達も健康で老後を暮らしなるべく子供達の世話にはなりたくない (712,206)
- 10 いろいろ趣味にも手を出しましたが、今は手編だけしています。(742)
- ① 食事はなるべく手作りするよう心がける (714)
- 12 バス旅行やお芝居を観る友達が近所に居る (736,742,116)
- 13 近所の友達とはあまり深入りしないが、お互いなかあると力になり合う。(116)
- 14 お産以来初めて入院。手術を受けた(胆石病) (302)
- 15 犬を飼っているので犬好きの友達も出来ました (712,116)
- 16 人にどう思われようと自分で正しいと思えばそれでよい (724)
- ①⑦ やせたいと思うのに運動は長続きしない (704)
- 18 甘いものもひかえなければと思い乍ら又食べてしまう。(704)
- 19 やはり意志が弱いのかも知れない (604)
- 20 考える事がだんだんおっくうになって来た。(712)

生活史、家族、老いに対する意識など、この年齢の女性においてはかなり一般的な反応内容であ

る。また、趣味や交友関係などについての記述は、子供が自立した後の女性に多く現れる傾向がある。

事例111 女性 57才 5ヶ月 (主婦)

- 1 私は 家庭の主婦です。(201)
- ② 私は 友人と レクダンスをする時が一番楽しい。(116,742)
- ③ 私は 庭いじりが好きです。(742)
- 4 私は バランスのとれた食事を心掛けています。(705)
- 5 私は、旧制女学校出身です。(114)
- ⑥ 私は 小さい事も 気になります (720)
- 7 私は 人を気にします。(720)
- 8 私は、色白で 日焼けは、あまり しません が 皮膚が弱いようです。(301,302)
- 9 私は 運動は好きで じっとしているより 動いた方が好きです。(735,512)
- 10 私は、■寝るのは好きですが 今は神経の使いすぎで眠るのに満足していま {せん} (743,712)
- 11 私は 旅行が好きですが、あまり出来ないので 不満です。(736,718)
- 12 私は 内向的になりやすい。(534)
- 13 私は 上手にうそをつく事ができません。(406)
- 14 私は プライドが高い方かも知れません。(609)
- 15 私は 表面はそうは見えない様ですが、負けず嫌いだと思います。(611)
- 16 私は、健康に関心があるので 何でも よく食べます。(705)
- 17 私は やさしくて 家にばかりいる様に見られがちです。(508,540)
- 18 私は テレビ 映画で すぐ涙を流して しまいます。(615)
- 19 私は ぐうたらにしている面と几帳面 両極端の 処があります。(540,530)
- ②⑦ 私は 文章を書くのが苦手です。(404)

性格や日常生活を中心に記述されているが、健康への配慮が記述されている。健康に対する意識も中年から老人にかけてよく現れる内容である。

60代

事例112 男性 61才

- 1 健康が気になる (いつまで 元気で働けるか心配だ) (705,112)
- 2 怪我をした。(先日転んで打った肩が いつ治るか心配だ) (712,705)
- 3 もの忘れが進んだ (字を どんどん忘れてしまう) (408)
- 4 記憶力が減退した (ワープロがなかなか覚えられない) (408,404)
- 5 “セールス” ホイホイ (「ものみの塔」「共産党」各種セールスなど 我が家へきたら 徹底的に喋りまくって 困らせる) (803)
- 6 けち (故障したものは業者に頼まず 自分で修理する) (729)
- 7 鬼籍の人と話したい (亡父母、姉、兄がお盆にこの世に帰ってほしい) (710,202,205)
- 8 石持ち (胆石があるので 今度の検査の結果が心配だ) (302,705)
- ⑨ 庭木の希望 (果物のできる樹木を たくさん植えたい) (730,714)
- 10 白髪がふえた (染めても すぐ 白いのが出てきて 面倒だ) (301,704)
- 11 ペットが可愛い (犬も 小鳥も 金魚も ひとつら いとおいしい) (712)
- 12 庭木の手入れ (よその家のようにうまく できず くやしい) (404)
- 13 購入自動車の車検 (次に買う車を 何にするか あれこれ考えるのが たのしい) (712)
- 14 行きたい所 (田舎へ行きたいが “今日” という日がない) (736)
- 15 気になること (姉の所に しばらく行ってないのが 気になる) (205)
- 16 ほしい物 (ビデオカメラの 編集機) (712)
- ⑰ 誠実 (これだけは 自信を持って 主張できる) (527,715)
- 18 下戸 (酒の飲める人生は どんなんに楽しいだろうな) (302,710)
- 19 声が悪い (声のよい人が 羨ましい) (303,707)

20 字が下手だ (上手に になりたい) (404,707)

すべての反応の後ろに () で補足が行なわれている珍しい事例である。内容的には、身体的な衰えについての記述が目につくが、これは、60代以降においてはよく見られる反応である。

事例113 男性 61才 5ヶ月 (会社員)

- ① 実年男性 (104,103)
- ② 昔を追憶 時代小説が好きだった (748)
- ③ 小供の頃 時計いじりが好き但し復元する事なし (742)
- ④ 投網・魚釣りが好き (742)
- ⑤ マージャン,パチンコ等の賭を好む (737)
- ⑥ 芸術的な写真の追求そしてより高級な機器への欲求 (730,712)
- ⑦ 囲碁,将棋 上達への努力をいとわない (742)
- ⑧ 切手,レコードの蒐集欲 (742)
- ⑨ 書道でも楷書よりも草書 (730)
- ⑩ 盆栽,庭作り大工,彫刻もしたい現在の職を間違へた感 (730,112)
- ⑪ 作文が苦手 文法が特に (404)
- ⑫ 夏の熱さより冬の寒さが堪えられない (302)
- ⑬ 人の前に立って話す事が苦手,挨拶等 (535)
- ⑭ 勉強が大嫌い 特に外国語 (728)
- ⑮ 音楽も高度な音質への欲求 (730)
- ⑯ 機械いじりが好き コンピュータ等. (742)
- ⑰ 無神論ではないが宗派にこだわらない (733)
- ⑱ 万事経済的合理主義 (405)
- ⑲ 旅行 ドライブ とその地方の美味しい食事 (736,734)
- ⑳ 第3の家を日本列島の中央位に建てたい 株で? (711,729)

デモグラフィック属性や性格についての記述はほとんどない。しかし、趣味についての記述が自由な文体で示されており、そこから被験者の人柄もうかがえる。

事例114 男性 63才

- ① 私の故郷は浦和です。(109)
- ② 私は現住所で生まれました。(109)
- ③ 現住所は祖父の代からで明治38年から住んでいます。(208,107)
- ④ 私の生まれたのは昭和のはじめです。(105)
- 5 市内の小学校はその頃 5校でした。(113)
- ⑥ 中学 2年生のとき、大東亜戦争が始まりました。(748)
- ⑦ 中学4年、5年は勤労働員で勉強など殆どしませんでした。(113)
- ⑧ 徴兵検査を受けたのは私たちが最後です。(748)
- ⑨ 中学5年卒業も私たちが最後です。(114)
- ⑩ 戦後は教員となり、40年あまり勤めました。(112)
- ⑪ 音楽は苦手で、オルガンも ピアノ もひけません。(404)
- ⑫ 植木いじりが大好きです。(730)
- ⑬ 旅行や動物を飼うのも好きです。(736,742)
- ⑭ 子供も成人しましたが、老後が不安です。(206,711)
- ⑮ 入院生活は一度だけです。(748)
- ⑯ 薬はどんな薬でも平気で のみます。(705)
- ⑰ 世話好きで、人の面倒をよくみます。(509)
- ⑱ 食べ物は好き 嫌いがあつてなおりません。(734)
- ⑲ 切手、コイン、などの蒐集が好きです。(742)
- ⑳ 現在も元気で勤めています。(302,112)

前半は、生活史、特に戦時中の体験が語られている。生活史の記述は、高齢者に多く見られる。また、⑭には老後の不安も示されているが、これは、中年以降の反応によく見られる。

事例115 男性 66才 1ヶ月(無職)

- 1 陽気である反面、短気。(503,606)
- 2 大体率直に話す。(725)
- ③ 口で話すことよりも書く方を好む。(535)
- 4 人から金品を借りることは好まない。(530)

- 5 大勢の前に出ることは好まない。(620)
- 6 議論好き。(728)
- 7 親切に他人に接する。お人好し。(508,510)
- 8 向う見ずで、失敗することがある。(607)
- 9 他人に鈍感だと言われる。(533)
- 10 動作が若い人より鈍くなっている。反応がおそい。(303)
- ⑪ 自分では筋金を通っていると思っている。(522)
- 12 独りを好む。(534)
- 13 先を讀んで行動を起こす。(405)
- ⑫ 事物を最後まで追求せずにはいられない。(523)
- 15 記憶力が鈍り、忘れることが多い。(408)
- 16 賭事は好まない。(737)
- 17 人前で話すことに抑制を感じる。(535)
- 18 趣味(写真)に生き甲斐を感じている。(730)
- 19 夢は時々見るがすぐ忘れてしまう。(712)
- 20 想像力は強い方。(407)

老人の場合、文章が冗長になりがちであるが、この事例では非常に簡潔な文章で性格が記述されている。また、生活史に関する言及がないのもこの事例の特徴である。

事例116 男性 68才 2ヶ月(医師)

- ① 日本人 (106)
- 2 医師 (112)
- 3 子供 (201)
- ④ 祖父 (201)
- ⑤ 父 (201)
- 6 世帯主 (201)
- 7 医療人 (112)
- 8 兄 (201)
- 9 従兄弟 (201)
- 10 叔父 (201)
- ⑩ 卒業生 (114)
- 12 運動部OB (114)
- ⑬ 産業医 (112)
- 14 名誉院長 (112)
- ⑮ 学会評議員 (112)

- 16 市民 (107)
- 17 県民 (107)
- 18 読者 (713)
- ⑲ 整形外科医 (112)
- ⑳ リハビリテーション医 (112)

すべての回答が役割や肩書になっている事例である。このような反応が含まれることは一般的であるが、すべてがそうなっているものは珍しい。内容を見ると、被験者にとって家族や医師という職業が大きな意味を持っていることがうかがえる。

事例117 男性 69才 11ヶ月(無職)

- 1 私は、子どもの頃わん白でした。(512)
- 2 " スポーツは何でも好きでした。(735)
- 3 " 陸上は選手、すもうも選手でした。(403)
- 4 " 優しい人と云われる。(508)
- 5 " 中肉中背です。(301)
- 6 " 農業をしていて牛を大変愛した。(112)
- 7 " 四年間牛と離れていて再会した折り{牛が}記憶していて涙した(112)
- 8 " 入院生活中祖母が田舎料理を送ってくれた事が忘れられない(208)
- 9 " 友達の世話をよくする(509)
- 10 " 兵隊に行く前、兄弟に洋服を{それぞれに}作った事を今だに感謝されている(205)
- 11 " 庭いじりをよくする。(713)
- 12 " 食物に好ききらいはない(734)
- 13 " テレビではニュース、スポーツが好きである。(743)
- 14 " 旅行には義理で行く。(736)
- 15 " 映画劇等きらい(743)
- 16 " 子供と同居して仲良くしている。(206)

※17~20は無回答(901)

生活史と現在の日常生活が中心に語られている。生活史を記述した反応は時間的な順序に従って記述したものが多いが、この事例では、ところどころに現在の記述が現れるという点で特徴的である。

事例118 女性 60才

- 1 地味なものより 派手なものを好みます (608)
 - ② まる顔で あまり 化粧はしません (301,704)
 - ③ 主人と二人きりで 生活しています (207)
 - 4 身長と体重はバランスがとれています (301)
 - ⑤ 神経質で小さな事■{が} 気■になります (617,720)
 - 6 歩くことが好きで よく歩きます (742)
 - 7 老眼鏡はありますが なくても大丈夫です (303)
 - ⑧ ささいな事でもすぐ病院へいきます (705)
 - ⑨ 小学一年生の孫が ひとり おります (209)
 - 10 歌をうたうことが大好きで どこでも歌いたいです (742)
 - ⑩ 和服より洋服をよく着ています (704)
 - ⑪ 今 血圧 をさげる薬を毎日のんでいます (705)
 - 13 人に物をさしあげることが好きです (509)
 - ⑫ 人に何かもらうと 2倍か3倍にしてお返しします (528)
 - 15 友だちと集って 食べたり のんだりする {の}がすきです (501,734)
 - ⑬ 洋服を 買うのが好きで高くても買ってしまいます (704,729)
- ※17~20は無回答(901)

高齢の女性の反応には、日常生活についての記述の多い傾向がある。しかも、家事や仕事よりも、健康や趣味などについての記述が多い。この事例でも、散歩や服装などの趣味と、健康状態に対する関心が示されている。

事例119 女性 60才(放送大学生)

- ① 私は女性である (103)
- ② 私は二子の母親である (206,201)
- 3 私は 専業主婦である (201)
- ④ 私は、協調性がある (501)
- ⑤ 私は、友情をだいじにしている (118)
- ⑥ 私は 整理整頓が好きである (530)
- ⑦ 私は 日本人である (106)

- ⑧ 私は 負けず嫌いである (611)
- 9 私は、涙もろくて、すぐ感動する (510,605)
- ⑩ 私は 向上心がある (701)
- ⑪ 私は、放送大学の学生である (113)
- 12 私は 内向的である (534)
- 13 私は、同年配の中の平均的体型である (301)
- ⑭ 私は、必ず卒業する (711)
- 15 私は、短気である。(606)
- ⑯ 私は、失敗すると いつまでも悩む (720)
- ⑰ 私は 努力家である (525)
- ⑱ 私は、おしゃべりである (505)
- 19 私は、ロマンチストである (615)
- ⑳ 私は、頑固である (524)

初めにデモグラフィック属性が示され、それ以降はほとんどは性格についての記述で占められている。回顧的な記述は全くなく、むしろ前向きな姿勢が感じられる。

事例120 女性 60才 7ヶ月

- 1 私は人間です (753)
- 2 バカがつく程正直な人間です。(527)
- 3 相手が泣く様なことはしたくない私。(508)
- 4 この人の為と思ったら自分をギセイにでもする私 (509)
- ⑤ 先ず兄妹のためなら自分の身を削ってでもしてやる (205)
- 6 親縁の側を離れきれずとうとう一生独身となった (202,111)
- ⑦ それでも悔いてはいない私 (715)
- ⑧ これから先も生活が出来れば余裕は兄妹にしてやりたい。(205)
- 9 現在六人兄妹の長女 (201)
- 10 兄妹弟の多いことは雑用のいることだけど (205)
- 11 又たのもしいことであると思う私 (205)
- 12 独身の一人住いで他から、うらやましがられる自分。(111,108)
- ⑬ しかし何でもかんでも一人で片付けてゆかねばならない私 (712)
- 14 他人様に一人者の弱いところをみせたくない私

- (611)
- ⑮ 今迄は健康であったが、寝込んだ時は寂しさを感じた。(302,712)
- 16 これから先私も独居老人となってゆくことは確か。(711)
- ⑰ 現在健康な時に少しでも社会の為に民生委員として奉仕中。(302,731,112)
- ⑱ 自分の健康を保ち乍ら出来るだけ社会につくしたい私 (705,731)
- ⑲ 金だけではなく健康第一とつくづく思う私 (729,705)
- ⑳ 周囲の人■に喜んで頂けることが自分の喜びと思う私。(731)

家族のために献身的につくしてきた生活史を振り返り、さらに、社会につくしていきたいという姿勢が示されている。しかし、独身で老いを迎えることに対する寂しさも現れている。

事例121 女性 66才 3ヶ月 (主婦)

- 1 主婦 (201)
- 2 二人の子供の母 (206,201)
- 3 三人の孫の祖母 (209,201)
- 4 目黒区民 (107)
- 5 日本国民 (106)
- 6 元民生委員 (114)
- 7 元町会委員 (114)
- 8 老人クラブ元役員 (114)
- 9 老人クラブ会員 (115)
- ⑩ 会社員の妻 (207,201)
- ※11~20は無回答(901)

これもデモグラフィック属性と血縁的な役割について記述だけで構成されている事例である。反応数も少なく、どちらかと言えば、WAI に対して消極的に反応しているものと思われる。

事例122 女性 66才 7ヶ月 (無職)

- 1 私は一人暮らしの自由を楽しんでいます。(108, 717)

- 2 ぼけない様に週4回もお稽古事をしています (705,713)
- 3 自分の好きな事をしているときは最高に楽しい (717)
- 4 若い時は子育てと姑さんで何にもできなかったがおけいこ事は早い方が良いと思う (206,210,803)
- 5 3人の息子が身を案じてくれて幸福ですが甘えない様気をつけています (206,717,714)
- 6 今の若い方の自由さは想像外です然し楽しくやっておれば良いと思っています。(803)
- 7 小さいながら庭があり花も作れるのです (712)
- 8 私は細々とした物を作りお友達にあげてよろこばれております。(712,116)
- 9 時々友を呼んで食事するのも好きです (116,734)
- 10 年と共に食事の仕度が煩わしくなります。生きる為に頑張っています (712,714)
- 11 出来れば死ぬ迄一人暮らしがしたく、私の力に時にはすがります。(711,733)
- 12 まだまだ若いつもりですが老人問題は身につまされます (706)
- 13 若い等とおだてられますが物忘れは、かくせません (706,408)
- 14 私はじっとしている事が大きいです。テレビを見ながらせつせと編んでいます (512,713)
- 15 一人暮らしといっても■そばに息子夫婦孫がいる良い条件に住んでいます (108,206,209,717)
- 16 私は頭が悪いので考える事俳句等進歩しませんのでかっくりしています (402,404,716)
- 17 友達■には恵まれています。何事も良い方に考える事で楽しく{交}際しています (116,719,717)
- 18 亡き夫は異常な程潔癖で家具の曲がったのが嫌いでしたから随分神経を使いました (207)
- 19 その反動かこの頃のルーズさは自分ながら驚く程です 疲れて出来ない事もあります (616)
- 20 わけのわからない事書いて来て私は恵まれているのだと知りました。貧乏を除けば (717,117)

日常生活を中心に記述されているが、老いの意識や将来の展望、そして自分の境遇に対する肯定的な評価などが現れている。性格やデモグラフィック属性には触れられていないが、被験者の生き方がよくあらわれた事例と言える。

事例123 女性 69才 3ヶ月(会社員)

- 1 私は、大正7年生まれのお婦人です。(105,104,103)
- 2 戦争(前)(中)(後)を生きて来た 厂史の
- 3 人です。(748) いろいろの女の意識・行動等に、大変化■に過ごして来ました。(748)
- 5 但し、この世の中を、健康で、一生懸命に経て来た事を、私なりに、
- 7 ■■■■■■ [注：「昔と違い、」と書いてある] 満足に思ひます。(302,715)
- 8 主人の病気・会社の倒産 子供6人と
- 9 共の年月でした。(207,206) 但し、やりがいを感じ
- 10 ています。(715)
- 11 まだ余命のある事を思ひ、せい一杯生き
- 12 て行く考へです。(711,701)
- 13 子供の頃政治等が 好きでした。(732)
- 14 今も好きです。(732) 大正の女は、強く
- 15 生まれて来ました。(105,521)
- ※16~20は無回答(901)
- ※行を無視して回答が書かれているため、各文の終わりに評価コードを示した。

自分の生活史を振り返り、自己を肯定的に評価している。このような回顧的な反応は老人によく見られる。また、行を無視して回答を書いたものも老人の反応に時々見られる。

事例124 女性 69才 5ヶ月(家事調停委員)

- 1 私は5人{女4人男一人の}きょうだいの長女です。すぐ下の妹は5才ちがい次の弟■は10才下です (201,205)
- 2 小学校入学の時から祖父母に預けられ{小学}5年生の時に母が弟を連れ教員をやめて同居。

- (208, 204, 205)
- 3 昔、村長をした祖父は、きびしい人でしたが読書好きで私も本が好きになり本ばかり読んだ。(208, 742)
 - 4 両親が教育者だったので毎月読む本は限定されていたが日本以外の国の珍しいものゝある事を知った。(202, 803)
 - ⑤ 小学校1年生の担任は女の新卒の先生で最初に姓名を呼ばれた時{《名》さんと呼ばれ}マゴマゴして返事をしなかったら他の子が代返していた。(113)
 - ⑥ 小4の時はじめて裁縫の運針を教わったがノロノロしてとてもノロマだった実技は不得意だった。(113, 404)
 - 7 村から女の子5人が女学校へ、男の子2人が中学校へ入学したが開校以来の大勢という事だった。(114)
 - 8 女学校時代は英語が得意で津田塾での先生の答案はいつもvery good [注：筆記体]と書いてあった事を思い出す。(113, 403)
 - 9 母の兄が大蔵省の理財局長をしていて私の保証人兼身柄引受をしてくれる事となり親の意向で家政科へ。(210, 202, 114)
 - 10 家政科1年生の終わり頃の学芸会で「アルト、ハイデルベルヒ」を一員として出演した事が青春時代の思い出。(113)
 - 11 在学中に校長《姓名》先生の御逝去、2、26事件等忘れられない事がいろいろあります。(113, 748)
 - 12 昭和15年11月23日女学校の同級生の兄でもあった現在の夫と見合結婚した。(207)
 - 13 昭和16年11月夫が新聞社の特派員となって満州へ行っている留守中、長男出生2年後次男出生。(207, 206)
 - 14 昭和20年5月、空襲で自宅焼失、家族4人が揃って生活したのは昭和26年3月からだった。(211)
 - 15 太平洋戦争中、疎開中の無理がたゞり結核となり信州の実家に丸2年6ヶ月{S.23~S.26.3}療養生活をした。(748)
 - ⑩ 長男、次男共大学生となったので何か自分と社会のつながりがほしく調停委員を希望した。

(206, 731, 702)

- ⑪ 3年間の療養生活中夫の裏切り行為があり離婚を思いとどまった経験が役に立った。(207, 112)
- ⑫ 人間は誰でも経験が無い事には本当の理解は出来ないかも知れないがその点運命に感謝。(112, 745)
- 19 S.47.1.26裁判所への出勤途中交通事故に遭い6ヶ月の入院生活を送った。(748)
- ⑬ 実母は95才で現在も健在です。健康な体に恵まれた事は何よりの財産と思っています。(204, 302, 717)

自己の生活史を克明に記述した事例である。このような反応が老人に時々見られる。老年期に至ると、“私とは私の歴史そのものだ”というような個人も多いということであろう。

70才以上

事例125 男性 72才 8ヶ月

- 1 私は大正4年兔の年で次男として生まれた。(105, 201)
- 2 姉、兄、弟、の順で4人 姉と弟はすでに他界した。(205)
- 3 伊那谷南アルプスの麓谷間の村で育った。(109)
- 4 生家は農家で当時村では養蚕もやって居たが現在では何処でもやって居ない (110)
- ⑤ 私しはほがらかな性格で若い頃から唄好きで親にも叱られる程 唄ばかり口ずさんだ (503, 742)
- 6 私しが20才の時父は44才の短命で亡くなった。(203)
- 7 昭和13年11月上京、品川区に在住 採用を待った。(107)
- 8 昭和14年3月24日国鉄、《工場名》就職。64名中4名採用となる。(114)
- ⑨ 職場代表の芸能大会で梅と兵隊を唄った。当時24才 (112)
- ⑩ 木村岳風流 詩吟をやり 日比谷公会堂 等あち

- こち養生所生徒に教えに行く (730,713)
- 11 大東亜戦争の為 妻子を親元伊那谷へ疎開させた。1年間 (207,206,202)
 - 12 戦時中出征兵士を送る度毎に大神宮前で詩を吟じる役をやった (748)
 - 13 《工場名》に学徒動員で小、中、女、学校生徒が来たので指導員となった。(748,112)
 - 14 当時任官制度が有って運輸技官となり 部下40名を持った。(112)
 - 15 昭和44年30年勤続効績章授与表彰となる。(114)
 - 16 昭和46年3月末定年退職となる。当時、55才 (114)
 - 17 昭和46年4月《会社名》就職 (114)
 - 18 《会名》々々長。《会名》副会長。《会名》副議長。等 (115,112)
 - 19 昭和56年《会社名》退職 (114)
 - 20 現在老人クラブ総務 健康にてゲートボールに活躍中 (115,302,735)

反応が履歴書のように記述されている。このような反応は、老人の男性に比較的多く見られる。特に職歴は男性にとって重要なself-imageの要素と言えるであろう。

事例126 男性 77才 7ヶ月 (無職)

- 1 日本国籍である (106)
- 2 平凡なる小市民である (723)
- 3 書籍と友人を大切に思う人間である (742, 116)
- 4 無駄使いの習癖がある (729)
- 5 ギャンブルは嫌いである (737)
- 6 宗教■に関心あるが 一定の宗教を持たぬ (733)
- 7 好奇心は、年齢■に比して旺盛の方である。(516)
- 8 政治に批判的であり、支持政党なし (732)
- 9 現在の社会情勢に対しては、悲観も楽観もせず (731)
- 10 対人関係に対する好き嫌いは、はっきりしているが表面に出さぬ。(603,537)

- ⑩ 人生の終局に近づいているので、アイデンティティを確立して人生を終えたい。(706,701)
※12~20は無回答(901)

これは、生活史を中心に記述したものではない事例の1つである。回答数が少なく、それぞれの回答も短い。内容を見ると被験者の社会や人生に対する態度が表明されている。

事例127 男性 77才 9ヶ月 (無職)

- 1 末子 であまやかされた せいか わがまま (201,601)
- ② 物事に 飽きやすい (604)
- 3 悪を 憎む (527)
- 4 ■ 内弁慶 (うちべんけい) (619)
- 5 子供は女の子3人、男の子が無いのがくやまれる (206)
- ⑥ 子 煩惱 (こぼんのう) (206)
- ⑦ 小 心 (618)
- ⑧ 読 書 が 好 き (742)
- 9 視力が劣えて 読書量極く少ない (303,713)
- 10 物事忘 れっぽい のに 腹が立つ (408,718)
- 11 老衰 が 気になる (706)
- ⑫ 特に ボケて長く生きる? のを忌む (744)
- 13 物 欲 が 少 い (539)
- 14 家を継ぐものは誰も居ない が絶家を厭わぬ (211)
- 15 悔い多い 人生であった が さりげなく 振舞っている (716)
- 16 短歌を作り、人の短歌を ■読むのが好き (730)
- 17 第二歌集を出版したい (711)
- 18 年令 の せいか歌が できない (705,404)
- 19 妻も今は亡き一人暮らし (炊事などできないためもあり) 飽きた (207,108,718)
- ⑳ 人生の軽しさを しみじみ 知った (718)

老いに対する意識がよく現れている事例である。日常生活についての評価も肯定的なものではない。老人ではこのような反応もよく見られる。

事例128 男性 91才 11ヶ月 (無職)

- 1 年を重ねるにつれて自然の恩恵の如何に広大無辺であるかを痛感する 殊に温帯地域の日本に生を得た事を有難く思う。(746)
- ② 人生行路の終点について老化に非ずして老花を咲かせたいと願ふ人がいる。之も結構であるが自分は性格上静かに世を世を去りたいと思つている (744)
- 3 現代に於ける時代の流れは極めて急激である この流れに乗る為には、新聞、週刊誌、新刊書等を読み 変化に遅れないことである (731,714)
- 4 人それぞれに性格も異なり 環境も相違があるので お互い自分に適合した仕事と趣味に生き甲斐を見出して残された人生を明るく楽しく送りませう (714)
- 5 近頃は古い家が毀され 赤青の文化住宅が次々とたてられるのは致し方ないが小供の遊び場さえも無くなって行くことは淋しいことである (731)
- ⑥ 僕は小学校時代を球磨川に沿ふた人吉町の郊外で育つた 人吉は山紫水明の地である 僕の第二の故郷である (109)
- 7 文化が進むにつれて川は汚濁し死の川となっている 小供の頃小川で遊んだ当時は懐かしい 自然を大切にしなければならぬ (748,746)
- 8 自分は13才で熊本陸軍幼年学校に入校し 49才で敗戦を迎えたが 国を挙げての戦争に参加し思いきり御奉公が出来て 負けはしたが今でも軍人になった人生を誇りに思っている (114, 715)
- 9 「老い」は現在社会問題として種々話題になっているが吾々は此事実を素直に認め明るく語り、美しく老いる心がまえがなければならぬ (731)
- 10 健康に恵まれた高令者は 世界最長寿国の一員として 進んで活動の場を求め自己の経験を生かして後進の指導に当たる気持ちが必要である (731)
- 11 健康は人生の原動力である 特に老人は健康に注意して死ぬまで人手を煩わせず 世の為人の為に盡す心がけが 大切である (705)

- 12 風雪に堪えてきた人間的な深み (と温み) のある老人が顔面に笑みをたゝえた枯淡の風貌は尊いものである 自分もかくありたいと思ふ (701)
- ⑬ 「負ふた子に教えられて浅瀬を渡る」と言ふ句がある 老人はお互いに頑固のみでなく若い人の意見を聞く雅量が なければならぬ。(714)
- ⑭ 「老化は足からはじまる」と言はれる 老人は毎日歩く運動をしなければならぬ。然し市街は危険である。自分は室内歩行器を利用している (705)
- 15 昔の川の堤防は石垣で築かれ魚の住処であつた現在はコンクリートを使用する為 魚の住処も制限される 我々は動植物の愛護に努め自然を生かすべく心がけねばならぬ (746)
- 16 自分は恍惚の人にならぬよう心がけている 即ち健康に注意すると共に新聞、週刊誌などを詳細に読むことに勉めている (706,714)
- 17 囲碁やトランプ等は若い時は或る程度興味をもつたがプロになろうと思つたことはない (742)
- ⑯ 乗馬は好きだったので乗るのが楽しみで辛いと思つた事はない (735)
- 19 運動競技の能力は普通程度である 然し若い時水泳と乗馬の競技で一番になったことがある (403)
- ⑰ 自動車其他の事故により植物人間になる人が案外多い 本人はともかくとし看護する身内の人の長期にわたる看護や精神的疲労に対し 深甚の同情と敬意を表する (731)

被験者は91才であるが、回答もかなり長く、身体的・精神的な衰えを全く感じさせない。また、社会的な視点からの考察、他者に対する気遣いなど、人間的な成熟を感じさせる反応である。これは、“人間はいかに老いるべきか”という問いに対する1つの回答を示す事例とも言えるであろう。

事例129 女性 72才 11ヶ月

- 1 (901)
- 2 私は私■です (750)

- 3 私わ お金です (802)
- 4 私わ 私の心です (754)
- 5 私わ 心の心がわかる (405)
- 6 私わ ベット (802)
- 7 私わ ウタ (802)
- 8 私 自分が好き (715)
- 9 私 生きる (752)
- ※10～20は無回答(901)

回答数が少なく、意味内容を理解できない反応や誤字もある。おそらくこれは、拒否の反応ではなく、知的能力に問題のある事例であろう。老人では、このような反応が時たま見られる。

事例130 女性 76才 8ヶ月(無職)

- 1 明治44.9.6 横浜市にて出生 (105,109)
- 2 大正12.9.1 関東大震災にて父を失う。(203)
- 3 大正13. 女学校入学。箏曲を習ひ始める (114,730)
- 4 昭和4.4 《学校名》卒 (114)
- 5 昭和4-8迄 華道 茶道 和裁 手藝 箏曲等 稽古事。(730,742)
- 6 昭和8、4 結婚 京都に住む (111,107)
- 7 昭和9、3 長男出生 (206)
- 8 続いて、11年、13年、16年、4人の男子出生 (206)
- ⑨ 昭和17、8 甲府にて姑死去。(10年同居.) (210)
- 10 昭和20.3月東京、6月東京、8月水戸にて空襲焼け出される (748)
- ⑩ 昭和29、10月8日 4男を 修学旅行の事故で失う。(206)
- ⑪ 38年 家庭裁判所調停委員任命さる (114)
- ⑫ 44年12月主人死去。(207)
- 14 45年3月より 52年3月迄長男家族と同居 (206)
- 15 45年4月より 習字を始める 60の手習ひ 箏曲を又始める (730)
- ⑬ 52年4月より長男転任のため 独り住ひとなる (206,108)
- 17 53年2月より俳画を始める (70の手習ひ)

(730)

- 18 58年3月 現住所へ転居(結婚以来26軒目の家) (748)
- 19 58年10月 藍綬褒賞授賞 (114)
- 20 59年3月 家裁定年退職。(114)

履歴書型の反応例の典型である。しかし女性のためか、戦歴というよりも家庭史のニュアンスの方が強い。また、高齢になると趣味が顕在化することも興味深い。

事例131 女性 78才 3ヶ月(無職)

- 1 老女 (104,103)
- 2 明治末期生れ でよかつた (105,717)
- 3 エイプリルフル で 時々たまされる (406)
- 4 大正時代のことをよく知っている よき時代であった (748)
- 5 歌曲が好きです (730)
- 6 小唄、三味線をたしなんでいる (730)
- 7 謡曲も 三十年位 続いている (730)
- 8 仕舞もやった 発表会にも出た (730)
- 9 鼓も やった " (730)
- 10 日本舞踊もやった " (730)
- 11 お茶のけいこをやっている (730)
- 12 おし絵をやっている (730)
- 13 旅行が好きです (736)
- 14 外国旅行へも行きました (736)
- 15 料理はにが手で下手 (404)
- 16 テレビは暇があれば見ている (713)
- 17 主人と二人の生活がいつまでも続けられるよう祈っている (209,711)
- 18 孫の結婚が心配である (209)
- 19 読書 はあまりしない (713)
- 20 経を 読んでいる (733)

大部分の反応が趣味についての記述となっている。被験者の趣味の広さが理解できる一方で、大正時代へのノスタルジーも感じられる。

事例132 女性 80才(無職)

- 1 私は日本人 (106)
- 2 私は女性。(103)
- 3 私は編物が好きです (742)
- 4 私は裁縫が好きです (742)
- 5 私は犬は(好きです)猫がきらいです。(743)
- 6 私は甘いものが好きです。(734)
- 7 私は芝居が好きです。(742)
- 8 私は男の子を一人持っています。(206)
- 9 私はこのままで良いと思っています。(717)
- 10 私は満足しています。(717)
- 11 近い所に旅行したいと思っています。(736)
- 12 女の子を生めば良かったと思います。(206)
- 13 孫は女の子が好きです。(209)
- 14 テレビはドラマがすきです。(743)
- 15 ニュースも好きです。(743)
- 16 映画もすきです。(743)
- 17 民謡がすきです。(743)
- 18 お野菜の煮たのがすきです。(734)
- 19 好き きれいありません。(734)
- 20 お風呂は大好きです。(743)

日常的な記述で反応が構成されている、老年期の女性における典型的な反応である。特にこの事例では好みについての記述が多くを占めている。

事例133 女性 86才 8ヶ月(無職)

- 1 サラーマンの長女で5名の弟妹が居たので姉さん気質がぬけない (203,201,205,509)
- 2 役に立つが強情が欠点だと母によく叱られる (405,524,204)
- 3 負けずぎらいで頼まれても欠席はしない 小学校は皆出席 (611,114)
- 4 大変な偏食が小学校の時の「かい血病」で苦しみ、食物の好、嫌はなくなった (740,302)
- 5 学校が好きで家事におはれても徹夜で机に向った事もある (113)
- 6 卒業後間もなく三夫婦、二弟、二同居人、女中の大家族に嫁ぐ (211,111)

- 7 大正時代の嫁#すべてが服従の毎日 (211)
- 8 生家での姉さん気質の通じないことを知る (509,211)
- 9 親戚間の交流もあり、複雑な家族構成の中で和の大切さを知る (210,211)
- 10 娘時代の強情さ、負けずぎらいは次第にうすらぐ (524,611)
- ⑪ 嫁として20年、姑として35年今日は感謝の日々。(201,717)
- ⑫ 時代の流れをよそに未だに着物の生活 (741,704)
- ⑬ 美容院を知らない、洗髪、結髪は自分の手で (704)
- 14 時々損をしたと、反省もするがむしろ心は釈然として明るい。(718,717)
- 15 嫁として60年、狂はない起床時間、朝食前の仕事はつづけている。(201,713)
- ⑭ 食事も楽しみ、まだ独り歩きも出来て健康を感謝している (734,705,717)
- ⑮ 2つばかり外での仕事にめぐまれ生き甲斐とする (112,715)
- ⑯ 起床時に1日の予定をたて、消化していくのがたのしみ。(713)
- ⑰ 今迄は経済的にはめぐまれなかったが心の豊かさをよろこぶ (117,717)
- ⑱ 若い頃決意した継続は力なりを目標 (714)

生活史が家族との関連から記述されており、現状に対する肯定的な評価が反応に現れている。全体的に見てしっかりした反応で、人生に対する前向きな姿勢がうかがえる。